

絶対に笑ってはいけない
財団X 24時

鳴神 ソラ

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

Dr.クロさんと共に共同で書き上げた笑つてはいけません！

様々なキャラが登場！

中には書いてる作者の脳内にある作品でのキャラも出て来ちゃう！

笑ってくれると嬉しいな！

目次

スタートから目的地到着まで	1
到着からの机ネタからお昼決定戦まで	39
お昼決めゲームからマリオメーカープレイまで	98
捕まっつてはいけないまで	127
交代の理由からレクレーション大会まで	159
部屋戻りからの所長挨拶まで	192
ヒーロー侵入からおやつまで	223
コンサートからアクシデント発生まで	246
クイズから楽屋裏話まで	269
スペシャルゲスト登場から楽屋裏話その2まで	289
団体バトル開始から終了まで	306
第2の机ネタから報告会へ行くまで	326
報告会から夜の定番始まる前まで	366
驚いてはいけないから終了まで 前半	388
驚いてはいけないから終了まで 後半	407

スタートから目的地到着まで

とある場所、そこで6人の男達がいた。

明久「なんで集められたんだろう？」

雄二「知らん」

秀吉「じゃな」

榊「なんか嫌な予感がするな…」

京谷「嫌な予感？」

鬼矢「ふあゝあ。眠い…」

集められた面々が各々に言っていると誰かが来る。

はやて「お待たせな〜」

秀吉「む？はやて殿ではないか」

明久「あれ？確か僕達狂治くんと呼ばれたんだけど？」

京谷「なんかややこしいな」

榊「確かに同じ読みだな」

鬼矢「んでなんでお前がここにいるんだ？」

何やら白衣を着たはやてに誰も首を傾げる中で鬼矢が聞く。

はやて「それはね。私が適任やと言う事で選ばれたのと、君達には今から財団X研修生になって貰います」

明久「え？もしかしてこの流れ…」

雄二「だな…」

鬼矢「あれか……」

榊「年末恒例の……」

そう言ったはやてのに6人はまさかとなった後にはやては言う。

はやて「ここに来るバスに乗ったら、笑ったら罰があるから気を付けてや」

明久&秀吉「あ、やっぱり；」

雄二「やっぱあれか；」

榊「マジか……」

鬼矢「面倒だなあ……」

誰もがうわーとなる中ではやては置かれていた人1人入れるケースを指す。

はやて「と言う訳であそこに入って置かれてるのに着替えてな」

明久「はい」

榊「まさか俺たちがやるとはな」

京谷「つてことはあれもあるか…」

はやてに促されてそれぞれケースに入る。

しばらくして…

はやて「それじゃあまは明久くん」

明久「…：足が寒いな」

明久の服装：財団Xの白服だけど下が短パン

雄二「寒そうだな…つてか俺の黒いな」

雄二の服装：財団Xの白服を黒く塗ったバージョン

紳「俺のはなんでボロボロなんだ？」

紳の服装：財団Xの白服だがダメージジーンズのようにボロボロになっている。

京谷「俺なんかサイズが違うぞ!」

京谷の服装：財団Xの白服だがサイズが小さくてピチピチ

鬼矢「…：青いなこれ」

鬼矢の服装：財団Xの白服を青く塗ったバージョン

雄二「後は秀吉か…」

明久「秀吉くどうしたの〜?」

その後5人は秀吉の入った所を見る。

そして出て来た秀吉は…

秀吉「……………酷いのじゃ；」

秀吉：財団Xの白服だが女性ものでボン・キュ・ボン＋ガーターベルト付き

明久「秀吉!？」

雄二「……………ぷっ」

秀吉「……………この服とついでに絶対飲めとトリコ殿の世界のペアがあつたのじゃ…」

榊「ぷははははははははは！」

京谷「お、恐ろしいな……………ペア」

鬼矢「て言うか女体化までさせるのかよ……………」

それに明久は驚き、雄二と榊は爆笑して、京谷と鬼矢は冷や汗を流す。

はやて「はいはいはい。そろそろバスが来るから行こうな〜」

そんなメンバーへとはやては手をパンパンさせて注目を集めて促す。

言われた通り、6人は移動するとバスが来る。

はやて「それじゃあバスの乗車口に足を乗せた瞬間、始まるから注意してな〜」

言われた通り、明久が足を乗せるとどこからともなくプアーンと言う音が響き渡る。

その後には6人とはやては乗り込むとバスが発進する。

はやて「ちなみにバスを運転するのはメドゥーサさんです」

メドゥーサ「どうも私です」

明久「メドゥーサさんも役者として出てるのね；」

鬼矢「つてことは俺らの知り合いが役者になってるってことか……」

そう言うはやてにメドゥーサも前を見ながら声を出して言い、鬼矢は誰が出るのやら……と思う。

はやて「まあ、頑張つてや♪」

そう言つてはやてが笑つた時！

デデーン！

一同「？」

なぜかアウトになつた際の音声が響き……

はやて、OUT！

はやて「……はあ!？」

明久「え？」

榊「は？」

京谷「あ？」

まさかの展開にはやても含めて誰もが啞然とした後に黒服を来た兵隊が来て……

パシーン!!

はやて「あいた!？」

はやてのお尻を叩いて退散する。

雄二「どういうこった？」

ブラックキング「はいどーも！」

サンダーダランピア「良い感じに引つかかって良かったッス！」

それに疑問に思っているとバスに乗車していたメドウーサランサーこそアナのフー
ドから声がした後にアナがブラックキングとサンダーダランピアのスパークドールズ
を出す。

はやて「どういうこっちゃ!？」

ブラックキングSD「実は…はやてはんも笑っちゃうとアウトになるんやで！」

サンダーダランピアSD「ちなみに自分等がホントの案内役ッス！」

アナ「私は彼らの運び役です」

明久「そうなの!？」

京谷「マジか……」

告げられた言葉に誰もが驚く。

はやて「打ち合わせの際にそんなのなかった筈やで!？」

ブラックキング「そりゃあ、はやてはんを抜いて本当の打ち合わせしてましたからな」

サンダーダランピア「だからあの時いた面々は仕掛け人とも言えるツス」
アナ「ご愁傷様です」

鬼矢「哀れだなはやて」

榊「ドンマイだぜ」

叫ぶはやてにブラックキングとサンダーダランピアが種明かしして、アナのに鬼矢と榊はそう言う。

はやて「ああ、どうりでなんか皆が温かい目をして桂さんも強く生きろって言ってたんか!」

秀吉「それはまた」

京谷「まあ取りあえず頑張ろうな」

思い出して言うはやてに明久達は冷や汗を掻く。

ブラックキング「と言う訳ではやてはんも含めて再開や!」

その言葉と共にバスは再び動き出す。

明久「はやてさんも入れてか」

はやて「うう、まさかうちも参加者だったとは」

鬼矢「まあ今日一日宜しくな」

そうこうしてる間にバスが停車する。

そして…入って来たのに誰もが噴いた。

王蛇「やつと来たか」

ガイ「待ちくたびれたよね」

こあみ「とかー」

こまみ「ちー」

仮面ライダー王蛇&仮面ライダーガイ+こあみとこまみの登場

ただし、仮面ライダー2人組は：サイと蛇の着ぐるみを着ていた。

しかもお互いにモチーフが違うのを着てる。

デブーン！

全員、OUT！

明久「逆www」

雄二「なんでお互いに契約してる奴を入れ替えて着てるんだよw」

榊「くくくwww」

鬼矢「なにやってるんだよwww」

バシーン！

雄二の言う通り、王蛇はサイ、ガイが蛇のを着ていると言うのに笑いのツボを突き、7人は尻を叩かれる。

ガイ「そう言えばこんな事あったよ」

王蛇「ほう、どんな事だ？」

そんなメンバーを気にせずガイと王蛇は話を続ける：顔にこあみとこまみを張り付けて：

明久「そのまま話すのww」

はやて「よお出来るなw」

榊「器用だなww」

京谷「どかせよwww」

デーン！

明久、はやて、榊、京谷、OUT！

パシーン！！

叩かれるのを見た後にガイは話を続ける。

ガイ「いやね。食レポの収録の時に貴音がさ：ポリユームたつぷりな肉を食べた後：ラーメンをチャーシュー多めの大盛りで食べたんだよ」

雄二「食レポので食べたのに自分の好きなのを食べたのかよw」

鬼矢「こんなことで笑うなよ雄二；」

明久「と言うか雄二だって似た様な感じに食べるじゃん」

デーン！

雄二、OUT！

パシーン！！

雄二「つつう！仕方ねえだろ大盛りが腹持ち良いんだからよ」

明久のツツコミに雄二はそう返す。

王蛇「ああ、そうらしいな…着ぐるみを着た状態で」

榊「ぶつｗｗわ！？」

京谷「つｗｗわ！？」

秀吉「そのまままで食べるとはｗｗ」

はやて「なんでぬがへんねんｗｗ」

王蛇の言った事と共に現れたカンペに張られた写真に写る着ぐるみに4人は笑う。

デーン！

榊、京谷、秀吉、はやて、OUT！

パシーン！！

4人が叩かれている間にバスが停止して王蛇とガイは降りる。

ガクッ！

ガイ「おおっ!？」

こまみ「ちー！」

その際、ガイがこけた。

鬼矢「おいおい、大丈夫か…」

それに鬼矢は呆れた後に嘖いた。

ガイ「はい、大丈夫」

顔を上げたガイの…：貴音のお面が…

はやて「何時付けたんやwww」

鬼矢「つw…：ww！」

明久「不意打ち過ぎるwww」

秀吉「まったくじやwww」

榊&雄二&京谷「wwwwww」

デデーン！

全員、OUT！

流石にそれには鬼矢も含めて爆笑してしまう。

バシーン！

叩かれた後にバスは動き出し、流石にあれは不意打ちだった…と鬼矢は呟く。

明久「いやー…：ガイさんまさかこけたのも笑いの範囲だったのかな？」

アナ「それはノーコメントです」

雄二「だよな」

鬼矢「流石に教えてはくれないか」

榎「まあ仕方ないか」

お尻を磨りながら呟く明久のにアナはそう返し、流石に教えられたら企画じゃないしな…と思っていると…

パラリラパラリラ

ブラックキングSD「は、暴走族や、暴走族が外におるぜ！」

サンダーダランビアSD「外を見るツス」

軽快な音が聞こえて来て、2匹の見なきや強制アウトになるなど考えて6人は外を見る。

外を見ると…ビーストIS数取団参上と言うのにバイクに乗った数取団がいた。

明久「暴走族じゃない!？」

榎「なんだよ数取団って!？」

京谷「聞いたことねえぞ!？」

思わずそれにツッコミ組は叫ぶ。

ビーストI S数取団初代ぶっ込み総長　メガトロン（メガロ・ボーデヴィツヒ）

メガトロン「数取団初代ぶっ込み総長やらせてもらってるメガトロンだけど、笑ってはいけないと言う事で笑わせようと頑張るんで夜露死苦！」

『夜露死苦！』

鬼矢「んなことより数取団って随分なつかしいな!？」

名乗りあげるのを聞きながら鬼矢はそう言う。

ペングー「おっしやあ！」

ビーストI S数取団副総長　南極の爆裂ペンギン　ペングー（ブレイク）

ペングー「ビーストI S数取団副総長をやらせて貰うペングーだけどよおお!! 後ろのジャーイのでバランス取るのが大変だけど夜露死苦！」

『夜露死苦w w』

ジャーイ「ジャーイ!!」

ビーストI S数取団乱闘生　黒毛バカツファロー　ジャーイ（ビッグホーン）

ジャーイ「ビイイイストIS数取団乱闘生のおおおお！ジャーイだけだよおおおおお！流石にリアルで走るのに乗っても大丈夫かとライオコンボイに心配されたけどおおおおお！無視しましたあああああ!!馬鹿やろおおお!!今バランス取るのに必死なんじゃよおおお!!」

明久「必死なのww」

はやて「と言うか無理し過ぎやろww」

榊「wwwwwwww」

デデーン!

明久、はやて、榊、OUT!

ペングーのは我慢できたがジャーイの上に上記の3人は耐え切れず笑ってしまい、バスが止まるとビーストIS数取団も止まる。

バシーン!!

明久「普通に笑っちゃうよ」

京谷「だよな」

鬼矢「つかチャンネル違うだろ」

そう漏らす明久に京谷も頷くと鬼矢がそう言う。

メガトロン「そこは気にしちゃいかんでしょ！お仕置き！」

そう言つてメガトロンは何かを取り出してぽちつと押す。

はははははwww

すると京谷の声が流れる。

デデーン！

京谷、OUT！

明久&秀吉&はやて「ええ!？」

京谷「なんで!？」

流れるに鬼矢が強制アウトになると思つていたらなぜか京谷だったのに本人も含めて驚く。

パシーン!!

メガトロン「あ、いけねえ、間違えたべえ」

ペングー「おいおい、間違えちゃダメだろ総長」

京谷が叩かれている間にメガトロンはこつちこつちだこつち…と別のを取り出してポチつと押す。

ふふつww

ははははははwww

デデーン!

鬼矢、榊、OUT!

榊「今度は俺達の!?!」

鬼矢「おい、どういうことだ!」

鬼矢はなんとなく分かるが榊まで交じってるのになんで?と思つたら…

ピースト数取団乱闘生　ちっこいマスコット兎　ラツちゃん（ラウラ・ボーデヴィツヒ）

ラツちゃん「数取団乱闘生のラツちゃんだけとおお!…母上に渡されたのを押しつらんなんか鳴つたのだが?（・ω・?）」

ペングー「あなたの仕業かww」

どうやら総長の娘であるラツちゃんが興味本位で押した様だ。

パシーン!

雄二「押すなよ」

榊「つかそれガイアメモリ!?!」

思わず雄二がツツコミを入れる中で榊は叩かれたお尻を抑えながらメガトロンたち

が何を押したかに気づいて叫ぶ。

ブラックキング「あれは財団X特製ボイスメモリ、押すと記憶された声が再生されるんやで」

はやて「ええ!？」

鬼矢「なんだと!？」

ブラックキングの説明に誰もがんなのあり!？と思つたがバスは走行を再開する。

ビーストI S数取団 アタリメルール部長 イカ（スクーバ）

イカ「かあああず取団乱闘生イカですけどおお! すいませんがあ…お宅の奥さん、僕のゲソをおつまみにしてるでしょ?」

雄二「外見のまんまかよww」

鬼矢「くつwww!」

デデーン!

雄二、鬼矢、OUT!

次のイカの自己紹介には雄二の他に我慢強い鬼矢も思わず吹いてしまう。

パシーン!

イカ「してるでしょ？イカ夜露死苦！」

ビーストIS数取団『夜露死苦！』

ビーストIS数取団乱闘生 地味な兎兄さん ラビット（スタンピー）

ラビット「数取団！乱闘生ラビット！地味枠の僕に一言、アカンアカン、今回笑わせ
て地味じゃない事を広めないと！」

はやて「自分で地味枠ってww」

秀吉「普通に言わんぞw」

榊「つか地味なのかよw」

デブーン！

はやて、秀吉、榊、OUT！

続いているラビットのにはやてと秀吉に榊が笑う。

バシーン！

ラビット「外野で笑われてるけど夜露死苦！」

ビーストIS数取団『夜露死苦！』

「ビースト数取団乱闘生 ツッコミ侍 モツピー（篠ノ之箒）」

モツピー「数取団乱闘生のモツピーだけどおおお！…総長、流石に間違えたのはいけないのとラツちゃん。もうちよい考えて押せ」

明久「あ、普通だ」

雄二「普通だな」

鬼矢「普通の奴だな」

京谷「普通だな」

次のモツピーのに誰もがほっこりした。

モツピー「なんかほっこりされたみたいで夜露死苦！」

『夜露死苦！』

ビーストIS数取団 π乙モンスター リンリン（鳳鈴音）

リンリン「数取団乱闘生のリンリンだけどお、いつもの場所でもないけどモツピーの胸を揉むぞ」

モツピー「おい」

『いつも通りじゃんww』

はやて「次の子が普通やないww」

鬼矢「ん？そうか？うちにも居るぞああいうの」

デーン！

はやて、OUT！

明久「確かにこつちも知り合いに…ね…」

秀吉「ムツツリーニおつたら鼻血噴いてたじやろうな」

榊「確かにそうだな；」

京谷「にしてもキャラ紹介長くねえか？あまり長いと着いちやうぜ？」

鬼矢のに頷く明久と秀吉の後に京谷がそう言う。

リンリン「長い仕方ないじゃない。数取団だから。夜露死苦」

ビーストIS数取団『夜露死苦ww』

その言葉の後に停車駅に止まる。

ブラツクキング「はい、ここでお知らせや。遅刻していた8人目の参加者が今合流したで」

明久「8人目？」

雄二「まだいたのか？」

榊「おいおい、どんどん増えるな」

京谷「一体ラストは何人になるんだ？」

ブラックキングSDの報告に7人はがやがやしてると：

ティーチ「どーも、ティーチでございますw」

デーン！

ティーチ、OUT！

入って来て開口一番に笑ったティーチに音声が宣言する。

明久「いきなりw」

雄二「おまw」

はやて「バカやろw」

榊「ぶつwww」

京谷「卑怯だろこれwww」

まさかいきなり笑うと言うのに秀吉と鬼矢を除いてつられて笑う。

デーン！

明久、雄二、はやて、榊、京谷、OUT！

秀吉「まさか参加者がいきなり笑って、笑いを取るとは…」

鬼矢「新しいスタンスだな」

パシーン！

ティーチ「いや〜こういうのに参加出来る事に拙者は嬉しい限りでございますよ」
叩かれるのを見ながらそう言う秀吉と鬼矢にティーチはそう言う。

サンダーダーランビア「と言う訳で8番目の参加者はエドワードⅡティーチさんツス」
アナ「ちなみに、最後まで行く参加者はこれで全員ですの〜」

そう言うサンダーダーランビアとアナのにさよか…と鬼矢は呟くとバスが動き出し、
ビーストIS数取団も発射する。

メガトロン「と言う訳で初めての走りになるけど今回もぶっこんで行くんで夜露死苦
!!」

ビーストIS数取団『夜露死苦!』

メガトロン「笑いも必要だけど、間違えたら罰があるのは忘れない様に夜露死苦!」

ビーストIS数取団『夜露死苦!』

明久「あ、始まるみたい」

雄二「と言うか番組と言うのだから出来る事だな」

ブラツクキング「ちなみに順番はメガ様&ラツちゃん↓ペンギー&ジャーイ↓ラビツ
ト&イカ↓モツピー&リンリンと言う感じになるで」

榊「コンビでやるのか」

鬼矢「そこらへんは違うんだな」

説明を聞いてほうと感心する間にメガトロンがせーのと合図して始まる。

『ブン！ブン！ブブン！』

ラツちゃん「エビチャーハン！」

『ブン！ブン！』

ペンギー「I皿」↓GOOD

『ブン！ブン！』

ジャーイ「FX」↑溶かした顔

明久「ぶふっww」

雄二「その顔で反則だろw」

秀吉「くくくw」

はやて「あかんわw」

ティーチ「これは笑うw」

鬼矢「くっww」

榊「マジやべえww」

京谷「www」

数取団現象1 いきなりのFXのぶっこみで参加者全員の笑いを見事取ったジャー

イ

ラビット「2 ロット！」

『ブン！ブン』

イカ「FX」↑溶かした顔

『ブン！ブン！』

モッピー「3 ロット」

『ブン！ブン』

リンリン「恋のホイホイチャーハン！」

『ブン！ブン』

メガトロン「4 曲」↑GOOD

『ブン！ブン！』

ラッチちゃん「エビチャーハン！」

『ブン！ブン！』

ペンダー「5 皿！」

『ブン！ブン！』

ジャーイ「恋のホイホイーン！」↑×

『アウト!!』

ペンギー「おいコラバカ和牛！」

ジャーイ「ジャアアアアアアアア！」

パラリラパラリラ〜！

ペンギー&ジャーイ（特別試合1試合目）

笑いを取ったのは良いが噛んじやったジャーイにペンギーも巻き込まれ、バスと共に止まると土俵の様なのが現れてさらに相撲ロボットが現れる。

明久「なんか出た!?!」

榊「相撲ロボット!?!」

それに誰もが驚いている間にジャーイとペンギーは連れて行かれ：

ペンギー「うおおおおおお!?!」

ジャーイ「ジャーイー!!」

見事に投げ飛ばされる。

デデーン！

全員、OUT！

秀吉「FXので笑ったのじやな；」

鬼矢「あれは仕方ない……」

その後アウトの音声で鳴り響いて、あれはホントにねと誰もが頷く。

パシーン!!

夜露死苦二

ペングー「バカ和牛がやらかしてくれただけど、気合入れていくんで夜露死苦!」

『夜露死苦!』

ペングー「せーの!」

『ブン!ブン!ブン!ブン!!』

ジャーイ「アチョー!」

『ブン!ブン!』

ラビット「1発!」

『ブン!ブン!』

イカ「アチョー!」

『ブン!ブン!』

モツピー「2発!」

『ブン!ブン!』

リンリン「課長!」

『ブン!ブン!』

メガトロン「3発」↑?

『ブンブン！ブンブン！』

ペンギー「総長、さつきりんリンが言ったの：普通に課長だから3人じゃね？」

イカ「確かにペンギーの言う通り人ですから3人が正解だな」

数取団現象2 かちよー× 課長○

メガトロン「は!?!しまった!?!」変顔

明久「なぜ変顔w」

はやて「唐突に入れよったw」

ティーチ「急な笑い取りはNGでござるぞww」

榊「だよなww」

パラリラパラリラ〜!

メガトロン&ラツちゃん（特別試合1試合目）

間違えた事でショックを受けたと見せかけて笑いを取ったメガトロンと巻き込まれ

たラツちゃんに：今度は禿げの軍団ロボットが現れた。

明久「あれ、色とり忍者のツボ押し軍団だ!?!」

鬼矢「あれ？色とり忍者は綱引きじゃなかったか？」

雄二「ああ、最初はツボ押しですよ。途中から綱引きになったんだよ」

驚く明久の隣で首を傾げてそう言う鬼矢に雄二が教える。

メガトロン「あいたたたたたた!?」

ラッチちゃん「(ーωー)」

数取団現象3 ラッチちゃんは普通に気持ちいいマツサージ

雄二「おい、鼻肩されてるぞw」

鬼矢「確かにそうだか……それで簡単に笑うなよ雄二」

つい笑う雄二に鬼矢は呆れる。

デデーン!

明久、はやて、ティーチ、榊、雄二、OUT!

パシーン!!

夜露死苦三

メガトロン「時間的にこれが最後になると思うんで長く行くんで夜露死苦!」

『夜露死苦!』

メガトロン「最後間違えたら特別篇だけにゴリさんのありがたい一発が来るんで夜露

死苦!」

『夜露死苦!』

明久「ゴリさんってメンバー的にピーストコンボイ?」

秀吉「じゃろうな」

鬼矢「さて次は誰がミスるんだろうな」

出て来た名前にそう言う明久に秀吉は同意する隣で鬼矢は興味深そうに見る。

メガトロン「せーの！」

『ブーン！ブーン！ブブブーン』

ラッチちゃん「田中！」

『ブーン！ブーン』

ペンギー「1タイキック！」

『ブーン！ブーン！』

ジャーイ「田中!!」

『ブーン！ブーン！』

ラビット「2タイキック！」

『ブーン！ブーン』

明久「あれれれれれ!?なんか続いてる!？」

雄二「おい、もしかして笑ってはいけないだから特別ルールな感じか!？」

ティーチ「笑ってはいけないだけに田中はタイキック多いからでござるか!？」

榊「田中⇨タイキックなのか!？」

数取団現象3 田中⇨タイキック

まさかのに誰もが驚く中でまだ続く。

イカ「田中！」

『ブン！ブン！』

モツピー「3タイキツク！」

『ブン！ブン！』

リンリン『田中！』

『ブン！ブン』

メガトロン「4タイキツク！」

『ブン！ブン！』

ラツちゃん「田中！」

数取団現象4 このまま田中押しか？

『ブン！ブン』

ペンギー「5タイキツク！」

『ブン！ブン！』

ジャーイ「田中ああああああああああああ！！」

『ブン！ブン！』

はやて「伸ばしたw」

ティーチ「なぜ無駄に伸ばしたしww」

榊「ぶつwww」

数取団現象5 笑いを取る為にわざと伸ばすジャーイ

ラビット「6タイキツクw」

『ブンブン！』

イカ「田中〜」渋い声

明久「くふw」

秀吉「確実に笑いを取りに来とるぞw」

榊「ぶつwww」

数取団現象6 同じく笑いを取りに行くイカ

雄二と京谷、鬼矢は耐えている。

モツピー「7タイキツクw」

『ブン！ブン』

リンリン「田中！」

『ブン！ブン』

メガトロン「8タイキツク！」

『ブン！ブン』

ラツちゃん「田中〜」

『ブン！ブン！』

ペンギー「9タイキック！」

『ブン！ブン』

ジャーイ「西原京谷！」

『ブン！ブン！』

ラビット「10タイキック！」↑×

京谷「おい待て、なんで俺の名前が出るんだよ!？」

まさかの自分の名前が出た事に京谷はツツコミを入れる。

イカ「ラビット、流石に連続で続いたとはいえ、普通に10人だぞ」

ラビット「や、やっちゃった！」

デデーン！

明久、秀吉、はやて、ティーチ、榊、OUT!

ティーチ「む？何やらあちらのが始まる前に鳴りましたな」

宣言が流れた事にティーチが言い、確かに…とさつきまでのを見て誰もが思っている

と…

デデーン！

京谷、タイキツク！

京谷「……は？」

明久「あれ前振り!？」

雄二「もしかしたら俺らの可能性もあつたと言う事か；」

鬼矢「あぶねえなおい」

それに京谷は呆気にとられ、明久も驚く隣で雄二と鬼矢はそう言う。

パシーン！

黒服のが現れて、笑った5人を叩いた後に：

インペラー「じつとしとけよ…」

仮面ライダーインペラーが登場して、京谷を外に連れ出す。

京谷「おい待てやめ……」

インペラー「ほいさ!!」

待ったを聞かずにインペラーはタイキツクを叩き込む。

京谷は目を見開いて、タイキツクが炸裂したお尻を抑える。

明久「あれは…きついね；」

雄二「だな」

鬼矢「つか変身してやるなよ；」

ブラックキング「いや、本人曰く、あれがデフォだそうやで」
アナ「変身しているのではなくライダーとして存在しているとか」
悶える京谷を見て言う明久と雄二の後に言う鬼矢へブラックキングとアナはそう言う。
う。

あふう「なの！」

そこにあふうが現れ：インペラーの男の急所に突撃した。

インペラー「ぼう!？」

明久&雄二「うわあ…」

はやて「いきなりwww」

ティーチ「拙者も経験した事あるのでこれはきついww」

鬼矢「男性にとつての急所だろアレ」

デーン!

はやて、ティーチ、OUT!

崩れ落ちるインペラーを見て明久と雄二、秀吉に榊は顔を青ざめて抑え、はやてとティーチが笑う隣で鬼矢はそう言う。

パシーン!!

パリラパリラ〜!

2人が叩かれた後に音楽が鳴り響く。

明久「そう言えば数取団の奴」

秀吉「まだやってなかったから今やるみたいじゃな」

鬼矢「そうみたいだな」

ラビット&イカ（特別試合1試合目）

と言う訳でラビットとイカの前に奴が現れた！

ビーストコンボイ「ガッデム!!」

数取団現象7 サンングラスを付けたビーストモードのビーストコンボイ登場

明久「まさかの蝶野さん枠!」

はやて「あ、あかんわwww」

ティーチ「凄くシユールwww」

鬼矢「ぶつwww」

現れたビーストコンボイの恰好に鬼矢も笑ってしまう。

ラビット「か、軽めでお願いッブ!」

言い切る前にラビットはビンタが炸裂する。

雄二「思いっきり行きやがったw」

秀吉「これは痛いw」

鬼矢「つかマジビンタだろあれ」

倒れるラビットの後にイカは直立する。

イカ「覚悟は決めてます！」

ビーストコンボイ「良い根性だ行くぞ！」

そう言った後にビーストコンボイは気合を入れ：

ビーストコンボイ「どりゃあ！」

イカ「ノシイカ!?!」

明久「最後のww」

雄二「のされたからノシイカってかw」

榊「ぶっww」

デアーン！

全員、OUT！

最後の最後に笑いを取ったイカのについて全員アウトになった。

パシーン!!

ビーストコンボイ「あ、お疲れ様でした」

ビーストIS数取団『お疲れ様でした!』

数取団現象8 礼儀正しいゴリラさん

礼儀良く挨拶するビーストコンボイにビーストIS数取団も挨拶して、それぞれ帰る
…徒歩で

明久「徒歩なのw」

ティーチ「バイクの意味はww」

鬼矢「それなら大丈夫のようだぞ」

それに思わず明久とティーチは笑ってしまう。

はやて「え？」

スダダダダダダダダッ！

鉄人「キサマラア！不法投棄をするなあ！」

そこに警官姿で駆け足で来る鉄人が現れる。

雄二「鉄人ww」

秀吉「まさかの警官で登場とは」

メガトロン「あ、やべ、駐車する場所間違えた！皆の者！逃げるぞ！」

リンリン「逃げるのね！」

そのまますたこらさつさと逃げる。

デデーン！

明久、ティーチ、雄二、OUT！

パシーン！

はやて「駐車する場所間違えた：ってそう言えば何時の間にか入口の様な場所に……」
ブラックキング「そう！此処こそ、舞台となる財団X支部やで！」

見届けてから気づくはやてのにブラックキングが告げる。

ついに目的の場所へ辿り着いた一同。

そこでも笑いの刺客が待ち受ける！

到着からの机ネタからお昼決定戦まで

前回の最後に目的地に到着した雄二はしっかし…と目の前の建物を見上げる。

雄二「でっけえな…」

鬼矢「此処が支部なのか……」

その大きさに誰もが声を漏らす。

アナ「階数は3階までであり、建物の広さは良くある小学校か中学校位あると思ってください。こことは別にバス移動になりますが野球場位の広いグラウンドもあります」

明久「そうなんだ」

秀吉「グラウンドと言う事は…」

鬼矢「アレもあるってことか。面倒だな…」

ブラツクキング「はいそこ、メタ読みなしやで〜とにかく入るで〜」

アナの説明を聞いて、うげーとなる秀吉と鬼矢へブラツクキングは注意した後促して一同は中に入る。

サンダーダランピア「そうそう、入り口前に所長の絵があるから見るツス」

そう言われてメンバーは絵を見て…笑った。

つ、博士を恰好をし、ジユウシマツの頭を被った松野十四松

明久「読み繋がりwww」

はやて「あかんわこれ普通に笑うわ」

ティーチ「とう言うか盛り過ぎwww」

秀吉&雄二「くふw」

榊&鬼矢&京谷「ぶつww！」

デデーン！

全員、OUT！

パシーン！

不意打ちとも言える絵にこれは笑うよな…と実際に見て笑ったアナとブラックキングは叩かれるのを見ながら思った。

明久「凄い組み合わせだった…」

ティーチ「確かにあれは笑いを取るにはめっちゃ効果抜群な組み合わせでござるからな」

鬼矢「確かにな……」

榊「とりあえず中に入ろうぜ。他のが来る前によ」

確かにと誰もが絵をもう一度見ない様にアナの後ろを続く。

しばらくして何事もなく、とある部屋の前まで着く。

アナ「はい、この部屋でしばらく休憩してください」

そう言つてアナが扉を開けて、8人を中心に促す。

8人が入ると良く本家で見える机が中央に配置されていた。

明久「入つてから何もなかったね」

雄二「そうだな」

榊「油断はするなよ。こつからは引き出しネタだぞ」

京谷「一体何が入っているんだ」

それぞれの名前が書かれた机に着席する中で榊と京谷のに誰もが自分のを見る。

雄二「んじゃあ…明久。お前から時計回りで」

明久「え？僕？」

雄二に言われて明久は自分を指す。

ちなみに時計回りだと明久↓榊↓雄二↓京谷↓秀吉↓鬼矢↓はやて↓ティーチとなる。

明久「それじゃあ行くよ」

ガラッ！

明久「…封筒？」

1 段目の中身：封筒3枚

ティーチ「中に笑いの絵が入っていると見ましたな」

鬼矢「いやもしかしたら別のももしれねえぞ」

封筒を見て言うティーチに鬼矢がそう指摘する。

明久「えつと二段目…ボタン？」

2 段目の中身：スーパークイコボタン

秀吉「押したら何が起こるのじやろうか…」

榊「嫌な予感がするな…」

誰もがボタンにごくりとなる中で明久は3段目のを開ける。

明久「おう…」

中身を見た明久は机に突っ伏す。

雄二「何があつた明久!？」

京谷「大丈夫か!？」

その様子に何が入ってるんだと7人が思うと明久は中身を出す。

3 段目：胸を強調するポーズを取ってるスクール水着を着た吉井玲のフィギュア

明久「身内として…笑うより恥ずかしさが来ました(www)」

ティーチ「oh…」

はやて「玲さん…凄いアピールやで」

鬼矢「つかこれ誰が作ったんだ？」

顔を手で覆う明久にティーチはと言えば良いか分からず、はやては感嘆する中で鬼矢が精巧なのに首を傾げる。

雄二「んじゃあ、次は榊だな」

榊「何が出てくるんだ…」

ガラッ！

榊「ん？これはガイアメモリ？」

榊の1段目：ガイアメモリ

はやて「ま、まさかさつき出て来たボイスメモリやない？」

ティーチ「つまり榊氏の笑いの声か！」

カチッ

がははははははははは！

デーン！雄二、アウト！

雄二「おい待て!？」

試しに押ししてみたら雄二の笑い声が響き渡る。

パシーン!!

明久「まさか雄二の笑い声だったなんて；」

秀吉「うむ」

雄二「次の引き出し開けるよ」

カチツ

ガハハハハハハハハハハ!

デデーン! 雄二、アウト!

雄二「榎イイイイイイイイイ!」

そう言った雄二に榎は引き出しを開ける前にもう一回ガイアメモリを押して雄二の笑い声を出す。

ティーチ「もう一回ww」

はやて「連続でしちやうかww」

榎「くくくwwこりやいな」

デデーン!

ティーチ、はやて、榎、アウト!

それに思わずティーチとはやては笑ってしまい、榎も笑う。

パシーン!!

秀吉「それで2段目は何が入っておるんじや？」

榊「えつと……」

促され、榊は2段目を開けて中を見る。

榊「……なんだこりや？」

榊の2段目：何の変哲もないガム？（いたずらガム）

明久「なんでガムが？」

雄二「1枚出てるな」

榊「食べるか雄二」

そう言つて榊はガムを差し出す。

雄二「お、いいのか。んじやあ……」

そう言つて雄二は手を伸ばして掴むと……

バシン!!

雄二「つう！」

はやて「ああ、いたずらガムやったんかw」

ティーチ「見事に引つかかったでござるなw」

榊「くくつww」

デーン!

はやて、ティーチ、榊、OUT!

雄二「くそ、普通に抜いてた…」

パシーン!

挟まれた指を振りながらそう呟く雄二の後に榊は3段目の扉を開ける。

榊の三段目：現人神なみいこのフィギュア

榊「お、みいこ姉のフィギュアか」

明久「凄い違和感ない」

ティーチ「巫女服もまた似合っておりますな」

はやて「ほんまやな」

それを見て平然としてる榊の後に明久とティーチにはやても感嘆する。

鬼矢「次は雄二か」

雄二「んじゃあ開けるぞ」

それだけなので促す鬼矢に雄二は1段目のを開ける。

雄二の1段目：DVD

雄二「DVDだな」

ティーチ「まさか…」

鬼矢「取り敢えず再生してみるか」

それを見てそう言う鬼矢に全部開けてからのが良いだろうと雄二が言う。

雄二「2 段目……ぶふw」

デデーン！

雄二、OUT！

2 段目を開けて中身を見た雄二は笑う。

何を見たんだと誰もが思うと雄二は中身を見せる。

雄二の2 段目：ハイテンションなりヨぐだ子のぬいぐるみ

ティーチ「何これw」

はやて「凄い顔やなw」

榊「クククツw w w w」

カチツ

がははははははw w w w w w w

デデーン！

ティーチ、はやて、榊、雄二、アウト！

雄二「榊てめええええええ!!」

ティーチとはやて、榊は笑うが榊はガイアメモリで雄二もアウトに誘う。

パシーン！

明久「僕達のなくて良かったですね；」

鬼矢「そうだな…」

それを見てそう言う明久に鬼矢は同意する。

雄二「三段目は…なしか…んじやあ京谷だな」

京谷「俺の番か…：おりや！」

ガラツ！

謎の箱（時限爆弾）

現れたのになんだと思つたら時間が表記されていて、さらにピツピツと言う音と共に減っていく。

ティーチ「まさか時限爆弾!?!」

はやて「うえ!?!」

京谷「何イ!?!」

パカッ！

その後の一部が開いてハサミと二本のコードが現れる。

秀吉「切れみたいじゃな」

京谷「マジかよ!?!」

ピツ…ピツ…ピツ…ピツ…

その間もタイマーは進んでおり、京谷以外は離れて見守っている。

京谷「ど、どっちを切れば良いんだ……」

ピッ…ピッ…ピッ…ピッ…

赤と青の配線を前に迷う京谷を知らずにタイマーは進む。

明久「京谷、君の好きな色に近いのを切るのは？」

雄二「いや流石にそれは無理じゃねえか」

鬼矢「確かに好きな色でもしかしたらアウトかもしれないしな」

ティーチ「そう思わせようとしたのが見た目は子供、頭脳は大人の名探偵の劇場版」

作目でありえませんでしたしな」

そう提案する明久のに雄二と鬼矢がそう言い、ティーチも同意する。

榊「おい、あと20秒しかないぞ」

京谷「ええい！この色だ！」

ブチン！

榊に急かされて京谷は赤と青のウチ、赤色を切る。

秀吉「どうなったんじゃ？」

恐る恐る秀吉が言った時…

ピッー！

ズドオオオオオン！

凄まじい音と共に：CO₂ガスが白い煙と共に噴射して京谷を真っ白にする。

はやて&雄二「ぷっ w」

ティーチ「真っ白け w w w」

明久「これは w」

榎「ぶぶっ w w」

デデー！

明久、雄二、はやて、榎、ティーチ、OUT！

秀吉「大丈夫か京谷；」

鬼矢「真っ白になったな」

京谷「げほっ：大丈夫じゃねえよ」

声をかける秀吉と鬼矢に京谷はそう返す。

パシーン！！

少しして全身にかぶった白いのを落とした後に京谷は三段目のを開ける。

京谷「ぶっ!？」

すると三段目を見た京谷がいきなり噴いた。

明久「いきなりどうしたの!？」

ティーチ「何か嘖き出させる物が!？」

誰もがいきなりのに驚いた後に京谷はそれを出す。

京谷の三段目：レースクイーンな咲のフィギュア

明久「あ、うん…なんか気持ち分かる；」

ティーチ「と言うか明久殿と似たネタwww」

はやて「似たネタかいなw」

榊「確かにwww」

デブーン!

ティーチ、はやて、榊、OUT!

それに明久は同情し、上記3人は笑う。

秀吉「次はわしじゃな」

鬼矢「秀吉のは何だろうな」

緊張しながら秀吉は1段目のを開ける。

秀吉「1段目は…なしじゃな…」

秀吉の1段目：なし

次のを…と2段目を開ける。

秀吉「ん…服のボタン？」

2 段目：服のボタン

明久「服のw」

雄二「なんでだよw」

はやて「不意打ち過ぎるわw」

ティーチ「ボタン違いですなw w」

榊「違いすぎるだろw w w」

それに上記5人は笑う。

デデーン！

明久、雄二、はやて、ティーチ、榊、OUT！

パシーン！

秀吉「不意打ちのじゃな：」

鬼矢「そうだな：。三段目はなんだ？」

そう言う秀吉に同意しながら鬼矢は促す。

早速三段目を開ける秀吉は：顔を赤くする。

秀吉「これは：はずい」

明久「どうしたの秀吉!？」

はやて「何が入っておったん？」

鬼矢「もしかして自分のフィギュアか？」

まさかの反応に誰もが見ると秀吉はおずおずと出す。

秀吉の三段目：秀吉をお姫様抱っこしている清水美春のフィギュア

明久「あ、なんか微笑ましい」

ティーチ「あ、これ笑いかかじゃなくて微笑ましくなる奴ですわ」

はやて「確かに」

雄二「あー…」

鬼矢「彼女にお姫様抱っこされる彼氏か……新しいな」

それに思わず誰もがほっこりする。

デデーン！

秀吉以外、OUT！

秀吉「普通にはずいのじゃ…と、と言うか鬼矢殿、わ、わしと清水はまだ／＼／＼

明久「？」

鬼矢「あ？お前ら、まだしてもないのかよ」

首を傾げる明久はスルーして鬼矢はそう言うと言おうと秀吉は顔をさらに真っ赤にする。

ティーチ「ドストレートで聞いたでござるぞこの人…」

はやて「すっごいな…」

榊「そう言う本人はどうなんだろうな」

京谷「ああ、確か……」

鬼矢「そこ二人、短い命。今すぐ終わらせたいか？」

それに驚くティーチとはやての後の榊と京谷へと黒い笑みを浮かばせて言う鬼矢に
終わりがたくないでござると京谷と榊は返す。

デデーン！

鬼矢、OUT！

ティーチ「黒い笑みも入るのね!？」

バシーン！

秀吉「そ、それで次は鬼矢殿の番じやな」

落ち着いた後にまだ顔が赤いが秀吉が促す。

鬼矢「俺か……よつと」

ガラッ

早速1段目を開けた鬼矢は？ん？となる。

誰もが何が入っているのか気になる。

明久「何が入ってました？」

鬼矢「……箱だ」

鬼矢の1段目：謎の箱

誰もが気になる中で鬼矢は怪しそうだな…と警戒する。

秀吉「何が入つとるんじやろうな？」

ティーチ「饅頭とか？」

鬼矢「開けてみるか」

パカッ

そう言つて鬼矢はぱかっと開けた瞬間…

ポフィン!!

煙が噴き出し、鬼矢は包まれる。

明久「煙!？」

ティーチ「どうやって詰めたのでござろうな？」

はやて「鬼矢さん大丈夫かいな？」

煙に包まれた鬼矢にはやてが恐る恐る声をかける。

鬼矢「Orz」

煙が晴れると…女性となって落ち込んでいる鬼矢の姿が…

明久&ティーチ「ええええええええええ!？」

はやて「増えたww」

榊「マジか……」

デーン！

はやて、OUT！

それに男性陣は驚き、はやてが笑う中でまさか女体化するとは……と鬼矢は落ち込む。雄二「あー、落ち込んでいる所悪いがそろそろ二段目のを開けてくれないか？」

鬼矢「あ、ああ……」

そう言われて鬼矢は二段目を開けて突つ伏す。

明久と同じ反応にティーチは近づいてみる。

鬼矢の二段目：財団X女性服

ティーチ「1段目と連携してる……だと？」

明久「これ、強制的に着替えさせる気だったんだね」

秀吉「鬼矢殿……」

鬼矢「……アイツら後でブツ飛ばす……」

冷や汗を掻く明久の後に同情する秀吉の隣で鬼矢はそう言う。

ブラックキングSD「ちなみに言っておくとワイらの提案やないからな」

サンダーダランピアSD「鬼矢さんの所でアンケートした結果ツス」

アナ「だから八つ当たりはなしですよ」

そこにひよこつとアナ達が現れてそう言ってからまた消える。出て来た言葉に鬼矢は顔の前で腕を組んではあーと息を吐く。

明久「マジドンマイです；」

ティーチ「うーん、マジ笑う所だけどわらえねえですな」

はやて「んで服はどうするん？」

鬼矢「……着替えてくる」

苦労明久とティーチの後ののはやてのにまたはあと息を吐いて鬼矢は着替えを持って出て行く。

しばらくして…

着替えて帰って来た鬼矢だが…服が京谷と同じ様にピチピチでスタイルが強調されていた。

秀吉「きつそうじやな鬼矢殿；」

はやて「凄い主張してるww」

鬼矢「……これ用意したやつ、ぶっ飛ばす」

デデーン！

はやて、OUT！

自分が着てるのを用意した人を後でぶん殴るを心に決め、鬼矢は3段目を開ける。

女鬼矢フィギュア

鬼矢「おいこれ作ったのは誰だあ！」

出て来たのに鬼矢は叫ぶ。

はやて「うわあ…明久くんや、西原さんに秀吉くんの時と同じように上手く出来てるな」

ティーチ「匠の腕でござるな」

秀吉「本当に誰が作ったんじやこれ？」

誰もがうわーとなる中で次ははやてなのでははやては一段目を開ける。

はやて「……………なーにこれ？」

京谷「ん？」

誰もがはやての反応に疑問を思うとははやては取り出す。

はやての1段目：たぬうの耳

明久&秀吉「狸w」

雄二&ティーチ「くくつw」

榊&京谷「ぶつwww」

それに思わず鬼矢とはやてを除いた面々は笑う。

デデーン！

明久、雄二、秀吉、ティーチ、榎、京谷、OUT！
パシーン！

はやて「おう、ここでも出て来るんか…」

鬼矢「お前のネタだから仕方ねえな」

たぬう耳を持ち上げながら呟いたはやては鬼矢のに何時なつたんやろうなどと返す。

はやて「んで：付けなきやあかんか」

ふうと息を吐いてたぬう耳を付けてから2段目を開ける。

はやての2段目：たぬう尻尾

はやて「うちも連続かい！」

明久「連続で来ちやうのw」

ティーチ「耳もあるから尻尾もと言う事ですなw」

雄二&秀吉「くくw」

鬼矢「ラストはたぬうはやてのフィギュアじゃねえのかwww」

デーン！

明久、ティーチ、雄二、秀吉、鬼矢、OUT！

バン！と机を叩くはやてに榎と京谷を除いて笑う。

パシーン！

はやて「ええい！とにかく三段目開けるで！」

そう言つてはやては勢いよく開ける。

はやての三段目：バニースーツ着てるけどバニーならずたぬうはやて

はやて「少し変化球入れるんかい！」

はやてを除いた一同「ぶふwww」

デーン！

はやて以外、OUT！

少し違うがおおむね当たっていたのにははやて以外笑う。

ティーチ「さて、いよいよ拙者の出番ですな」

鬼矢「ティーチはどんなのか予想つかねえな」

確かにと鬼矢の言葉に誰もが思っているとティーチは1段目を上げる。

ティーチ「あ、Wi i Uのスーパーメーカーですな」

ティーチの1段目：スーパーメーカー

明久「ああ、あつたね」

鬼矢「でもなんでこれが？」

雄二「本家の方でもこれを使ったネタがあつたんだよ」

なぜあるかを察する明久の隣で首を傾げる鬼矢に雄二が教える。

ティーチ「そうなるよ：絶対にあのネタが入ったステージが入ってそうでござるな」
はやて「へえ、なんか笑いのネタが？」

秀吉「うむ」

榊「ゲーム機はあるのか？」

明久「モニターの下にあるね」

まあ、これは後でとティーチは机の上に置いていて2段目のを開ける。

ティーチの二段目：ティーチの顔での福笑い

ティーチ「ああつと、拙者の顔のつてもう笑わせるの確定ですな！」

明久「確かに」

雄二「だな」

鬼矢「しかもこれリヨ絵のだな」

これは間違いなく笑うなと思いつながらティーチは三段目を開ける。

ティーチ「あ、ないでござるな」

雄二「んじやあこれで打ち止めか、まずは明久の封筒3つを見るか」

鬼矢「そうだな」

打ち止めとなったのでまず明久の引き出しに入っていた封筒を見る。

明久「あ、良く見ると封筒の下部に作画、早乙女ハルナって書いてる；」

秀吉「ぬう、これは絶対に笑いそうなのを描いてそうじゃな；」
榊「そうだな；」

と言う訳で1枚目のを開けて、中身を出す。

明久「んじやあ行くよ：せーの！」

そう言つて明久は1枚目を抜き出す。

1枚目：チョーリアルでアツチョンブリケをやっているピノコ

ティーチ「リアルwww」

はやて「ぶはははははwww」

明久「これは卑怯すぎるw」

雄二「だなw」

秀吉「と言うかどんだけリアルに描いてるのじゃw」

榊「ぶはははははははwww」

京谷「くつwwwこれは無理だろwww」

鬼矢「ぶつww」

デーン！

全員、OUT!

物凄くリアルに描かれたのに誰もが嘖いてしまう。

パシーン!

明久「いやー…しよっぱなから…凄い絵だった」

ティーチ「あれは誰もが笑うの間違いなしですぞ」

鬼矢「次の封筒はなんだ?」

言われて明久は取り出そうとして、あととなる。

明久「2枚入ってる」

雄二「なんだと?」

鬼矢「二枚もか?」

警戒しながら明久は両方ともひっくり返す。

2枚目の封筒1枚目：ルイージ!!と咽び泣く漫☆画太郎風のマリオの絵

2枚目の封筒2枚目：ルイージ 生きとったんかワレと鼻水を垂らしながら喜ぶ漫☆

画太郎風のマリオの絵

明久「本家の空港で出たのかww」

ティーチ「これもまたww」

はやて「あかんわww」

たたたたた

秀吉「文字が並んでおるのう。それに狸」

鬼矢「つて事はえつと……はやてつ、キック」

はやて「はあ？なんやそれ」

デデーン！

はやて、タイキック!!

ティーチ「ああ……タイも入れられなかったらキックと……」

はやて「なんやそれ!」

そう言ってる間にインペラー……ではなく、インペラーのお面を付けた闘士アントラーが来た。

雄二「あの時のダメージが抜けてなかったか……」

榊「そうみたいだな……」

現れたのに察する2人を横目に闘士アントラーははやてを直立させた後に気合を入れて……

ドゲシツ!

はやて「のおっほ!」

強烈な蹴りを入れる。

はやては蹴られたお尻を抑えてピクピクする。

ティーチ「うわお…」

京谷「大丈夫か？」

誰もがピクピクしてるはやてに声を失くす中で京谷が恐る恐る話しかける。

はやて「だ、大丈夫やない」

明久「強烈だったね；」

榊「さて次はDVDか」

雄二「いや、まだボタンが残っている」

冷や汗を掻く明久の後にそう言う榊に雄二がそう言う。

明久「んー…ボタンの色的に先生が来るのかな？」

秀吉「ありえそうじゃな」

鬼矢「取り敢えず押してみろ」

んじやあと明久はボタンを押す。

するとなじみのあるマリオのBGMが流れる。

明久「あ、やっぱり」

榊「あの配管工の音楽だな」

誰もが来ると思つたら…

桂「マリオではない…カツオだ」

エリザベス『そして相方です』

マリオの恰好をした桂とルイージの帽子をかぶったエリザベスが現れた。

明久「そっちww」

雄二「あんたかよw」

秀吉「やっておつたのは分かるがw」

はやて「桂さんw」

ティーチ「そっちでござつたかw」

榊&京谷「ぶふつwww」

それには鬼矢を除いて笑つてしまう。

デデーン！

鬼矢以外、OUT！

桂「ふふふ、意外だったであろう」

鬼矢「まあ意外は意外だけだよ…」

不敵に笑う桂に鬼矢は呆れた感じに返す。

桂「ならば次はスーパーベルを使い、猫カツオになつてやる」

明久「スーパーあるの!？」

はやて「どういう感じになるんや…」

鬼矢「いいからとつと進めろ」

さっさつと進める様に言う鬼矢にせっかちな桂はそう言った後にエリザベスはスーパーを取り出す。

エリザベス『カツオさん!』

桂「おう!変身!!」

そう言つて桂は投げられたスーパーをキャッチすると変身した……犬桂に…

明久「猫じゃないwwww」

はやて「桂さん、それ猫やない。犬やww」

雄二&秀吉「くっw」

ティーチ「猫じゃなくて犬になるってどう言う事でござるw」

榊「なんだよそれw」

京谷「おかしいだろw」

鬼矢「壊れてんじゃねえか?そのアイテム」

デーン!

鬼矢以外、OUT!

桂「む？そう言うならば貴殿も使ってみたらどうだ？」

そう言つてエリザベスがスーパーベルを渡す。

ただその色が紫色だが：

ティーチ「明らかに色が違う!!」

鬼矢「断るに決まつてんだろ」

桂「まあまあまあ」

叫ぶティーチの後に鬼矢は断るが桂は有無を言わず、手に持たせる。

その後に鬼矢は：デンジャラスビーストの恰好になっていた。

京谷&榊「ぶー！」

はやて「また違うw」

雄二「まあ、分かつてた」

それに京谷と榊は嘖き、はやては笑い、雄二は第六感から瞬時に後ろを向いていた。

桂「なぜだ。財団Xが作り上げたのに！」

明久「絶対に仕掛け人な人達が笑いの為にわざと違うのにしてると思えますよ!!」

ティーチ「ですな！だからこそ鬼矢殿抑えて!!」

鬼矢「……マジで殺してやる仕掛け人共……」

デーン！

落ち込む桂に明久がツツコミを入れて、ティーチが鬼矢を宥めようとしていると音楽が流れ、まあ、流れるよねと明久とティーチが思ったら…

京谷、榎、はやて、OUT!

鬼矢、嚴重注意!

明久&ティーチ「あれ最後!?!」

アナ「言つときますが鬼矢さんの保護者様から笑いのネタとかでもしも殺すとか物騒な言葉が出たら注意する様にと言われていますので…後、服のはその保護者様から直々の提案ネタです。思うぞ運分笑わせてくださいとの事で」

サンダーダランビアSD「ホントに言つたツスね…」

ブラックキングSD「やな。ほんま保護者様の断言は当たるな…」

最後の違うアナウンスに明久とティーチが驚いているとアナがひよっこり現れて説明し、サンダーダランビアSDとブラックキングSDはそう言う。

鬼矢「だったらその保護者連れてこい。つか誰だその保護者!」

アナ「スピノフだからなのですが現状だとネタバレになるあなたのお母様と荒れていた時から落ち着くまで世話をされていたお姉さんです。ちなみに今も笑っております」

ビスツと言う鬼矢にアナがそう言うとおの人等か…と顔を抑える。

ティーチ「と言うかメタイでござるアナ殿;」

雄二「確かに；」

鬼矢「あーくそ、イライラするな」

明久「鬼矢さん、本家で当て嵌めるなら松本さん梓だな」

はやて「あー、確かにそうやな」

榊「んじや京谷はあれだな」

苛立ちながら座る鬼矢を見てそう言う明久にはやては同意し、榊が納得した様に言う。

雄二「成程、田中梓か」

京谷「マジかよ…」

うげえとなる京谷だったがふと思った事を言う。

京谷「んじやビンタされるのは誰になるんだ？」

その言葉に誰もがはつとなる。

ティーチ「自分的に榊殿の可能性ありえますな。明久殿とかはやて殿に鬼矢殿はないでしょう」

榊「俺かよ!？」

それにティーチがそう推測し、榊は驚く。

ティーチ「んじやあ榊殿は誰だと思いませんぞ？」

榊「雄二」

カチッ

がはははははははははは w w w

デデーン！

雄二、OUT！

雄二「おい榊いいいいいい!!」

ティーチの答えながらガイアメモリを押す榊に雄二は叫ぶ。

パシーン

明久「んじゃあ、次は雄二のDVDを見ようか」

鬼矢「そうだな」

たくっ！と雄二は置いてあったDVDプレイヤーにセットする。

しばらくしてテレビに映像が映る。

街角アンケートダービー

明久「ダービー；」

ティーチ「まさかボタンではなくDVDで出しますか；」

鬼矢「確か関東ローカルのあれだったか？」

はやて「いや、確かに聞くとこのじゃあ合ってますけど；」

それに明久とティーチは冷や汗を掻く中で鬼矢がそう言い、はやてはそう言うど誰かが写る。

亜美『ヤッホーイ！亜美だよ！』

真美『真美だよ！2人で色んな人にアンケートするよん！』

元氣よく挨拶して2人はさてさて笑い合う。

亜美『このアンケートは8人の人で誰が5回指名されたらその人に罰ゲームが起こるんだよ！』

真美『と言う訳で試しに聞いてみよう！その人〜』

そう言つて2人が近づいたのは：

デスリユウジャー『あん？なんだ？』

椅子に座りまったりしているデスリユウジャーであつた。

明久『デスリユウジャー!?!』

雄二『あいつも出演してたのかよ；』

榊『つかなんて普通に出演しているんだよ；』

鬼矢『確かにな；』

ティーチ『いや、出演と言うよりどうやら偶然出会つた人の様ですぞ。画面外から小さい声で亜美、真美違う！その人、最初に声かける人じゃないと言うのがチラホラ；』

まさかの人物に驚く面々にティーチがそう言う。

亜美『亜美達少しアンケートをしてるんだよ』

真美『んでお兄さんに聞きたいけどこの中で罰ゲームを受けるのが良い人は誰か聞いても良い?』

デスリユウジャー『その中でだ…?』

そう聞かれてデスリユウジャーは8人の描かれた顔を見て…

デスリユウジャー『こいつだな…ぶっ飛ばしやすそうだし』

そう言つて指したのはティーチであつた。

亜美&真美『ありがとうございました!』

デアーン!

ティーチ、タイキツク!

ティーチ「ええええええ!?!Σ(・□・;)これつて流れるに最初は雄二殿ではないのですか!?!」

雄二「聞いた相手か悪かつたな」

京谷「確かにこれはな…」

ツツコミを入れるティーチに雄二と京谷はそう言う。

闘士アントラー「(・ω・!)」

バシーン!!

ティーチ「のおっほ!?!」

やって来た闘士アントラーのタイキックを受けてティーチが悶絶してる間にDVDは再開される。

亜美『なんか最初話しかける人が違うって言われたけど、気にせずいくじえ!』

真美『だね!あ、その人!』

デスリユウジャーから離れて次の人を探す亜美と真美の前に現れたのは…

カラ松『フツ、どうしたんだいガールズ?』

サングラスをかけたカラ松と…同じ様にサングラスをかけたNとビート・J・スタツグがいた

明久「何やってんのNさんww」

ティーチ「中の人でござるかww」

秀吉「シユール過ぎるのじゃw」

雄二&はやて「くふw」

鬼矢「あーそう言えば同じ声だったかあの二人」

榊「もう1人は別に普通のサングラスいらねえだろw」

京谷「確かにw」

デデーン!

鬼矢以外、OUT!

パシーン!

あーと鬼矢が納得してる間に亜美と真美は話しかける。

亜美『お兄さん達うちよいとアンケート協力してくれない?』

真美『この中で罰を受けるなら誰になる?』

そう言われてNとカラ松は悩むがJが京谷を指す。

J『この京谷と言う奴だな。理由はなんとなくだ』

京谷「なんとなく!?!」

明久「Jなら選びそう;」

鬼矢「だな;」

選ばれた理由に驚く京谷に明久と鬼矢はしそうだなと納得する。

明久:

雄二:

秀吉:

鬼矢:

榊：

京谷：○

はやて：

ティーチ：

N 『んー：僕的にこの榊って少年かな？なんかお説教されそうだし』

カラ松 『俺は鬼矢って人だな。色々リア充と言われそうなおーラを発している』

榊 『お説教されそう!?!』

鬼矢 『リア充？俺が？』

俺そんな風に見えるか？と首を傾げる鬼矢だが映像は続く。

明久：

雄二：

秀吉：

鬼矢：○

榊：○

京谷：○

はやて：

ティーチ：

次に亜美と真美が話しかけたのは：

亜美『そこのお姉さん達〜』

K 魔理沙『ん？ 私らの事か？』

K 霊夢『？』

魔理沙と霊夢で霊夢の反応からあ、俺の方の霊夢達かと鬼矢は呟く。

真美『この人達で罰を受けるなら誰？』

魔理沙「んー、そうだな…」

真美の問いにK 魔理沙は少し考えてから…

K 魔理沙『雄二だな。あいつの魔法は色々チート過ぎだし同じ魔法使いとしてちよつとなーって思う』

K 霊夢『私は…すみません。居ませんね』

雄二「俺か」

秀吉「そつちの霊夢は優しいのう…」

明久：

雄二：

秀吉：○

鬼矢：○

榊：○

京谷：○

はやて：

ティーチ：

次に映されたのは：酢とイカであった。

亜美「萃香ちゃんは誰を選ぶ？」

萃香『んーそうだねー』

明久「ぶっw」

雄二「萃香だけなんで編集して酢とイカかよw」

秀吉「い、いきなり過ぎるw」

はやて「西瓜やないのもまたw」

ティーチ「不意打ち過ぎますぞw」

榊 「くふw」

京谷 「ぶふw」

鬼矢 「下手な洒落だな。そこは普通に酔イカとかにしてもよかったんじゃないやね？」

デブーン！

鬼矢以外、OUT！

編集されたのに鬼矢を除いて笑う。

パシーン！

萃香 『鬼矢がなく最近お酒を程々にしとけつて言うし、後は編集のとかで内容によって下手な洒落と言つてそうだし』

真美 『メタイよ萃香ちゃん；』

鬼矢 「アイツ、この編集を読んできたのか？」

そう言った萃香のに自分の所かと思つてから呆れる。

明久：

雄二：○

秀吉：

鬼矢：○○

榊：○

京谷：○

はやて：

ティーチ：

続いてはアンとメアリーの2人組で：

アン『黒髭ですわね』

メアリー『黒髭だね』

亜美『まだ言つてないよ』

真美「見せた途端に言つたね；」

ティーチ「おう、ひどうい」

はやて「即答やな；」

榊「即答だぜ；」

京谷「どんだけ嫌なんだよ；」

素早い答えに誰もが冷や汗を掻く。

メアリー『最近はXライダーのお蔭でマシになつたけどね』

アン『それに私達にはマスターいますし、セクハラは駄目よね』

ティーチ「そのマスターがあんたらのアピールで鼻血ブーで死にかけてたりするけどね!!」

明久「だよね;」

雄二「だな」

秀吉「うむ;」

鬼矢「どっちもどっちだな」

理由を言う2人にティーチはツツコミを入れて、その親友である明久達は頷き、鬼矢は呆れる。

明久:

雄二:○

秀吉:

鬼矢:○○○

榊:○

京谷:○

はやて:

ティーチ:○○○

次に出会ったのはティアナとノーヴェであった。

ティアナ『はやてさんですね』

ノーヴェ『あー、確かに』

亜美『おおう、こっちも；』

真美『即答する人が続くね；』

はやて「おおっと、ついに私かいな」

雄二「指名の理由が分かるな」

京谷「まあはやては色々としてそうだしな」

鬼矢「ああ、榊と真宵の同類か」

榊「あれれれれれ!?!俺同類!?!」

続けざまのにそう言う雄二と京谷の後の鬼矢のに榊はウソーンとなる。

明久：

雄二：○

秀吉：

鬼矢：○○

榊：○

京谷：○

はやて：○○

ティーチ：○○

次に亜美真美コンビが出会ったのは伊御とつみきであった。

亜美『そのデートしてるカップルさ〜ん!』

真美『少し質問して良い?』

つみき『か、カップル／／!?』

伊御『ん? 君たちは……』

かけられた言葉に顔を赤くするつみきの隣で亜美と真美に伊御は首を傾げる。

亜美『丁度亜美達はこの中で誰が罰を受けるかのアンケートを取ってるんだよ』

真美『だから協力してくれると嬉しいっしょ!』

つみき『そうね……榊かしら』

伊御『いつもお仕置き受けるからな、アイツ』

問う亜美と真美につみきと伊御は榊を指して言う。

ティーチ「指名されましたな」

雄二「一気に3になったな」

榊「伊御く」

親友達の指名に榊はオウフとなる。

明久：

雄二：○

秀吉：

鬼矢：○○

榊：○○○

京谷：○

はやて：○○○

ティーチ：○○○

雄二「しつかし、明久と秀吉が全然ねえな」

はやて「せやな」

京谷「あの二人に受ける要素ないしな」

今の状況を見て言う雄二にはやては同意して、京谷がそう言う。

次に現れたのは…なぜかキュアミラクルのお面を付けた仮面ライダーブレイドであつた。

それを見た全員が思わず噴いた

明久&秀吉「ぶふw」

はやて「なんでやねんww」

ティーチ「シユール過ぎるww」

雄二「自由過ぎるぞw」

榊&京谷「ぶはははははwwww」

鬼矢「くくくくくwwww」

デブーン！

全員、OUT！

ガイの時の様な不意打ちに全員爆笑する。

パシーン！

亜美『く、くく、そ、その仮面ライダーさん、アンケートをしても良い？』

ブレイド『ああ、良いよ』

明久「あ、このブレイドは葉月ちゃんのランスロットが変身してる方だ」

雄二「本家の本人だったら参加しないもんなきつと」

鬼矢「ランスロットってあの浮気男の？それとも黒いロン毛の？」

ティーチ「バーサーカーだから一応後者ですよ」

榊「ライダーに変身できるようになったのか」

京谷「すげえな。サーヴァントのライダーか」

笑いながら問う亜美のに答えるブレイブの声を聞いてそう言う明久と雄二のに榊と

京谷は思い出してほおとなる。

真美『ち、ちなみになんてお面を付けてるのw』

ブレイブ『ああ、マスターが欲しいと言う事で手に入れたんですよ。後、笑いの為に』

はやて「笑わせる為ってw」

デーン！

はやて、OUT！

鬼矢「マスターってのは？」

明久「島田葉月ちゃんって子と契約してるんですよランスロットは」

出て来たマスターが誰なのかで聞く鬼矢に明久は答えて、成程と…鬼矢は納得する。

パシーン！

亜美『ちなみにお兄さんは誰を選ぶ？』

ブレイブ『そうですね…選ぶとしたら明久ですかね。理由はマスターをもう少し女の

子扱いしてあげて欲しいからですね』

真美『成程〜』

アンケートに答えたブレイブのにあ、○付いたと明久は呟く。

明久：○

雄二：○

秀吉：

鬼矢：○○

榊：○○○

京谷：○

はやて：○○○

ティーチ：○○○

明久「けど、ランスロットのどういう意味かな？ちゃんと女の子として見てあげてるんだけど？」

雄二「(そういう意味じゃねえよ)」

はやて「(吉井くんはほんま鈍感やな〜)」

ティーチ「(明久氏はとことんニブチンですな)」

京谷「(音無レベルの鈍さだな……)」

首を傾げる明久に誰もが思った。

次に出会ったのは優子であった。

優子『秀吉、理由、なぜ大きい』

亜美『おおう、凄いいーラを感じる；』

真美『これは千早ねーちゃんに近いね；』

秀吉「姉上；」

雄二「ああ……」

榊「確かに……」

鬼矢「姉よりデカいな……」

それに答えた優子のに明久を除いて納得する。

明久：○

雄二：○

秀吉：○

鬼矢：○○

榊：○○○

京谷：○

はやて：○○○

ティーチ：○○○

明久「今の所近いのは榊だね」

榊「まだ、まだ逆転できる！」

状況を見て言う明久に榊がそう言うと言いつつに出会ったのは：雄二のサーヴァントメンツに霧島であつた。

霧島『雄二』

エリザベート『マスターね』

清姫『旦那様ですね』

ジャンヌオルタ『罰を受けなさいマスター』

亜美『おう、即答』

真美『そして5つになったね』

デーン！

雄二、タイキツク!!

雄二「」

はやて「一気にwww」

ティーチ「絶対狙ったメンツでござるwww」

秀吉「くふw」

鬼矢「一体何したんだ？雄二……」

明久「んー…なんでしよう？」

榊「くぷぷwww」

京谷「榊を抜いたなw」

デーン！

はやて、ティーチ、秀吉、榊、京谷、OUT！

まさかいきなり1から5になるのに言葉を無くす雄二にはやてとティーチに秀吉と

榊は笑ってしまう。

パシーン！！

ティーチ「(とことん恋愛関係だと力にならない明久氏であった)」

叩かれた後にティーチがそう心の中で呟く中で闘士アントラーが来て…

雄二「ぐほう!？」

見事なタイキックを叩き込み、雄二は壁に手を付けながら痛みを耐える。

榊「フラグ立てすぎたな……雄二」

それを見て榊がそう言う。

亜美『と言う訳でアンケートでした!』

真美『最後にこの人から一言!』

咲『はあ〜い♪』

京谷「ぶっ?! 崎守!?!」

現れた咲に京谷は噴いた後に嫌な予感を覚える。

咲『京谷、あんた色々と頑張らないと影が薄くなるわよ』

ティーチ「(いや、十分目立ってると思うで(ぎぎるが))』

京谷「うるせえ!」

くすくす笑って言う咲に京谷は叫ぶ。

咲『まあ、京谷なら〃タイキツク〃を受けても大丈夫よね〃タイキツク〃は』

京谷「おいまて!?!まさか!」

強調して言う咲の言葉に京谷は顔を青くし…

デデーン!

京谷、タイキツク×2

明久「あれ?」

はやて「×2…」

鬼矢「つてことは…」

京谷「なんでだあああああああ!?!」

まさかの宣言に京谷は叫ぶとインペラーと闘士アントラーが現れ、それに京谷は思わず逃げようとするが何時の間にかいた黒子集団に抑えられ：

バシーン!!

1匹と1人のタイキックが京谷のお尻に炸裂した。

京谷「」

明久「うわあ…」

はやて「声も出ずに…」

ティーチ「くわばらくわばら…」

鬼矢「南無…」

声も出さずに倒れ伏した京谷に明久とはやては冷や汗を掻き、ティーチと鬼矢は手を合わせる。

雄二「んで次はゲームだな」

榊「つてことはこれか」

次にゲームをしようとした時にアナが入って来る。

ブラックキング「皆、そろそろお昼やし腹減ってるやろ？」

明久「もうお昼か」

榊「もうそんな時間なのか早いな」

そう言うブラックキングSDのに明久と榊は時計を見る。

アナ「12時まで後30分位です。その間に皆さんには食べる料理を決めるゲームをやつて貰います」

秀吉「おお、本家でもあつたあれじゃな」

榊「んでどんなゲームするんだ？」

サンダーダランピア「今回は8人いるのでペアを組んで4組による対抗戦をして貰うッス！」

ブラックキング「そしてやるゲームはこれや！」

そう言うて用意されたのは3つのボタンで、それぞれ緑、青、黄色となっていた。

さらにリストバンドがそれぞれ手渡される

ブラックキング「ちゃんと押せないで静電気来ちゃう！パニックボタン!!」

アナ「ルール説明ですが、このタブレットに表示された色を押してください。最初はゆつくりですがだんだん速くなります。表示されたのと別の色を押し間違えたり、少しでも遅れたらリストバンドやボタンから静電気が流れますので注意してください。ま

た赤く表示された時にボタンを押してもアウトなので」

題名を言うブラックキングの後にアナが説明する。

雄二「マリパ7での8人ミニゲームにあったパニックガレージみたいなものか」

榊「んで順位によつてのランクはどうなるんだ？」

説明を聞いてそう言う雄二の後に榊が聞く。

アナ「ランクと言うより、順位によつての料理はこうなってます」

そう言つて表示される。

1位：小松シェフ特製エンドマンモスのハンバーグステーキ定食

2位：ぎょうざとラーメンセット

3位：寿司6貫（ハンバーグ寿司2貫、キュウリ巻き2貫、熟成まぐろ2貫）＋お茶

4位：ふりかけごはん（のりたま）

ティーチ「なんとという1位と4位の差；」

明久「確かに；」

京谷「と言うか4位少なすぎだろ；」

鬼矢「にしても3位が寿司なのか。それじゃあ2位のラーメンセットは普通のじゃ

ねえのか？」

ブラックキング「おお、勘が鋭いな。実はそうなんや〜」

サンダーダランピア「麺はトリコの世界の全麺にスープとチャーシューにカラット
ジューウシを使ってるんやで」

最後に言った鬼矢のにブラックキングとサンダーダランピアはそう答える。

雄二「表記しとけよ」

はやて「つまり、1位と2位のはトリコさんの食材を使つとる訳か」

アナ「後、そのツンツン頭さんのに答えると本家よりかはマシだと思えますよ？
あつちだと芋だけだったりしますし」

それに雄二は呆れてツツコミを入れ、はやては納得しているとアナが京谷のに答える。

京谷「まあ確かにな…」

ブラックキング「そんな訳でこの俵を引いてやく赤、青、黄色、緑の4色で決めてる
からな〜」

サンダーダランピア「引いた引いたツス！」

京谷が納得した後に出された俵をそれぞれ引く。

明久「よろしくティーチ」

「ティーチ「よろしくでございませぬぞ明久氏」

青コンビ：明久、ティーチ

はやて「宜しゅうなきやはん」

鬼矢「ああ」

赤コンビ：はやて、鬼矢

雄二「まあ、行こうぜ榊」

榊「ああ！絶対一位になろうぜ！」

黄色コンビ：雄二、榊

秀吉「お互いに頑張るぞ京谷」

京谷「ああ、なんとか3位以上になるぞ！」

緑コンビ：秀吉、京谷

と言う感じで決まったので画面が見え易い様に移動して待つ。

果たして勝つのはどのチームか：

お昼決めゲームからマリオメーカープレイまで

誰もが息を飲んでゲームが始まるのを待ち…

ブラックキングSD「んじゃあ…スタートやで!!」

ピイイ!!

ブラックキングSDの後にアナが笛を吹くと画面に青が表示されて、8人は同時に青のボタンを押す。

続いて、緑、黄色、青と続く。

誰もが真剣になる。

続いていて…赤になったのを思いっきり押ししてしまった人物がいた。

それは…

京谷「あ」

京谷で手に静電気が来る。

京谷「あいたっ!」

ブラックキングSD「はい、京谷脱落」

ティーチ「(危なかった;)」

それを見ながらそれぞれ押しして行くがだんだん速くなり：

はやて「あいたっ！」

ティーチ「痺れが!？」

榊「うお!？」

はやて、ティーチ、榊が脱落して残りには明久、鬼矢、雄二、秀吉だけになる。

明久「まだまだだ！」

雄二「マリパで鍛えたの舐めるな！」

鬼矢「これぐらいならまだ行けるな」

器用にやる明久と雄二の隣で鬼矢も普通に付いて行く。

秀吉「すまぬ京谷、ワシ無理(びりっ)」

そう言つて秀吉はワントンポ遅れたので静電気が来る。

ブラックキング「はい、緑コンビ4位」

鬼矢「ん、かなり早くなってきたな…」

雄二「唐突に速くなり過ぎ、だあ!？」

ブラックキングの宣言と共にスピードが上がリ、それに雄二は遅れてしまう。

サンダーダランピア「黄色コンビ3位ッス」

明久「負けませんよ！」

鬼矢「こつちの台詞だ」

その間も必死にボタンを押しに行く。

そして：

鬼矢「あつ、やべ（びりっ）っ！」

アナ「赤コンビ、2位で1位は青コンビです」

明久「ようし！」

ティーチ「やりましたな！明久氏！」

デデーン！

明久、ティーチ、OUT！

1位になったのに喜ぶとアウト宣言される。

はやて「ここでw」

榊「勝つたのにアウトww」

京谷「くぷw」

デデーン！

はやて、榊、京谷、OUT！

明久「笑ってはいけないのを忘れてた！」

ティーチ「ですな！」
パシーン!!

とりあえず、叩かれたが1位なのは変わりないので料理が運ばれてくる。

ブラックキング「ちなみにご飯はこの無限に米が出て来る炊飯器があるから遠慮せず
お代わりしてもええで〜」

雄二「ちゃんと4位も腹いっぱいになれる様に救済のはあるんだな」

秀吉「確かに本家にはないのじゃな」

その後置かれた炊飯器に対してそう説明し、雄二と秀吉は成程と納得する。

アナ「トツピングもたくさんありますよ」

ともかくにもお昼を食べ始める。

明久「うーん。ホント小松シェフのは凄く美味いから作ってる者として尊敬するな」

ティーチ「ですな! うめーですな!」

はやて「うーん! ラーメンも聞いてた通り美味いけど餃子もなかなか!」

鬼矢「ご飯が進むな」

それぞれが料理の美味さに感嘆の声を上げていると鬼矢はいつの間にかどんぶりを
作っていた。

雄二「はええな」

秀吉「うむ、そうじゃな。そう言う雄二も雄二でしておるのう；」
パクパクとゴマと刻みのりに卵と醤油をかけて食べている雄二に秀吉はツツコミを入れる。

明久「それって…」

京谷「ん？なんだ？」

榊「お、これって…」

覗き込む3人に鬼矢はああと自分が作ったどんぶりを言う。

鬼矢「ああ、海老天を置いてきざみネギを散らしてラーメンのスープをかけてとき卵でとじた天丼だ」

ティーチ「おお、成程」

見せる鬼矢に誰もがおおくとなる。

明久「結構残ったソースをごはんと混ぜて食べたりするね」

雄二「ああ、あるな。そばやうどんとかで残ったスープにごはんを入れたりとかな」

榊「俺はラーメンのスープに入れてラーメンライスとかにするぜ！」

はやて「ああ、美味しいよな」後、ご飯のから外れるけどスープって冷ますと熱いのはまた違う美味みを感じるから少し置いてから飲むのも格別やね」

京谷「この食べるラー油ってのも美味しいよな」

秀吉「確かにあれもラーメンもそうじゃがご飯に入れてもグーじゃからなく
その後は8人でそれでワイワイ談義に入る。

アナ「笑ってますけど、良いんですか？」

ブラックキングSD「本家やないんだし、お昼でワイワイ話す位ええやろ」

ワイワイ話す面々を見て聞くアナにブラックキングSDはそう言う。

しばらくしてお昼を食べ終えた後にさせと…と雄二はWiiUを見る。

雄二「やるか、マリオメーカーを」

明久「きつとーステージが作られてるんだらうね」

鬼矢「……ところでマリオで思ったんだがよ」

そう言う雄二と明久の後にふとそう言う鬼矢にメンバーは鬼矢に視線を向ける。

秀吉「どうしたのじゃ鬼矢殿？」

鬼矢「これを明久の師匠のマリオは実際やっているんだよな」

明久「んー…ゲームはそうだけどそこらへんどうなんでしょう…リアルで先生やって

るかどうか僕分かりませんし…」

聞く秀吉にそう言う鬼矢に明久は唸る。

鬼矢「もしそうだったら…：…一体何人のマリオが死んでるんだらうなア」

ティーチ「それはリアルで想像したくないでござるな」

はやて「せやな；」

そう言う鬼矢にティーチとはやてはそう言う中でゲームが始まる。

雄二「ステージのゲームスキンはスーパーマリオワールドか…んで、土管が8個？」

榊「どういうステージだ？」

ステージを大体見て、とにかく最初に入るか…と一番左端の土管に入る。

そして出た場所には下にはゴールの旗と…

京谷

タイキツク

と言うブロックで描かれた文字が…

京谷「おい待て!？」

デデーン!

京谷、タイキツク!!

それに京谷は叫ぶが無慈悲に宣言される。

ティーチ「おおう；」

明久「あー…本家でもあつたね；」

鬼矢「つか他の土管だったらどうなってたんだ？」
タイキツクされている京谷を見ながら鬼矢は呟く。

雄二「んじやあ試しに行つて見るか」

そう言つて雄二は左から2番目の土管に入る。

すると出た場所は先が丁度マリオがダッシュジャンプでギリギリ届く位に穴を空けて1つの足場にクリボータワーが出来ているのだ。

雄二「成程、クリボーを踏みながら進めか…」

明久「しかもギリギリマリオが踏める高さにクリボーが積まれてるね」

鬼矢「うまく考えたな」

それを見て感想を述べた後にんじやあやるかと助走を付けてジャンプしようとし…
ピローン！

ブロックが出て来てマリオは下に落ちた。

ティーチ「隠しブロックw」

明久「改造マリオであるあるのw」

はやて「不意打ち過ぎやろw」

榊「くくくつwwww」

京谷「ぶふw」

デデーン!

明久、榊、京谷、はやて、ティーチ、O U T!

雄二「あーマリオメーカーだとホント出来るから改造マリオを作ってた人はこういうのを簡単に出来るよな…」

鬼矢「そう言えばミスったけど大丈夫なのか?」

明久「本家ではミスしてもそう言うのはなかったですね」

頭をガシガシ搔く雄二の後に聞く鬼矢に明久は思い出して言う。

はやて「まあ、笑うのがミス変わりやと思うな」

ティーチ「確かに」

榊「次は俺がやるぜ!」

ほいと雄二は榊にパッドを渡す。

はやて「落ちん様にな」

榊「おう、任せとけ!」

そう言つて榊はプレイを開始する。

まずは落ちない様にとお邪魔隠しブロックをギリギリの所でジャンプして出現させ

る。

榊「よっ、はっつと」

その後には大ジャンプしてクリボーを踏みながら進む。

明久「あ、後1回でゴールに向かう土管の所に着けるね」

榊「よし！もう少しで……」

そう言つて最後のクリボーを踏んで着地しようとして……土管のある足場の一番手前に着地しようとしたら……すり抜けて落ちた。

はやて「……………は？」

ティーチ「隠し通路を隠す奴なので落とし穴とかw」

雄二「やつてくれるw」

鬼矢「レトロゲームみたいだなww」

デデーン！

ティーチ、雄二、鬼矢、OUT！

起こつた事に榊とはやては呆氣に取られ、ティーチと雄二に鬼矢は落ち方に笑つてしまふ。

パシーン！

明久「もう1回やる？」

榊「ああ！次は絶対に……」

気合を入れて榊は十分注意して進んでいき、最後のも余裕をもつて土管のある足場に

着地する。

榊「うっし！」

京谷「後はゴールするだけか」

そのまま土管に入り…出ると…クリボーが出て来た土管を除いて全体の足場にうじゃうじやと敷き詰められていた。

はやて「何これw」

秀吉「敷き詰め過ぎじやろw」

ティーチ「これはw」

榊「全部踏んづけてやるぜ！」

デデーン！

はやて、秀吉、ティーチ、OUT！

バシーン！

それに思わず笑う3人の後に榊はクリボーを踏みつけながら進む。

明久「これって作り方によるけど無限1UPが可能になったよね」

雄二「まあ、そうだな」

鬼矢「でもそう言うのって大抵失敗するよな」

それを見ながらそういう明久に雄二も頷き、鬼矢がそう言う。

ティーチ「お、ゴールバーですぞ」
榎「よし！」

そしてゴールバーのバーを越えて、ゴールし、いつも通りのテロップが流れて、暗転が無くなると……

ハヤテ

タイキツク

と言う文字が現れる。

はやて「はっ？」

デーン！

はやて、タイキツク!!

明久「今度ははやてさん；」

京谷「まさかあの土管の先のゴール全部にタイキツクが!？」

ゲーム画面を見ながら京谷は戦慄する。

バシーン！

ティーチ「土管の数が8個だったから全員蹴られる可能性ありですな」

雄二「まあ、メタイ視点で言うなら全部やらねえと進まないだろうし、やるしか道がねえだろうな」

はやて「そやな、私ら2人だけなのもどうかと思うし」

鬼矢「メタすぎるな；」

それに鬼矢はツツコミを入れてる間に3番目の土管に入る。

そして出た場所は：土管だけであつた。

明久「土管が多いな；」

紳「どれが当たりだ？」

どれかが当たりかと思ひ下のを押そうとした時、見えている土管全てからボム兵が出て来た。

明久「……わおう；」

ティーチ「あ、これ土管当てじゃない。ボム兵が爆発しないうちに走る奴だ！」

紳「ぬおおおおお!!」

それに紳は慌ててダツシユし、出て来るのも踏みつけながらゴールへと向かう。

はやて「土管だらけやな；」

雄二「しかも全部がボム兵が出て来るのだな」

鬼矢「どんどん爆発していくな」

紳の操作するマリオの後ろで爆発していくボム兵を見ながら鬼矢は呟くと横から上へと伸びる土管が見えた。

明久「あ、出口かな？」

榊「よっしやあ！」

それに飛び込もうとした時…：出口の土管の前に…：大きいボム兵が現れた。

はやて「フアツ!？」

ティーチ「マリオメーカーあるあるのドデカ敵キャラ！」

榊「ぬおう!？」

それに榊は驚いてジャンプして出口の土管の上に着地する。

明久「うわあ…：行き辛いね」

はやて「これ、出て少しいからのをどうにかせんといかんけど…：」

榊「どうするか…：」

雄二「…：おい榊、今乗っている土管の伸びている部分の横でジャンプしてくれない

か？」

呻く明久の後にはやてと榊は唸ると雄二がそう指示する。

榊「え？あ、分かった」

言われた通り、上に伸びている横でジャンプしてみる。

すると、ブロックが現れ、中からスターが現れる。

ティーチ「おお！隠しブロックでスターですぞ！」

京谷「よっしゃこれで！」

早速榊はスターを取るとデカボム兵を蹴散らして土管へと入る。

そして土管を出た先にゴールバーのある場所へと出る。

榊「よっしゃやゴール！」

そしてゴールバーを切り、暗転の後に現れたのは：

ユウジ

タイキツク

の文字であった。

デデーン！

雄二、タイキツク！

雄二「俺か！」

明久「と言うかw」

ティーチ「文字がww」

秀吉「画面の事情か字がw」

榊「じだけひらがなww」

京谷「ありかよw」

次は雄二ののだが表示の仕方に上記4人が笑う。

デデーン!

明久、ティーチ、秀吉、榊、京谷、OUT!

うーっ、上手いとはやてが唸る。

鬼矢「さて次の土管はつと」

次は鬼矢が操作して4番目に入る。

そして出た先は…スターがいつぱい跳ね回っていた。

明久「何これw」

ティーチ「スターが無駄過ぎるww」

鬼矢「無駄遣いすんなよな全く…」

デデーン!

明久、ティーチ、OUT!

パシーン!

鬼矢「取り敢えず進むか」

そのまま鬼矢は走ると大砲とか土管からもスターが出まくる。

明久「えつと…スターだけが出るステージなのかな?」

雄二「見るからにそれっぽいな…」

榊「常時無敵だなあ……」

そのまま走り続けると土管が見え、いざ入ろうとして…その手前で落ちた。

ティーチ「また隠しw」

はやて「旨いコースと見せかけてかいなw」

鬼矢「コイツ……」

デデーン！

ティーチ、はやて、OUT！

それに鬼矢はむうとなり、今度は落ちずに土管へと入る。

そして出るとゴールバーが見える。

秀吉「ゴールバーじゃな」

雄二「今までの傾向からして攻略すればゴールバーには簡単にゴール出来る訳だな」

京谷「そうみたいだな」

鬼矢「さて次は誰だ…？」

誰もがドキドキしながらゴールバーを通り抜け、暗転が消えると…

サカキ

タイキツク

と言う文字が出ていた。

デデーン！

榊、タイキツク！

榊「俺かよお!？」

告げられたのに榊は絶叫してる間にインペラーが来る。

バシーン!!

榊「のおっほ!？」

雄二「んじゃあ、5番目行くか」

鬼矢「ああ」

ちなみにお前など明久に渡す。

明久「あ、はい」

パッドを持って5番目の土管に入ると…マント羽があった。

明久「これは…マント羽を使って降りるのかな?」

京谷「取りあえずとってみたらどうだ?」

そうだね…とマント羽を取ると…マリオの服を着た明久になる。

ティーチ「マントマリオじゃないw」

雄二「明久になるのかよw」

秀吉「くw」

鬼矢「キャラマリオか」

京谷「しかも召喚獣なのかw」

榊「すげえシニールだなw」

デデーン！

雄二、秀吉、京谷、榊、ティーチ、OUT！

それに明久と鬼矢、はやてを除いて笑う中で明久は動かす。

明久「えつと…一応滞空は出来る…みたい」

鬼矢「これが居るルートってどんなのだ？」

とにかく降りてみますね…と前にルートがないので穴へと飛び込む。

すると…パタパタやトゲゾーなどが配置されていた。

明久「ああ、当たらない様に気を付けて降りろか」

榊「気をつけろよ」

分かっていると明久は慎重に動かしながら下へと降りて行く。

途中でトゲゾーの1コマ抜けをやる羽目になったり、甲羅の蹴りを避けたりと進んで

いく。

明久「うひい…ホントに1ミスしたら危ないな；」

京谷「ミスしたら普通のに戻っちまうからな」

慎重に操作しながら緊張する明久に京谷も同意する。

秀吉「そろそろ見えて来ても良いじやろう」

はやて「確かに50秒もな」

鬼矢「さて次は誰がタイキツクだ？」

誰もが息を飲む中で土管に辿り着き、入った後にゴールバーを越え、暗転が消えると

：

ティーチ

タイキツク

と書かれていた

デーン！

ティーチ、タイキツク！

ティーチ「拙者が来ましたか…」

鬼矢「まあ…：ドンマイ；」

それに鬼矢が励ましていると…Xライダーが来た。

ティーチ「アイエエエエエ!? Xライダー!? Xライダーナンデ!?」

Xライダー「ドーモ、エドワードIIティーチさん。Xライダーデス。俳句を読め」

戦慄するティーチにXライダーはそう言う。

ティーチ「え、えつと…今回、悪くないやあああああああ!?」

言う前にティーチにタイキックは炸裂する。

榊「南無…」

秀吉「残り後は3つじやな」

鬼矢「次は誰がやる？」

はやて「うちがやる」

名乗りあげたはやてにはいと明久は手渡す。

はやて「頑張るで」

榊「ゲームのは大丈夫ツスカ？」

気合を入れるはやてに榊は聞く。

はやて「平気やく小さい頃になのはちゃん達とやったりしてたからな」

そう言つて6番目の土管を抜けると…ブロックがたぬうくと言う字が描かれていた。

明久&雄二「ぶっw」

ティーチ「何これww」

秀吉「不意打ち過ぎじやw」

鬼矢「予想してたのかよwww」

榊&京谷「ぶははww」

デデーン！

はやて以外、OUT!

はやて「なんでやねん」

まさかのははやて以外が爆笑し、はやては真顔でツツコミを入れる。
パシーン!

明久「本当に不意打ちでしたね」

鬼矢「確かにな……」

たぬうゝの不意打ちにそう言う明久に鬼矢も同意する。

はやて「とにかくゴールにいったるで!」

そう言つてはやては操作する。

ブロックを叩くとハテナキノコが現れる。

明久「あ、なんか先の展開が読めた」

雄二「奇遇だな明久。俺もだ」

榊「雄二に同じく」

その言葉の後にははやてはハテナキノコを取ると……マリオはたぬうはやてになった。

はやて「なんでやああああああ!!」

明久「たぬきちと予想してたけどこれは予想外w」

雄二「もうこのコースははやてさん確実だろw」

榊「wwwww」

秀吉&鬼矢「くくwww」

京谷&ティーチ「ぶははははははwww」

デデーン！

はやて以外、OUT！

またも爆笑してはやて以外がアウトになる。

バシーン！

はやて「もう早く行くで！」

鬼矢「頑張れよ〜」

そのままはやては動かして走る。

途中ではクリボーが出て来るだけで普通のステージと変わらず、ゴールバーまでたり着き、暗転が消えると…

たぬう

タイキツク

と書かれていた。

デデーン！

はやて、タイキツク！

はやて「最後の最後まで!!」

一同「ぶくくwww」

デデーン!

はやて以外、OUT!

最後の最後までためうーで通されたのに誰もが爆笑する。

明久「はやてさんに悪いけど本当に笑えるよ」

鬼矢「確かにこれはな…」

そう言う明久に鬼矢も同意する中ではやては7番目の土管に来る。

はやて「ほい京谷くん」

京谷「次は俺か」

んじやあ入るかと7番目に入る。

そして出た先は…水中ステージであった。

明久「次は水中か」

鬼矢「水中ステージは初めてだな」

呟く明久の後に鬼矢がそう言った後に京谷は操作して進むと複数の土管に1つ1つの上にコインが絵を描いていた。

秀吉「これは…」

榊「あの絵なんだ？」

ティーチ「何やら動物らしいですな」

それを見て言う秀吉と榊の後にティーチがそう言う。

はやて「何かのヒントかいな？」

鬼矢「それぞれなんの動物だ？」

明久「んーと…順番に簡単な感じで犬、兎、魚、猫かな？」

呟くはやてと鬼矢の後に京谷の操作で全部見てから明久はそう言う。

雄二「どれかが出口への道しるべってか」

榊「犬はワンワンが出てきそうだな」

ティーチ「ありえそうですな」

どれに入ろうかと誰もが悩む。

明久「うーん。無難に水中と言う事で魚のに入ってみます？」

鬼矢「そうするか」

と言う訳で入ってみた。

出た先は…大量の跳ねるプクプクであった。

ティーチ「なにこれw」

雄二「水の中じゃねえから意味ねw」

榊 「つか可哀そうだろww」

京谷 「それなw」

デデー！

雄二、榊、京谷、ティーチ、OUT！

ぴよんぴよん跳ねるプクプク達に思わず笑ってしまう。

パシーン！

明久 「ゴールバーがすぐ近くだからこれが正解だったんでしょかね？」

鬼矢 「さあな」

ともかくにもゴールバーを通り、暗転から誰が出るのか緊張する。

はたて

タイキツク

と言う文字であつた。

明久 「ん？」

雄二 「あ？」

秀吉 「はあ？」

ティーチ 「んん？」

榊 「え？」

はやて「へ？」

鬼矢「あ？」

まさかの参加者じゃないのに呆気に取られる

楽屋裏

はたて「ちよおおおおおおおおおお!!？」

沖田「あ、いつけねえくはやてだったのに真ん中の一文字を間違えちまったぜい☆」

文「間違いは仕方ないですね☆」

一方で見ていたはたては絶叫し、コースを制作した沖田と文はてへペロをする。

顔を青ざめるはたての後ろには目を輝かせる闘士アントラーがおり：

バシーン!!

あいたああああああああああああ!!?

明久「うわ凄いや；」

雄二「聞こえて来たな」

鬼矢「助かったなはやて」

はやて「そ、そうやな；」

聞こえてきた声に各々に言った後に最後の土管に入る。

そして出ると：キノコだらけの場面であった。

明久「うわあ、キノコたっぷり」

秀吉「ホントに多いのじゃ；」

雄二「ハテナキノコもあるな」

榊「毒キノコもあるな」

色々を気を付けないといけなないと操作している明久はキノコをちゃんと見ながら動いて行く。

明久「ホントに注意しないと毒キノコとキノコを間違えそうだから大変だよな」

雄二「ああ、遠目から見ると似てるもんな」

京谷「間違いやすいよなほんとに」

話しながら進む中で大きくなったり様々なキャラになりながら進む。

明久「それにしてもキャラマリオは本当に多いよね」

雄二「まあ、確かにそうだな」

鬼矢「作ればもう種類は無限にもなるしな」

プレイを見ながらそういう明久に雄二も同意し、鬼矢も言うところゴールバーが見えて、ゴールし、暗転の後に出て来た文字は：

ユウジ

たすてけ

明久&秀吉&ティーチ&はやて&鬼矢「何これ？」

雄二「と言うか俺かよ」

京谷「なんか見た事あるけどな…」

榊「あ、もしかしてこれは…」

内容に榊を除いて首を傾げ、榊が何か察すると…

エリちゃんズ「「確保!!」」

そこにミニスカポリスな恰好の翔子とジャンヌオルタとブリュンヒルデを除いた雄

二のサーヴァントメンツが現れて、雄二を取り囲む。

雄二「な、何するんだ!!」

翔子「大丈夫。連れて行くだけだから」

驚く雄二に翔子がそう言ってエリちゃんズが持ち上げて連行していく。

突如起こった雄二連行…次回、あの訓練が始まる!

捕まっつてはいけないまで

前回、翔子とエリちゃんズにより連行させられてしまった雄二。

そんな雄二と入れ替わりにアナとブラックキングSDにサンダーダランピアSDが入って来る。

明久「え、え？」

ブラックキング「さあ、移動するで〜」

鬼矢「あーあれか」

京谷「アレだよな…」

その様子から誰もがあ、ああ…と察すると共に移動を開始し、しばらくして更衣室の前に案内される。

文「あ、そちらの人はこちらに」

沖田「連行するぜ〜」

鬼矢「ん？」

ただ、鬼矢も現れた文と沖田の2人によりどこかへ連れて行かれる。

明久「2人同時に捕まる感じなのかな？」

京谷「そうみたいだな」

アナ「と言う訳で男女で分かれて着替えてください」

それを見届けながら首を傾げる明久と京谷の後にアナの指示の元、更衣室で別れ（秀吉は専用の更衣室で）着替えてグラウンドに集合した。

そして奥では透明なボックスに閉じ込められた雄二と：

鬼矢「(⊗ ⊗ ⊗) スヤア」

気持ちよく寝ている鬼矢の姿があつた、

明久「寝てる!？」

榊「なんで?!」

ブラックスキング「ほら、あの人結構ストレス溜まると物騒な言葉を出してるからそれのリラックস্যヤ」

サンダーダランビア「このままやっていると大暴れしそうだから本人のストレス発散ので快眠グッズと防音ルームで休んでもらう事にしたツス。ぶつちやけ笑ってはいけないで物騒な言葉を発しし続けるのはいけないツス」

雄二「そりやあそうだ」

榊「と言うか今回やり過ぎだしな；色々」と

説明する2人のを聞いて頷く雄二の後に榊がそう言う。

ブラツクキング「本家笑ってはいけなさを思い出してもあつちよりやり過ぎとそう言えるかいな？」

明久「あー…うん」

京谷「他番組のを使つてる方じゃこつちがやり過ぎじゃね？」

そう言ったブラツクキングのに明久は唸る中で京谷がそう返す。

メガロ「二次創作界でその言葉はないでしょ！お仕置き！」

デブーン！

京谷、OUT！

唐突に出て来てメガロがそう言うと言音が流れる。

ティーチ「理不尽!？」

京谷「のおおおおおお!!」

パシーン!!

宣告に京谷が絶叫して叩かれた後にアナが説明を開始する。

アナ「とりあえず、本家と同じ様に鍵を見つけてください。また、この時は笑つても良いですが、あそこから出て来る鬼には捕まらない様にしてください。それと雄二と鬼矢さんに変わる助っ人がいますので」

明久「あ、いるんだ」

榊「助っ人で誰だ？」

あつちやあつち！とブラックキングが言った方を見ると1人の青年が走って来る。

サンダーダランピア「と言う訳で鬼矢さんの仲間の白麟黄 純さんともう1人が助っ人に入ります」

純「やあ、今回は宜しくね」

榊「あと一人は誰だ？」

そう言うサンダーダランピアの後に挨拶する純の後に榊が気になって呟くと：

??? 「ちよつと!? 放してくださいよベンケイさん！」

??? 2 「放したらあんちゃんは逃げるだろ。選ばれたんだから腹をくくれやあんちゃんよ」

秀吉「……明久の声じゃな」

明久「僕じゃないよ」

はやて「ヒロ君：じゃないな、口調からして」

なんだなんだ？と誰もが見るともがく青年を抱えた坊さんの様な男性が来る。

アナ「お疲れ様ですベンケイさん」

ベンケイ「おう。とにかく連れて来たぜ」

青年「げふ!？」

「もうアナにそう言ってからベンケイと呼ばれた坊さんの様な男性は抱えていたジャージを着た青年を荒々しく降ろす。」

ブラツクキング「はい、と言う訳で2人目の助っ人は明久はんと同じ声のゼロキスさんやで〜」

京谷&榎「ちよつとまってええええええ!？」

「そう言うブラツクキングに京谷と榎は叫ぶ。」

「連れて来られたゼロキスも同じなのかガバツと顔を起こす。」

ゼロキス「ホント何事!?!なんかいきなり呼ばれたと思ったらおそ松達に強制的に服を脱がされてジャージを着せられたと思ったらいきなり連れてこられたんだけど!?!と言うかホントなにこれ!?!」

ベンケイ「あんちゃんも6兄弟やあいつらから笑ってはいけないってのを聞いただろ? その中のイベントのにあんちゃんが選ばれたんだよ」

「叫ぶゼロキスにベンケイはそう説明する、」

ゼロキス「つまりそれって尻叩かれたりタイキックとか食らう奴でしょ!?!」

榎「まあそうだな。ただ、これからあるのはそれ以外にも食らうな」

京谷「スリッパとか色々とな…」

「またも叫ぶゼロキスに榊と京谷はうんうんと頷きながらそう言う。

ベンケイ「何言ってるんだあんちゃん。結構注目されると思うぞ」

ゼロキス「笑いの意味でね！ああもう、なんか言っても仕方ないから早くやってくれない！」

アナ「はいはい、では、スタートしますね」

純「ふふ、どうなるか楽しみだね」

腹をくくってそう言うゼロキスのにアナはフェッスルを取り出しつつ言い、純もワクワクする。

アナ「ちなみに鬼は本家同様に10分経過で増えます。では、スタートです！」

ピー！！

笛の合図と共に置かれていたステージから鬼が飛び出してくる。

明久「来た来た！」

秀吉「しかも定番のスリッパじゃ！」

京谷「逃げるぞ！」

四方八方に散らばる8人。

狙われたのは…

ゼロキス「うわ、こっち来てる！」

助っ人のゼロキスで必死に逃げるが捕まってしまい…
パシーン!!

ゼロキス「あいた!?!」

強烈なスリッパ叩きを受ける。

明久「ホント痛いねあれは」

純「地味に痛いよな」

頭を抑えているゼロキスを見てそう言う明久と純の後に次の鬼が現れる。

ティーチ「定番のハリセンが来ましたぞ!」

はやて「あれも強烈やよね!」

京谷「逃げるぞ!」

再び逃げ回るとハリセンの鬼が目を付けたのは…

はやて「私か!」

はやてでハリセンの鬼に早速捕まり…

パシーン!!

はやて「ぎゃふん!」

明久「ホント凄いな」

ゼロキス「大きく鳴ったな…」

純「良い音だったね」

頭を抑えるはやてを見て明久とゼロキス、純が思い思いに言う中ではやてが合流する。

ティーチ「それで鍵を探すとどこらへんを探した方が良いでしょうかね？」

榊「あの建物の中じゃねえか？」

そう言つて更衣室などがあつた建物を榊は指し、確かにありそうと考える。

ゼロキス「散らばつて探すの？」

はやて「まあ、そうなるな」

京谷「そうしないと見つからないからな……ちやんと隠してあるよな？本物」

秀吉「言いたくなる事は分かるのじゃ……案内役が持つてたりしておるパターンがあるしのう；」

そう言う京谷に秀吉は同意する。

明久「まあ、とにかく……迫つてるし散らばろうか！」

その言葉と共に8人は散らばる。

その8人の内、京谷へとスリッパの鬼が迫る。

京谷「ぬおおおおお!!？」

必死に走る京谷だが捕まり……

バシーン!!

京谷「ぐほ!？」

ハリセンを頭に受ける。

一方で逃げたゼロキスは建物に入っていた。

ゼロキス「うう、鍵はどこかな…」

辺りを見渡しながら探すと箱を見つける。

ゼロキス「あれかな？」

試しに開けるとスイッチが入っていた。

ゼロキス「何これ？」

気になったので試しに押してみた。

ぶしやああああああ!!

雄二「うお!？」

それと同時に雄二の方でCO₂ガスが噴射される。

ブラックキングSD『はい、ただいまとある人物がスイッチを押した事で次に出る鬼に特殊な鬼が追加されるぜ』

明久「え!？」

榊「何!？」

告げられた事に誰もが驚き、ゼロキスはあつ、やつちやつたと冷や汗を掻く。そうしてる間に10分経過する。

アナ『10分経過、鬼を追加します』

秀吉「どういう鬼なんじゃろうな」

はやて「せやな…」

榊「嫌な予感がするな…」

アナウンスのを聞いて一旦集まって会話しながらそう言っていると鬼が迫る。

秀吉「来たのじゃ！」

榊「なんて書いてあるんだ？」

そう言つて確認しようとする榊だが足が速いので慌てて逃げる。

そして狙われたのは…

はやて「また私か！」

はやてで捕まってしまう。

ティーチ「はやて殿が捕まったでござる！」

明久「えつと…妊婦体験？」

京谷「は？」

書かれていたのを読んだ明久のになんじやそりやあと京谷と榊とゼロキスは首を傾

げる。

明久「あー：そう言えば千雨から聞いた事あるや。妊婦さんがどういふ感じかを体験できるジャケットがあるんだってさ、丁度臨月位でどれ位大変かを実感出来るとか」

ティーチ「はあくそんなんですか」

京谷「凄いなオイ；」

思い出して言う明久のに他の面々は感心する中でそれを付けられた事でお腹が目立つはやてが合流して来る。

はやて「うん。凄く重たくて走るのが大変やった」

ゼロキス「それは大変だったね」

純「こういうのか特殊な鬼って」

そう返すはやてにゼロキスはそう言うのと純が呟く。

するとバットを持った別の鬼が来る。

ゼロキス「あ、来た！」

秀吉「見るからにケツバットじゃな！」

京谷「こつから飛ぶぞ！」

そう言つて京谷は窓から飛び出す。

そして：降りた先にいた鬼にキヤツチされる。

明久「あ、鬼に捕まった；」

榊「バカだな。こうすればいいのに」

それを見て明久は冷や汗を流す中で榊は壁に張り付きながらそう言ったが：先ほどのケツバツトの鬼はアクロバティックな動きで榊を捕まえた。

ティーチ「……凄く対策をされているでござるな；」

ゼロキス「つてか、京谷つて奴を捕まえたのにパンダつて書いてたけど」

純「え？パンダ？」

壁から剥がされる榊を見ながらそういうティーチの隣で京谷の方を見ていたゼロキスがそう言い、純は出て来た言葉にまさかパンダに襲われるの：と考える。

明久「あ、ちなみに顔をパンダの様にメイクアップされるだけです」

純「そうなんだ。財団Xなら本当にやれそうだから心配だったよ；」

ティーチ「それは笑えないでござるぞ純氏；」

バシーン！！

補足する明久のにホツとする純にティーチがツツコミを入れてると榊が丁度ケツバツトされる。

榊「いつてえ……なんだよさっきの鬼……」

明久「素でも運動神経抜群な榊たち対策に鍛えられてるんじゃないかな？」

お尻を摩りながらぼやく榊に明久がそう言うのと京谷が戻って来て…誰もが噴いた。

明久「予想通りだとしてもw」

ティーチ「す、凄く笑えますなw」

秀吉「く、くくww」

はやて「あ、あかんわww」

ゼロキス「ぶははははははははははw」

純「ぶははははははははははw w w w!!」

榊「ぶははははははははははw w w w w!」

京谷「笑うなあ!!」

大爆笑する面々にパンダ顔にメイクされた京谷は叫ぶ。

しばらくして歩いているとちよこんとおかれている箱を見つける。

明久「あ、箱だ」

純「もしかしたら鍵が入ってるかもね」

手に取って明久は箱を開けると鍵が入っていた。

秀吉「本家を見るとこれが本物か分からのう」

はやて「けど使わんと分からのうしな」

榊「取り敢えず使ってみるか」

そう言つて一同はグラウンドに戻る。

明久「…今更だけど、もし間違つてたら雄二がどうなるんだろう…本家だとおばちゃんだったし…」

秀吉「確かに；」

京谷「流石に同じな訳ないよな……」

純「一体なにになるんだろうな」

色々と気になりながら雄二が閉じ込められてるのに近づく。

雄二「来たか」

明久「あー…間違つてたらごめん」

そう言つて明久は鍵を差し込もうとする。

明久「えつとあー…うん。駄目だ。大きさは同じだけど形が合わない；」

純「つてことは……」

デーン！

その後には音が鳴り響き、誰が来るんだとハラハラして…噴いた。

そんなメンバーの様子に雄二は恐る恐る振り向き…項垂れる。

雪乃「はあ〜い雄二♪」

雄二「おふくろかよおおおおお!?」

黒タイツを纏った自身の母親である雪乃の登場に雄二は絶叫する。
ゼロキス「え？あの人お母さん？」

はやて「若いな」

ティーチ「あれ普通にお姉さんで通るレベルでござるな」

榊「確かにそうだよな；」

京谷「バカテスキヤラの母親って凄い若いんだよな；」

出て来た雪乃に初対面な面々はそう述べて、榊と京谷はうんうんと頷く。

雄二「おい待て、まさかおふくろが…」

雪乃「そうよくお鼻にチュ、チュしてあげるのは小さい頃以来よね」

うふふと笑う雪乃にマジかよ!!!と雄二は絶叫する。

雄二「婆も嫌だが実の親かよ！」

明久「うんまあ、まだマシ…じゃないかな；」

秀吉「そう…じゃない；」

ティーチ「ええじゃない凄く美人で」

純「うん、雄二君の気持ちホント分かる…」

榊「あくそう言えば純は…」

京谷「何時も姉から逃げていたな；」

絶叫する雄二に明久と秀吉はそう言い、半目で見るティーチの隣で哀れみの籠った目で雄二を見ながら言う純に榊と京谷は冷や汗を掻く。

ちなみに：

霧島「羨ましい…」

清姫「お母さま、羨ましいですわ」

エリちゃんズ「「(・ω・)」」「」

ブーティカアベンジャー「あらあら」

舞台裏で雄二LOVEズが羨ましい目で見ている。

とりあえず鼻にキスされたのを見届けてから移動しようとし：

ポン

明久「え？」

何時の間にか来ていた鬼に明久が捕まる。

ティーチ「明久殿が捕まった！」

はやて「えつと…幼児？」

純「幼児？」

何それ？と誰もが思っていると別の鬼が来て、明久に何かを飲ませる。

明久「う!？」

秀吉「明久!？」

京谷「な、何が起こるんだ？」

目を見開く明久に誰もが喉を鳴らす。

明久「美しい！」

ずこっ!!

誰もが出て来た言葉にこけた。

ティーチ「何その反応!？」

榊「なんか起きるかと思っただろ！」

京谷「ドキドキさせるな！」

それに誰もが総ツツコミを入れた後：

ポン!!

と言う音と共に明久は煙に包まれた。

ティーチ「と思ったら起こった!？」

はやて「ワンテンポ置いたな!？」

京谷「大丈夫か明久!？」

続けて様の現象に誰もが見ると：

明久「ふにゅ？」

小さくなった明久が現れた。

ティーチ&秀吉&ゼロキス「小さくなった
!!!?」

はやて「あらかわええ」

京谷「幼児化つてこういう事か…」

ズドドドドドドドドドド!

それにティーチと秀吉にゼロキスは絶叫し、はやてがそう言い、京谷と榊は納得して
いると…

榊「ん?何の音だ?」

地響きの様な音に誰もが疑問を感じて振り返ろうとして…

その前に全員の前を何かが通り過ぎてしまい、目で追いかけてしようとした面々は追いつ
けなかった。

そして小さくなった明久がいなくなった事に気づく。

秀吉「明久の姿がない!」

ティーチ「さっきので消えたでござるか!」

アナ「と言う訳でスローで見ましよう」

ゼロキス「何時の間に!」

驚く面々にアナがノートパソコンを見せる。

そこには：明久を抱き抱える嬉しそうな玲とそれを追いかける明久LOVEZの姿があった。

ティーチ「リア充爆発しろでござるの巻」

秀吉「姉上に姫路達エ：」

京谷「おい、スタツフこれどうするんだー？」

アナ「少々お待ちを、ただいま対処中なので」

思わずそう言うティーチの隣で顔を伏せる秀吉を横目に聞く京谷にアナはそう返す。

ズドズドズドオン！ドゴオオオオオオオン！

榊「なんか物騒な音聞こえてんな；」

聞こえてくる音に誰もが冷や汗を掻く。

ポン！

ティーチ「はっ!？」

その間に鬼が来ていて、ティーチが捕まる。

はやて「：マツスルドツキングと書いてるな」

榊「ん？つてことは：」

ティーチを連行する鬼に書かれたのを見て言ったはやてのに榊はある程度予想する

と…

Xライダー「ドーモ、ティーチIIさん、Xライダーです」

ティーチ「アイエエエエエ!? Xライダー!? またXライダーナンデ!? アイエエエエエ!?」

待ち受けていたXライダーにティーチは絶叫する。

ケツアコアトル「oh! 準備はOKデスね!」

カエサル「ぬおおおお!! 放すのだ!」

そして隣にはケツアコアトルと縛らされたカエサルが転がっていた。

秀吉「またカエサルは何かしたんじやな」

榊「一体何したんだよ…」

京谷「まあどうせ碌なことじゃないんだろうなあ」

転がっているカエサルに呆れる秀吉達3人の後にXライダーとケツアコアトルはティーチとカエサルを用意されたリングの上に引きずって連れて行った後に上へと投げ、2人は高くジャンプし、Xライダーがティーチへとキン肉バスター、ケツアコアトルがカエサルにキン肉ドライバーを仕掛け…

Xライダー&ケツアコアトル「マッスルドッキング!!」

仮面と英霊のダブルライダーの合体技を炸裂させた。

ティーチ「ごは!?!」

カエサル「(チーン)」

はやて「おう、強烈」

ゼロキス「あれは受けたくないな…;」

榊「大丈夫か? あいつら…;」

崩れ落ちる2人を見て各々にそう漏らした後にあつさり起き上がったティーチがててと戻って来る。

ティーチ「ホント…きつかったでござる」

ゼロキス「良く動けるね;」

はやて「せやな」

頭を抑えるティーチにゼロキスとはやてがそう言った時…

???「見参ログイン!!」

いきなり誰かが現れ、現れたのにゼロキスがあつ!と声を上げる。

ゼロキス「シヤナオウさん!?!なんで!?!」

シヤナオウ「うむ、リトルになった吉井明久を愛でたいと言う女性陣のレジスタンスが続いているので捕まってはいけないが終わるまで急遽ログインする事になった」

秀吉「姫路達…」

純「一体どんだけ抵抗してるの…」

榊「ネロ達、強いからなー」

驚いて聞くゼロキスにシヤナオウが参加する理由を答えると秀吉は空を仰ぎ、純と榊は呆れる。

シヤナオウ「む？早速来たようだぞ」

ゼロキス「うわマジ!？」

純「皆！バラバラに逃げるよ！」

榊「おう！」

シヤナオウからの言葉と共に8人はそれぞれ分かれる。

鬼が目を付けたのは：

シヤナオウ「む？こちらにターゲットイングしたか」

シヤナオウで走るシヤナオウへと鬼は追いついて捕まえる。

捕まえた鬼はスリツパの鬼だったのでシヤナオウはスリツパで頭を叩かれる。

バシーン！

シヤナオウ「ぬう!?!なかなかこのトレーニングはくやれないな」

純「意外と痛いよねそれ」

叩かれた所を抑えながらそう言うシヤナオウに近づいた純がそう言う。

秀吉「鍵を見つけたのじゃ！」

はやて「うちもく」

榎「俺もだ」

京谷「こつちもあつたぞ」

すると合流して来た4人がカギを見せて言う。

ゼロキス「一気に見つかつたな……」

純「もしかしたら全部偽物かもね」

ともかくにもカギは見つかつたので向かおうとして……

シヤナオウ「む？鬼が来たぞ！」

ティーチ「退避ですぞ！」

そう言つてそれぞれ逃げ、鬼が狙いを付けたのは……純であつた。

純「僕うううううううう!!」

そのままポンと捕まる。

ゼロキス「えつと……ワンワン大行進？」

ティーチ「犬の風船とかでしょうか？」

誰もが書かれていたのに？マークを浮かべていると純の腰に……骨がくくり付けられた縄が付いたベルトが装着される。

またもどう言うのか分からないのでん？となると犬の鳴き声が聞こえて来て……純へ

と沢山の犬が突撃する。

ティーチ「純殿おやおおおお!？」

アナ「ちなみにこの犬達はバニングス家の協力の元です。後骨はカラットジュシーのです」

秀吉「それは良い臭いするのう；」

榊「んなこと言ってる場合か！大丈夫かい!？」

それにティーチは絶叫する隣でそう言うアナのに秀吉は冷や汗を掻いてから榊がそう言う。

ちなみに純は：犬たちに顔を舐められてくすぐったそうにしていた。

純「あははははwwくすぐりたいよもう」

ぺろぺろと舐める犬たちにそう言った後に純は起き上がる。

そのまま犬たちは骨を啜える。

ゼロキス「動き辛そう」

榊「あれじゃあすぐに捕まるんじゃないやね？」

と言っていると鬼が来てまたか！と誰もが逃げる。

ポン！

はやて「私か！」

その後にはやてが捕まる。

秀吉「…三角…木馬；」

ティーチ「え、まさか…」

京谷「マジか…」

沖田「へいへい」

龍田「あらく良い子が来たわね」

書かれていたのに誰もが冷や汗を掻く中で…三角木馬を持ってDSコンビが来た。

はやて「あーーーーー!!色々と!!」

ティーチ「わーお；」

ゼロキス「妊婦な恰好の人が拷問って；」

榊「色々と…アウトだよな；」

純「うん…」

沖田と龍田に責められているはやてを見て各々にコメントするのであった。

1分後、はやては解放された。

はやて「はあはあ…と、とにかく鍵をやるうか…」

純「そ、そうだね…」

疲れた顔で言うはやてに純が代表で頷く。

秀吉「それで誰からやるのじゃ？」

榊「んじやあ俺から行くぜ！」

京谷「頼んだぞ榊」

そう言つて榊がチャレンジして鍵を試しに入れてみる。

結果は…

デデーン！

やつぱダメだったか…と榊が思っていると…

コンボイ「ガツデム!!」

サングラスを付けたコンボイが現れた。

ゼロキス「な、何あれ!？」

シヤナオウ「カムイ殿の様な生命体か！」

純「あーこれは……」

榊「すまん、雄二……」

秀吉「いや、榊…これはお主だと思つぞ…よく見るのじゃ…」

雄二「ああ、ホントにな」

驚くゼロキスとシヤナオウの隣で察する純の後にそう言う榊だったが秀吉と雄二の言葉にえ？となつた後に…確かにコンボイが現れたのはボックスの外側からであつた。

コンボイ「お前か！間違えたのは！」

榊「え？あ、はい……」

迫るコンボイに榊は頷く。

コンボイ「良く言った。歯を食いしばれ！」

バチーローローローン!!!

榊「ぐおっほ!!!」

強烈な（一応手加減）ピンタが炸裂して、榊は用意されていたマットの上に崩れ落ちる。

コンボイ「ガツデム……」

秀吉「おお……」

ゼロキス「きつそう……」

純「まさかのこっち側か……」

ティーチ「いや、使用した側にお仕置きが来るのは近年なのであつた事でありますからな……」

去つて行くコンボイから震えている榊を見て言う純にティーチがそう教える。

秀吉「つ、次はわしが行こう」

ティーチ「ガンバですぞ；」

シヤナオウ「フアイトだ秀吉殿！」

純「頑張れ秀吉くん！」

と言う訳で次に秀吉が挑み：結果は：

デデーン！

秀吉「わしもじやつた：」

清水「秀吉いいいい!!」

外れでそこに清水が駆け寄つて来て：

こちよこちよこちよこちよ

秀吉「わははははははは!？」

清水「ホントなんで大きくなるのです！と言うか巨乳になったお姉さま並とか優子義姉様の気持ちがあめつちや分かりますわ!!」

強烈なくすぐりを炸裂させた。

ティーチ「うーん、このイチヤイチャ」

ゼロキス「羨ましい：」

純「羨ましいのアレ；」

それに思わず眩くティーチの後にそう言うゼロキスに純は冷や汗書いて聞く。

ゼロキス「いやだつて、あの子男の子だからあんなに女の子に積極的に絡まれるつて

言うのがね……」

シヤナオウ「なんと!? 秀吉殿はボーイだったのか!？」

榊「気づかなかつたのか……。今はある食べ物であなつてるんだよ」

ティーチ「いや榊殿、事情を知らないで一目で分かれと言うのは酷じゃないだろうか
? しかも秀吉殿ですし;」

理由を言うゼロキスにシヤナオウは驚き、榊のにティーチはそう言う。

京谷「あー確かに;」

はやて「しかも今は胸もあるんやし分からへんつて」

シヤナオウ「しかし、良くわかつたなゼロキス殿」

ゼロキス「まあ、大体、雰囲気とかで分かるからね」

ティーチの言い分に納得する京谷の後にはやてがそう言う隣でシヤナオウは感嘆し、
ゼロキスがそう返す。

少して顔を赤らめて清水は去り、秀吉も顔を赤くしながら合流する。

秀吉「ぜーはー……つ、次は京谷でどうじやろうか?」

京谷「俺か……よし」

言われて京谷は緊張しながら登って鍵を差し込もうとする。

結果は……

デデーン!

京谷「やっぱ駄目か!？」

結果はハズレで榊は崎守が来るかな…と思っっていると…

しろボン「ハズレを引いた人は君かい？」

まさかのしろボンの登場に榊はなんでやねんと思いつながら京谷を指す。

榊「ああ、そいつだぜ」

しろボン「んじゃあ…パイをプレゼント!」

そう言つて京谷の顔面にパイを叩き付ける。

ティーチ「さらに白くなつたw」

純「ぶぶぶwwww」

じゃあねとしろボンが去つた後に顔にパイを張り付けたままの京谷にメンバーは笑う。

いよいよ鍵は1つとなり、はやてはごくりと息を飲む。

はやて「さて、最後はうちやな」

純「はたしてそれが本物なのか…」

そう言つてはやては近づく。

手に持つた鍵を差し込み…そして…

ガシャン!!

鍵が周り、扉が開いた。

はやて「やったあああああ!!」

ゼロキス「開いた!」

純「これで!」

鍵が開いた事に誰もが喜んだ後に雄二がやれやれと出て来る。

雄二「2回目のおふくろのが来なくて良かったぜ…」

榊「あははは;」

そうぼやく雄二に榊は苦笑する。

ホントだよねと純もうんうんと頷いている。

ゼロキス「終わって良かった」

シヤナオウ「うむ!これにてミッションコンプリートだな」

京谷「ふう、なんとか終わったな」

誰もが安堵の息を吐くとおーいと言う声と共に明久が来る。

秀吉「明久:無事じゃったのじゃな」

明久「えつと:なんか飲まされた後のが全然記憶になくて:何があったの?」

純「あー記憶ないんだ:」

榊「薬の副作用か？」

頭を掻いて言う明久のに純と榊は眩く。

明久「ただ：周りで姉さんや姫路さん達が倒れてて、なんか悔いなしとか色々と言つてた」

ティーチ&ゼロキス「こわっ!？」

シャナオウ「ふむ、ミステリーだな」

はやて「不思議でも何でもないんやけどね；」

榊「確かにね；」

純「んじゃあそろそろ僕達はここで失礼するよ」

明久の言つた事に叫ぶティーチとゼロキスの後にそう言うシャナオウにはやてがツツコミ、榊も同意する中で純がそう言う。

ブラックキングSD「あー、それやけど、純さんには鬼矢さんにな変わってこのまま笑つてはいけないに参加して貰えると嬉しいんやけど」

すると近づいて来たブラックキングSDが言つた事にえ？となる。

突如出てきた選手交代、果たしてなぜ純が鬼矢と入れ替わって参加して欲しいと言われたのか…

交代の理由からレクレーション大会まで

前回の最後、突如お願いされた交代、それには誰もが戸惑う。

純「なんで？僕これから姉さんとお茶のみながらこれ見ようと思ってるんだけど」

サンダーダーランピア「いやー運営とも会議したんツスけど、鬼矢さんが強烈なネタでやらんと爆笑せえへんのとあんまイライラさせていると大暴れしそうだから鬼矢さんと入れ替わりで参加して貰った方が良いんじゃないかなと言う結果になったツス」

榊「あー確かに：」

京谷「鬼矢全然笑ってないしな：」

なぜかを聞く純にサンダーダーランピアが答え、理由に榊と京谷は納得する。

純「成程ね：まあ、鬼矢、あまりこういうのに向いてないんだよね」

アナ「ちなみにあなたのお姉さんからも参加する事に関しては本人が承諾したら良いとの事で、無理なら鬼矢さんを抜いて7人で進行する事になります」

雄二「成程な」

榊「どうする純」

納得してから肩を竦める純へとそう伝えるアナに誰もが納得して榊が聞く。

純「んじやあ…参加させてもらおうかな」

アナ「ではこれを食してください」

折角だし…と言った純はそう言っただけで差し出されたペアと鬼矢が着ていたのと同じピチピチの服にあ、なんか参加するの後悔したくなったと思う中でアナがある物を見せる。

『私、西行寺幽々子は女体化してても純ちゃんのを愛を変わらぬ事を誓い、にやry暴れない事をここに記します。 西行寺幽々子 』

純「……(涙)」

明久「………(ポン)」

心底、姉からの愛に涙を流す純に明久は無言で慰める。

その後、ペアを飲んで泣く泣く着替えた純と共に部屋へと戻る。

純「ああ、まさか鬼矢が着されていたのを着る羽目になるなんて…」

恥ずかしさで顔を覆っている純にティーチが恐る恐る話しかける。

ティーチ「じゅ、純殿、ここは一つ福笑いをするのはどうでござろうか；」

榊「福笑い？」

京谷「そんなのあったか？此処に？」

そう提案するティーチに榊と京谷は首を傾げる。

ティーチ「あつたよ！ マリオメーカーの印象が大きかったけど拙者の机の引き出しの2段目に入ってたでござるよ」

明久「入ってたね」

榊「笑い系のはあるのか：」

雄二「普通に笑いのだろう」

必死に言うティーチのに思い出して言う明久のに呟く榊に雄二はツツコミを入れる。

京谷「ああ、そうだったな！」

榊「それをやる前に雄二が連れて行かれたからな：まあ、何かのイベントまでやって見るか」

やっと思い出した京谷の後に同じ様に思い出した榊は頷いてからそう言う。

と言う訳で早速福笑いをやって見る。

ちなみに目隠しはないので目を瞑ってである。

渡す役であるティーチ以外も見えない様に背を向けている。

ティーチ「では、まずは目の所を渡すでござるよ」

純「うん、分かった」

ほいと手渡すティーチに純は渡されたのを目の前の板に勘で置き、もう片方を隣に置

く。

ティーチ「次は髭を渡すでござる」

純「髭だね」

次のに純は自分が置いた目のを動かさない様に確認しながら置く。

ティーチ「次は眉毛を渡しますぞ」

純「眉毛ね。分かった。次はなに？」

そう言つて渡されたのを置きながら純は聞く。

ティーチ「残りは口と鼻でござる。どっちが先でよろしいでしょうか？」

純「それじゃあ口で」

あいよ！と渡されたのを置き、最後の鼻を置いた後に出来栄えは…と目を開け…

結果：目が左右逆で鼻と口が逆位置なりヨティーチの完成

明久「ぶふw」

雄二「おまw渡すの逆にしたろw」

ティーチ「笑いを取りましたw」

はやて「あかん。普通に口の形が鼻に近いのもあつたからかw」

秀吉「これはww」

榎「ぶははははははははwww!!」

京谷「これは、我慢無理ｗｗｗ」

純「あはははははｗｗｗ」

デデーン！

全員、OUT！

ティーチの策略に本人も含めて誰もが爆笑してしまう。

バシーン！

明久「福笑いはマジ笑っちゃうよね…」

ティーチ「もう一回誰かやる？」

榊「や、止めとこうぜ…」

勧めるティーチに榊は断る。

もしもやったらまた笑いそうになると思っている。

えーと残念がるティーチを後目に明久は福笑いを片付ける。

そこにアナとブラックキングたちが来る。

アナ「皆さん。他の人と交流するレクレーション大会をしますので付いて来てくださ

い」

ブラックキングSD「着いたら笑ってもええけど負けたら罰ゲームあるからな」

明久「レクレーションゲームか」

榊「相手は誰なんだろうな」

純「一体どんなゲームするんだろうね」

そう言う2人のに誰もがなんなのだろうと思う中でそれぞれ赤と青のジャージを渡される。

ちなみにそれぞれ以下の組み合わせである。

青：明久、雄二、秀吉、純

赤：ティーチ、榊、京谷、はやて

着替え終わった後に8人は本家の様なスタジオの様な場所に案内される。そこでは同じ様に赤と青のジャージを着た面々がいた。

メンバーは以下の通り

青：ヒロ、ゼロクス、シヤナオウ、インヘルミナ

赤：伊御、バディア、つみき、正邪（こっちあっちの方）

雄二&ティーチ&榊&京谷（「カルテットで声と同じのが揃った……」）

明久「あ、伊御にヒロくん！」

ヒロ「どうも明久さん！」

ゼロクス「あ、さっきぶり」

純「うん、ホントだね」

インヘルミナ「なんと、声が同じのが4人になったな」

伊御「なんだか会話だけ聞くと独り言に聞こえるね；」

ワイワイ言う4人を見て興味深そうに見えるインヘルミナの聞きながら伊御はそう言うのに誰もが同意する。

クロエ「さあ始まりましたレクレーション大会。司会は私、クロエ・ボーデヴィツヒと…」

シユバルツ「シユバルツ・ワーゲンが務める。今回は番組が違うが色取忍者をやると思う。ぶっちゃけると顔芸は今回では出来ないからだ」

明久&純&ゼロキス「メタイ!!」

インヘルミナ「うむ、多重奏だな」

雄二「いや違うだろ女王様；」

榊「これは多重奏じゃないから；」

ツツコミを入れる明久達のを聞いてずれた発言をするインヘルミナに雄二と榊はツツコミを入れる。

シユバルツ「なお、それぞれ4人ずつ選出して計4回やる。それで勝ち負けによって罰ゲームを受ける事になる」

はやて「成程な〜」

純「ちなみに罰ゲームってのは？」

説明するシユバルツに純は質問する。

シユバルツ「罰ゲームはタイキックで一番ダメだと思ったのをチーム全員で決めて代表が受ける事になる」

雄二「そりやまた」

シヤナオウ「ふむ、責任重大だな」

京谷「確かに……」

答えたシユバルツのに雄二と京谷は気合を入れる。

クロエ「それでは、最初の組み合わせは以下の通りです」

その言葉と共に組み合わせが表示される。

1 回目：明久↓つみき↓ヒロ↓バディア↓ゼロキス↓伊御↓純↓正邪↓明久に戻る。

雄二&榊「(早速カルテットを出しよった……)」

伊御「これは間違いないようにしないとね……」

つみき「そうね……」

組み合わせに伊御とつみきは注意する様にする。

シユバルツ「あ、ちなみに色取忍者の前振りはしなくても良いからな」

明久「あれ？良いの？」

純「もしかして省略？」

告げられた事に誰もがハテナマークを浮かべる中でシュバルツがなぜかを答える。

シュバルツ「考えてみる。番組とはいえ、メンバー内に一国の女王がいる。その女王にそれをやらせるのはどうかと思うだろ…」

雄二「あー…」

秀吉「メタイが確かに…」

榊「そうだよな…」

京谷「そりゃ仕方ないな…」

理由を聞いて誰もが納得する。

クロエ「分かった所で皆さん。罰ゲームを受けない様に頑張りましたよね」

純「はい」

正邪「んじゃあ始めるぞ」

シュバルツ「号令は吉井明久が行う様に」

明久「はい、じゃあ行くよ！せーの！」

『シュツシュツ！シュシュシュ！』

明久「赤い車！」

『シュツシュツ！』

つみき「消防車！」

『シュツシュツ！』

つみき「黄色い車！」

『シュツシュツ！』

ヒロ「ブルドーザー！」

『シュツシュツ！』

ヒロ「青いロボット！」

『シュツシュツ！』

バディア「グラウンドイン！」

『シュツシュツ！』

バディア「白いロボット！」

『シュツシュツ！』

ゼロキス「ガンダム！」

『シュツシュツ！』

ゼロキス「赤いロボット！」

『シュツシュツ！』

伊御「エヴァンゲリオン式号機！」

『シュツシュツ!』

伊御「赤いライダー!」

『シュツシュツ!』

純「仮面ライダーバロン!」

『シュツシュツ!』

純「紫色のライダー!」

『シュツシュツ!』

正邪「仮面ライダー王蛇!」

『シュツシュツ!』

正邪「白いライダー!」

『シュツシュツ!』

明久「仮面ライダーマツハ!」

『シュツシュツ!』

明久「赤い景色!」

『シュツシュツ!』

つみき「夕焼け!」

『シュツシュツ!』

つみき「青い花！」

『シュツシュツ！』

ヒロ「ヒヤシンス！」

『シュツシュツ！』

ヒロ「緑の花！」

『シュツシュツ！』

バディア「……」

デデーン！

長く続いたがバディアが言えずに終わる。

クロエ「はい、バディアさんアウト」

シュバルツ「ちなみに緑の花だと春蘭と呼ばれるのやアスパラガスが実になる前の花が緑だ」

明久「そうなんだ」

伊御「知らなかったな」

補足するシュバルツのに誰もがあーと納得する。

ゼロキス「ヒロは知ってたの？」

ヒロ「はい、マリーさんがお花の色々と見ていたので一緒に見てる内に」

雄二「成程な」

クロエ「と言う訳でメンバーチェンジです。順番はこの通り」

そう言つてメンバーと順番が表示される。

雄二↓榎↓シャナオウ↓京谷↓秀吉↓ティーチ↓インヘルミナ↓はやて↓雄二に戻る。

シャナオウ「勝負と行こう！」

榎「ああ！」

雄二「んじやあ行くぜ！せーの！」

『シュツシュツ！シュシュシュ！』

雄二「赤い車！」

『シュツシュツ！』

榎「消防車！」

『シュツシュツ！』

榎「赤い花！」

『シュツシュツ！』

シャナオウ「バラ！」

『シュツシュツ！』

シヤナオウ「黒いロボット！」

『シュツシュツ！』

京谷「ブラックナイト！」

『シュツシュツ！』

京谷「赤い食べ物！」

『シュツシュツ！』

秀吉「ナポリタン！」

『シュツシュツ！』

秀吉「赤い景色！」

『シュツシュツ！』

ティーチ「夕焼け！」

『シュツシュツ！』

ティーチ「茶色い食べ物！」

『シュツシュツ！』

インヘルミナ「カレー」

『シュツシュツ！』

インヘルミナ「緑の果物！」

『シュツシュツ!』

はやて「青林檎!」

『シュツシュツ!』

はやて「紫色の果実!」

『シュツシュツ!』

雄二「ブドウ!」

『シュツシュツ!』

雄二「黄色い飲み物!」

『シュツシュツ!』

榊「バナナジュース!」

『シュツシュツ!』

榊「紫色の果実!」

『シュツシュツ!』

シャナオウ「ブドウ!」

『シュツシュツ!』

シャナオウ「紫色の果実!」

『シュツシュツ!』

京谷「ブドウ」

『シュツシュツ!』

京谷「紫色の果実!」

『シュツシュツ!』

秀吉「ブドウ!」

『シュツシュツ!』

秀吉「紫色の果実!」

『シュツシュツ!』

ティーチ「ブドウ!」

『シュツシュツ!』

ティーチ「赤い果実!」

『シュツシュツ!』

インヘルミナ「イチゴ!」

『シュツシュツ!』

インヘルミナ「銀色の巨人!」

『シュツシュツ!』

はやて「ウルトラマン!」

『シュツシュツ!』

はやて「黒い車!」

『シュツシュツ!』

雄二「霊柩車」

『シュツシュツ!』

雄二「白い車!」

『シュツシュツ!』

榊「救急車」

『シュツシュツ!』

榊「黄色い車!」

『シュツシュツ!』

シャナオウ「ブルドーザー!」

『シュツシュツ!』

シャナオウ「黄色い車!」

『シュツシュツ!』

京谷「ブルドーザー」

『シュツシュツ!』

京谷「黄色い鳥！」

『シユツシユツ！』

秀吉「ブルツ！あ!!？」×

デデーン！

こちらも長く続いたが秀吉が間違えて終わった。

クロエ「はい、秀吉さんアウト」

シユバルツ「ちなみに黄色い鳥はヒヨコ以外にチヨコボやヒヨコにポケモンのサン

ダーもだな」

純「確かにね」

補足するシユバルツに純は当て嵌まるねと頷く。

クロエ「次の組み合わせは以下の通りです」

そう言ったクロエの言葉と共にメンバーと順番が表示される。

明久↓榊↓ヒロ↓京谷↓ゼロキス↓ティーチ↓純↓はやて↓明久に戻る。

明久「入れ替えてになるんだね」

榊「そうみたいだな」

順番を見て言う明久に榊も同意する中で始まる。

明久「それじゃあ行くよ！せーの！」

『シュツシュツシュシュシュ！』

明久「緑のロボット！」

『シュツシュツ！』

榎「ケルデイルガンダム！」

『シュツシュツ！』

榎「赤いロボット！」

『シュシュツ！』

ヒロ「スカイダイナー」

『シュツシュツ！』

ヒロ「黒いロボット！」

『シュツシュツ！』

京谷「ブラックナイト！」

『シュツシュツ！』

京谷「青い食べ物！」

『シュツシュツ！』

ゼロキス「甘エビの卵！」

『シュツシュツ！』

ゼロキス「赤い飲み物！」

『シュツシュツ！』

ティーチ「トマトジュース！」

『シュツシュツ！』

ティーチ「青い飲み物！」

『シュツシュツ！』

純「ブルーハワイ！」

『シュツシュツ！』

純「白い飲み物！」

『シュツシュツ！』

はやて「牛乳！」

『シュツシュツ！』

はやて「黒い飲み物！」

『シュツシュツ！』

明久「コーラ！」

『シュツシュツ！』

明久「黒い動物！」

『シュツシュツ!』

榎「カラス!」

『シュツシュツ!』

榎「茶色い動物!」

『シュツシュツ!』

ヒロ「サル!」

『シュツシュツ!』

ヒロ「白い動物!」

『シュツシュツ!』

京谷「ホワイトタイガー!」

『シュツシュツ!』

京谷「赤い野菜!」

『シュツシュツ!』

ゼロキス「トマト!」

『シュツシュツ!』

ゼロキス「緑色の果物!」

『シュツシュツ!』

ティーチ「メロン！」

『シュツシュツ！』

ティーチ「赤い果物！」

『シュツシュツ！』

純「イチゴ！」

『シュツシュツ！』

純「黄色い果物！」

『シュツシュツ！』

はやて「バナナ」

『シュツシュツ！』

はやて「黒い果物！」

『シュツシュツ！』

明久「オリーブ！」

『シュツシュツ！』

明久「茶色い食べ物！」

『シュツシュツ！』

榎「カレール」

『シュツシュツ!』

榎「黄色い食べ物!」

『シュツシュツ!』

ヒロ「オムライス」

『シュツシュツ!』

ヒロ「赤い食べ物!」

『シュツシュツ!』

京谷「タンタンメン!」

『シュツシュツ!』

京谷「青い車!」

『シュツシュツ!』

ゼロキス「ゴミ収集車」

『シュツシュツ!』

ゼロキス「赤い車!」

『シュツシュツ!』

ティーチ「しょうしょうしゃ!」

『シュツシュツ!シュシュ』

クロエ「はい、アウト」

ティーチ「しまった！消防車と言おうとして連続でいつてもうた！」

榊「なんだよしよしゆうしやって；」

はやて「榊くん。ちやう。しようしようしややw」

宣言するクロエの後に頭を抱えるティーチに榊は呆れ、はやてがそう言う。

雄二「んであと1回か」

伊御「今記録はどうなってます？」

シユバルツ「今は青が2勝1敗、赤が1勝2敗と言う感じだ。赤は勝たないときついぞ」

呟く雄二の後に聞く伊御にシユバルツは答える。

京谷「マジか…」

バディア「これは負けられないな」

クロエ「と言う訳で順番表示です」

聞いて気合を入れる赤チームの聞きながらクロエは順番を表示する。

1回目：雄二↓つみき↓秀吉↓バディア↓シャナオウ↓伊御↓インヘルミナ↓正邪↓

雄二に戻る。

正邪「なるほど、こんな順番か」

雄二「んじゃあ、行くぜ！せーの！」

『シュツシュ！シュシュシュ！』

雄二「白い猫！」

『シュツシュツ！』

つみき「キャトラ！」

『シュツシュツ！』

つみき「黄色い食べ物！」

『シュツシュツ！』

秀吉「オムライス！」

『シュツシュツ！』

秀吉「青い飲み物！」

『シュツシュツ！』

バディア「ブルーハワイ！」

『シュツシュツ！』

バディア「黒い飲み物！」

『シュツシュツ！』

シャナオウ「コーラ！」

『シュツシュツ!』

シヤナオウ「ピンクの飲み物!」

『シュツシュツ!』

伊御「チェリージュース!」

『シュツシュツ!』

伊御「緑色の飲み物!」

『シュツシュツ!』

インヘルミナ「メロンソーダ!」

『シュツシュツ!』

インヘルミナ「茶色い飲み物!」

『シュツシュツ!』

正邪「カフェオレ!」

『シュツシュツ!』

正邪「赤い飲み物!」

『シュツシュツ!』

雄二「トマトジュース!」

『シュツシュツ!』

雄二「黒い飲み物！」

『シュツシュツ！』

つみき「コーラ！」

『シュツシュツ！』

つみき「黄色い飲み物！」

『シュツシュツ！』

秀吉「バナナジュース！」

『シュツシュツ！』

秀吉「赤い飲み物！」

『シュツシュツ！』

バディア「トマトジュース！」

『シュツシュツ！』

バディア「黒い食べ物！」

『シュツシュツ！』

シャナオウ「コーラ！」

『シュツシュツ！』

シャナオウ「黄色い食べ物！」

『シュツシュツ!』

伊御 「バナナジュース!」

『シュツシュツ!』

伊御 「白い調味料!」

『シュツシュツ!』

インヘルミナ 「塩!」

『シュツシュツ!』

インヘルミナ 「白い飲み物!」

『シュツシュツ!』

正邪 「牛乳!」

『シュツシュツ!』

正邪 「黒い食べ物!」

『シュツシュツ!』

雄二 「イカスミスパゲッテイ!」

『シュツシュツ!』

雄二 「黒い食べ物!」

『シュツシュツ!』

つみき「イカスミスパゲツテイ！」
『シュツシュツ！』

つみき「白い食べ物！」

『シュツシュツ！』

秀吉「カルボナーラ！」

『シュツシュツ！』

秀吉「黄色い食べ物！」

『シュツシュツ！』

バディア「オムライス！」

『シュツシュツ！』

バディア「黄色い食べ物！」

『シュツシュツ！』

シャナオウ「オムライス！」

『シュツシュツ！』

シャナオウ「赤い食べ物！」

『シュツシュツ！』

伊御「キムチ鍋！」

『シュツシュツ!』

伊御「黄色い飲み物!」

『シュツシュツ!』

インヘルミナ「バナナジュース!」

『シュツシュツ!』

インヘルミナ「茶色い食べ物!」

『シュツシュツ!』

正邪「カレー!」

『シュツシュツ!』

正邪「赤い車!」

『シュツシュツ!』

雄二「キムっ!しまった!」

クロエ「残念ですがアウトです」

シュバルツ「食べ物が続いたからこそだな」

長く続いたらが正邪の切り替えに引っかけかけて雄二は詰まったのを指摘してクロエとシュバルツはそう言う。

雄二「ああ、くそ!」

明久「ドンマイ雄二；」

純「見事に引つかかったね；」

頭をガシガシ搔く雄二に明久と純はそう言う。

シユバルツ「さて、結果的に引き分けになったが罰ゲームはどうするべきか…」
クロエ「ここは2人選んで罰を受けて貰う事にします？」

顎を撫でて呟くシユバルツはクロエはそう提案してそれが良いかと頷く。

シユバルツ「お前たちのにどう思う？」

明久「どう思うって言われてもね」

ヒロ「ですね」

ゼロキス「やっぱ普通に間違えた人とか？」

純「それが妥当だね」

聞くシユバルツに声と同じカルテットがそう言う。

雄二「と言うかお前等だけで喋るな；」

榊「一人でしか喋ってないように聞こえるだろ；」

ティーチ「んでまあ、間違えたの拙者とバディア殿と秀吉殿と雄二殿ですな」

バディア「そうだな…」

そんな4人に雄二と榊がツツコミを入れた後に確認するティーチにバディアは頷く。

クロエ「そうですね…引き分けでしたので…ジャンケンで負けた人2名がタイキックを受けると言う事で」

秀吉「2人なんじゃな」

榎「まあ仕方ないか」

そんな訳でせーのの合図と共に…

秀吉&ティーチ&雄二&バディア「ジャンケンポン！」

結果

バディア：パー

雄二：パー

秀吉：グー

ティーチ：グー

シユバルツ「決まったな」

デーン！

秀吉、ティーチ、タイキック!!

宣言と共にインペラーとXライダーが来て…

ドゴーン！

ティーチ「おおおお!!」

秀吉「ぎゃん!？」

ヒロ「痛いですね」

ゼロキス「ホント見てる分もね」

伊御「痛いよね」

つみき「…ん」

それを見て各々に眩いた後にクロエが締めに入る。

クロエ「はい、と言う訳でレクレーション大会でした」

いずれまた〜と言うクロエの後に拍手で締めくくられた。

終わった後、また笑いの刺客が襲い掛かる!

部屋戻りからの所長挨拶まで

レクレーション大会が終わり、部屋へと戻ろうとする一同。

チリンチリン…

自転車のベルの音が聞こえたので一同が見ると…ママチャリに乗ったゲンムとウヴァが通り過ぎる。

明久「ちよw」

雄二&はやて「くっw」

ティーチ「不意打ち過ぎるでござるw」

秀吉「くくw」

純「ぶぶっw w w」

京谷&榊「ぶはっw w w」

デーン！

全員、OUT！

シユールな光景に全員が笑ってしまふ。

明久「あれは普通に笑うね」

純「だよね……うん」

榊「ところでゲームって悪役じゃなかったか？」

雄二「あー、もしかするとあのゲームはあいつだな」

秀吉「あの人じゃろな……と言うかこういう役もあつたんじゃな；」

明久のに同意する純の後に首を傾げる榊の後で雄二と秀吉は呆れた顔で言う。

京谷「誰か思い当たるのがいるのか？」

雄二「まあな」

秀吉「純殿以外思いつきり出会つとるしな」

榊「え？俺らもう会つてるのか？」

京谷のにそう言う雄二と秀吉に榊は一体誰だ？と首を傾げる。

しばらくして部屋に戻ると京谷の机の上に……髑髏が描かれたボタンがあつた。

明久「これって……」

京谷「ボタンだな……」

誰もが置かれているボタンを見る中で押す？とティーチが目でそう言う。

榊は榊で押すべきじゃね？と京谷を見る。

京谷「押すしかないのか……」

全員の視線に京谷は息を飲みながら恐る恐るボタンを押す。
すると鐘の音が響く。

??? 「聴くが良い。晩鐘は汝の名を指し示した」

明久 「この声は!？」

京谷 「ちょ!？」

榊 「…京谷、南無；」

聞こえてきた声に誰もが扉を見る。

そして嘖いた…

山の翁 (顔にギロロフエイク装着) 「……………」

明久&純 「ぶふww」

雄二 「ぶはw」

秀吉 「くくw」

ティーチ 「それ反則過ぎるw」

はやて 「しゆ、シユールww」

榊 「くくくつwwww」

京谷 「つ…w」

デデーン!

全員、OUT!

バシーン!

不意打ちに全員が笑い、叩かれた後に山の翁は京谷へと近づく。

山の翁「京谷、タイキツク」

京谷「またかよ!?!」

榊「まあそつちで良かったんじゃねえの? 宝具じゃなくて」

デーン!

京谷、タイキツク!

宣言に京谷は叫んだ後にインペラーが来る。

インペラー「とわっ!」

ドゴーン!

京谷「ぎやああああ!?!」

お尻を抑える京谷を後目にインペラーは退出し、山の翁は京谷が起き上がると共に入り口前に行き、出て行くかと誰もが思うと…主むろにギロロフェイクに手を付ける。

明久「あ、脱ぐんだ」

純「あ、もしかして…」

そしてギロロフェイクの下から…ネコアルクカオスの顔が…

明久&純 「ぶふwww」

ティーチ 「二重www」

雄二 「それもまた卑怯だろw」

秀吉&はやて 「くぷぷw」

榊 「ぶははははwww!!」

京谷 「ひ、卑怯だろそれwww」

デデー^ン！

全員、OUT！

二重の笑いの策に誰もがまた笑ってしまう。

バシーン！

山の翁 「大人げなかったかにや？」

雄二 「まだ続けるかw」

ティーチ 「もう止めてwww」

純 「これ以上はホントに死ぬからwww」

駄目押しの声ネタに誰もが笑ってしまう。

☆

一方楽屋裏でも

呪腕「ひや、百貌と静謐よ。わ、笑ってはいけないぞ」

百貌「わ、分かつてる」

静謐「(プルプルプルプル)」

マシユ「先輩、ハサンの皆さんが必死に笑いを堪えています」

守理「いや、あれこつちもきついよw」

こつちでは笑わない様に必死に堪えてる面々がいた。

アーラシユ「キングハサン殿もノリノリだなw」

オジマンディアス「ぶははははははははははははははははw w笑わせてくれるな山の翁よw」

美陽「あはははははははははw w」

幽々子「こ、これは我慢できないわねw w」

爆笑しながら出て行く山の翁を見ていた者もいた。

☆

戻って明久達

デデーン！

全員、OUT！

明久「あれは…知ってるだけにやられたね」

雄二「だな」

榊「卑怯だろあれは…」

山の翁が出て言った後にそう言う明久に雄二と榊も同意し、他のメンバーも頷く。

バシーン！

ティーチ「いやー、ホントキングハサン殿があんな事をしたら笑っちゃうの确实でしかも二重で仕掛けて来られたら笑っちゃうでござる」

純「だよねえ…」

京谷「つか、あの台詞来たときはホント死ぬかと思った」

そう言うティーチに純も同意する中で京谷がそう言う。

明久「流石にバラエティのだからそんなのあつたら怖いよ；」

雄二「だな」

榊「あーそう言えばそうだな」

そう言う明久のに雄二が同意するとアナ達が来る。

ブラックキングSD「皆、此処の所長と顔合わせするぜ」

明久「所長と言うと……」

純「財団Xのボス……ってわけじゃないよね？」

雄二「ああ、そうか。純は見えないもんな」

ティーチ「絶対に笑わせに来るの確実ですな」

そう言う純のに雄二はそう言い、ティーチは腕を組んでそう言う。

紳「一体誰なんだろうな……。まさか一番新しいのと同じネタだったりして」

雄二「おいおい、流石にそれはねえだろ」

楽屋裏

キヤス狐「……ヤバイですね。予想されかけてますよ」

赤セイバー「そうか？あの男はなかなか読み難いぞ？」

キャトラ「まあ、普通に予想も出来ない事をするのが十四松だけ……」

ドラえもん「彼だけ必要な部分以外はアドリブで通してるからね……」

心配するキヤス狐のに赤セイバーはそう言い、同じ様に見ていたキャトラがそう言
い、ドラえもんも大丈夫かな……と心配する。

とにもかくにも全員、所長室へと向かう。

アナ「はい、ここが所長室です」

明久「出るんだろうな十四松；」

榊「気を引き閉めないとな」

そう話してる間に扉を開けてアナは入り、明久達も続く。

良くドラマで映し出される所長室を感じさせる部屋で奥の壁に飾られている十四松所長の写真に誰もがまた笑いかけるが堪える。

純「ぷっw」

デデーン！

純、OUT！

ただ、純だけは普通に笑ってしまった

バシーン！

純「いてて…つい笑っちゃったよ」

榊「大丈夫か？」

あれはずるいな…とぼやく純に榊は声をかけて大丈夫だよと返される。

明久「そう言えば所長の姿が見えないね」

雄二「ん？そう言えばそうだな…どこから来るんだ？」

ピリリリリリリリ！

その中で明久は本人がいない事に気づき、雄二も警戒してると着信音が鳴り響く。なんだなんだと誰もがした方を見ると京谷の携帯が鳴っていた様だ。

京谷「なんだこの番号？」

とにかく試しに出てみた。

京谷「もしもし？」

一体誰だ？…と思いつながら言葉を待つ。

自分、十四松、今…

十四松「君の後ろにいマツスル」

一同「どひやあ!？」

その言葉と共に何時の間にか京谷の後ろにスマホを持って立っていた十四松に誰も飛び退る。

明久「び、ビツクリした!？」

はやて「し、心臓に悪いわ」

ティーチ「ホント驚き！」

榎「何時の間に後ろに居たんだよ!？」

純「全然気づかなかった…」

京谷「心臓止まるかと思つたぞ!？」

各々に言う中で十四松は全員の前に移動する。

十四松「と言う訳で改めてこんにちワツフル！自分が此処の所長の十四松ツス！よろしくしマツスル！」

ティーチ「何その挨拶ww」

デデー！

ティーチ、OUT！

独特な挨拶にティーチは笑ってしまう。

パシーン！

榊「ああ、これだよなこれ」

京谷「十四松と言ったらやっぱりこの挨拶だよな」

それに榊と京谷は頷く中で十四松は8人を見る。

十四松「皆が此度の研修生ツスね。左から順に挨拶をお願いしまツスルハツスル!!」
そう言われて明久から挨拶する。

明久「吉井明久です」

十四松「吉井明久…つまりヨツシーツスね！」

雄二「くつw」

榊「明久がヨツシーww」

純「ふふふふww」

京谷「に、似合ってるぞw」

ティーチ&はやて&秀吉「くくくw」

デーン！

明久以外、OUT！

名前を聞いた十四松のに明久以外が笑う。

バシーン！

十四松「君は？」

雄二「坂本雄二だ」

次に雄二が名乗る。

十四松「坂本雄二：つまりユツデイツスね！」

雄二「どこの玩具の主人公だ！」

明久「い、いや似合ってるよユツディーw」

秀吉「く、くくw」

ティーチ「凄く似合っておりますぞw」

はやて「せ、せやなw」

榊「ユツディーwww」

純「ぶははははははは！w w」

京谷「ぶはははははは!!」

デデーン！

雄二以外、OUT！

続けての雄二のに今度は雄二以外笑う。

十四松「次はその可愛い子ツス！」

秀吉「木下秀吉じゃ。女になっておるが男じゃ！」

純「ついでにボクもね」

そう言う十四松に秀吉とついでに純が補足しておく。

十四松「男だったんツスカ？…それにしても胸ビッグりあるからヒデツスね」

秀吉「ワシはサッカー選手ではないのじゃ!？」

明久「なんでw」

雄二「サッカーボールかよw」

ティーチ&はやて「くぶぶw w」

純「ぶぶw」

榊「まあでもさっきのより普通だな」

京谷「確かにヨッシーとかに比べたらな」

デデーン!

明久、雄二、ティーチ、はやて、純、OUT!

続いで秀吉のに言われた秀吉以外に榊と京谷を除いて笑う。
バシーン!

十四松「はい、その金髪の人!」

榊「俺?!」

次に榊が指名され、榊は驚いた後に名乗る。

榊「俺は戌井榊だ」

十四松「戌井榊……(ピキーン!)つまりファイズツスね」

明久「それいぬい違いww」

雄二「読みだけじゃねえかw」

秀吉「確かにいぬいじゃがw」

ティーチ&はやて「ぶふw」

純「なかなか面白いねw」

京谷「確かにww」

榊「ファイズかあ……」

デデーン!

榊以外、OUT!

出て来た言葉に榊以外が笑い、榊もまんざらでもない感じにうんうん頷く。

十四松「次は：ツンツンの人を通り抜けて関西弁の女の人」

京谷「俺、スルーかよ!？」

まさかの飛ばしに京谷は叫ぶ。

はやて「私は八神はやてと言います」

京谷を横目にはやては挨拶する。

十四松「八神はやて：ああ、執事をやっている人ツスね!」

はやて「それ違います!」

明久「今度ははやて違いw」

雄二「ぶっw」

秀吉「なんというネタのオンパレードw」

ティーチ「くぶw」

純「ぶぶぶw」

榊「カタカナと平仮名のチガイw」

京谷「つつw」

デデーン!

はやて以外、OUT!

今度も名前違いで当事者以外笑う。

バシーン!

十四松「次はその髭の人!」

ティーチ「うツス!拙者はエドワード・ティーチと言います!」

次にティーチでティーチが自己紹介する。

十四松「エドワード・ティーチ:先生になった錬金術師ツスね」

エドワード「いや拙者は等価交換してないしクラスはライダーでござるw後はティーチャーでないでござるw」

明久「ちよいと変化球入ってるw」

雄二「やべ、鋼の錬金術師の服を着たティーチを想像しちまったw」

秀吉「そ、それは似合わぬのではw」

はやて「くぶぶw」

樺「似合わねえよw w w w」

京谷「ぶはははははw w」

純「ぶぶぶぶぶw w」

デデーン!

全員、OUT!

変化球を少し入れた十四松のにティーチを含めて笑付てしまう。

十四松「はい、次はもう1人の性転換してる人」

純「あ、僕？僕は白麟黄純。白い麒麟の麟と黄と書いてはくりんおうね」

次に純に聞いて純は自己紹介する。

十四松「白麟黄純：つまりホワイトジュラフイエロー純にやんツスね」

純「……え？」

明久「なんで英語w」

雄二「しかもばらけての単語のだしw」

秀吉「ジュラフと言うが動物のきりんではないぞw」

はやて「純にやんw」

ティーチ「なんでにやんw」

榊「にやんかよw」

京谷「にやんw」

デデーン!

純以外、OUT!

名前を聞いてそう言った十四松のに純は目を点にして、他は笑う。

バシーン！

十四松「んで最後の飛ばした子」

京谷「俺は西原京谷だ」

その後、京谷へと聞き、京谷は名乗る。

十四松「西原京谷、ああ、不幸だーーーーー！と叫んだり、追い掛け回されたりする子ツスね」

京谷「いやそれ別!!普通に別!!声は別のだと同じだけど別!!」

明久「別ネタw」

雄二「ある意味似てるけどよw」

秀吉&はやて&ティーチ「ぶっw」

純「ぶぶぶぶw」

榎「ぶはははは!!」

デデーン！

京谷以外、OUT！

出て来たのに京谷はツッコミを入れて、他の7人は笑う。

バシーン！

十四松「と言う訳で全員の名前を覚えマクノシタ！」

榊「ポケモンか！」

純「んでこれから何するの？」

そう言う十四松のに榊がツツコミを入れた後に純は聞く。

十四松「えっとね……なんだっけ？」

出て来た言葉に思わず8人はよろけた。

楽屋裏

ミルカ「；」

キヤトラ「あちやあ、やっぱりこうなるか……まあその分本人のアドリブで埋めるって

事で時間多めにしといたらと提案して通したけど；」

トド松「まあ、十四松兄さんだしね；」

美陽「そう言ってる場合じゃないでしょ；」

月奈「大丈夫でしょうかこれ；」

そんな状況を見てそう言うキヤトラとトド松に美陽と月奈は心配する。

戻って明久達。

十四松「あ、そうツス！そうツス！それぞれコードネームを付けるツス！」

明久「コードネーム？」

榊「それって財団Xに所属するから」

京谷「本名が分からないようそうするってことか？」

その通りツス！と京谷のに十四松は頷く。

十四松「ちなみに自分はジューシートス」

明久「ジューシーw」

秀吉「それ隠しきれておらんじゃろうw」

純「確かにww」

榊「ジューシー↓じゅうし↓十四ってかww」

デーン！

明久、秀吉、純、榊、OUT！

告げられたコードネームのに4人は笑う。

十四松「と言う訳でコードネームを自分が付けてあげマッスル！」

はやて「どういうのは付くんやろう？」

京谷「絶対ヤバいのだろ；」

そう言う十四松に京谷はそう言う。

十四松「んじゃあ京谷くん！」

京谷「俺か」

自己紹介が最後だったからか最初に来たので京谷はどういうのが来るんだ？と警戒する。

十四松「君のコードネームは…上条当麻」

京谷「だからそれ別うううううう!!後名前ええええええええ!!」

明久「また引きずるw」

秀吉&雄二「くつw」

ティーチ「続けたでござるかw」

はやて「あかんわw」

純「プププw」

榊「それだと長いから当麻で良いんじゃないやねえw」

デーン!

京谷以外、OUT!

告げられたコードネームに京谷は叫び、他のメンバーは笑う。

バシーン!

十四松「次はティーチさん…アルフォンス」

ティーチ「拙者はさつき言われた奴の弟w」

雄二「鎧を着たティーチ…ぶふw」

秀吉「こつちも似合わんw」

明久「確かにw」

はやて「と言うか魔界村のが来るわw」

純「魔界村だとアーサーだけどねw」

榊「一回当たったら裸にw」

京谷「二回目は白骨w」

デデーン！

全員、OUT！

今度もまた名前でのネタで全員が笑ってしまふ。

それを見てアナ達はああ、普通に笑ってはいけないだなとしみじみと思っていた。

バシーン！

十四松「次ははやてさん…たぬう」

はやて「またかい！」

はやてを除いた面々「ぶふw w w w」

デデーン！

はやて以外、OUT！

続いてはやてでマリオメーカーや机ネタで出たたぬうので明久達は笑ってしまふ。

十四松「次、榊くん」

榊「俺か」

次は自分となり、榊はどんなのが来るのかと考え：

十四松「ロケット団」

榊「なんで!?!」

明久「今度は名前繋がりがりw」

雄二「なんか来るだろうと思ってたがw」

秀吉「いや、ピッタリそうではあるなw」

ティーチ「くぶぶw」

はやて「と言うかコードネームやのうて組織名やw」

純「確かにw」

京谷「ボスつけないとなw」

デデーン!

榊以外、OUT!

今度は組織名が飛び出して榊を除いて笑ってしまふ。

バシーン!

十四松「次は秀吉く」

秀吉「わ、わしが出らんじや；」

次に呼ばれた秀吉は緊張する。

十四松「田中えり子」

秀吉「それは京谷と似た理由ので作者がやつとるブラウザゲームに出るキャラじゃ

!!

明久「また人w」

雄二「しかもやってる人じゃねえと分からねえだろw」

はやて「と言うか京谷くんと同じじゃないかw」

ティーチ「また来るとはw」

純「それ、コードネームじゃないw」

榊「確かにw」

京谷「他にはないのか？」

デブーン！

明久、雄二、はやて、ティーチ、榊、純、OUT！

出て来た名前に秀吉はツツコミ、他のメンバーが笑う中で京谷が聞く。

バシーン！

十四松 「んじゃあ：第三の性別」

秀吉 「それはそれでいやじゃ！」

京谷 「んじゃあ秀吉だったら自分にどんなの考えるんだ？」

そう言った十四松のを否定した秀吉に京谷は聞く。

秀吉 「むう：改めて聞かれると思いつかんのじゃ」

雄二 「俺なら思いつく。シユガーだな」

純 「シユガー？」

榊 「なんでシユガー？」

そう言った雄二のに誰もが首を傾げていると所長室のモニターに音楽と共に何かが流れ出す。

くバレンタイン、秀吉と清水の場合く撮影：FFF団

秀吉 「フアツ!？」

純 「バレンタインの様子？」

榊 「これ：隠し撮りか」

京谷 「あーもしかして…」

流れたタイトル名に秀吉は驚く中で映像が始まる。

清水『あ、あの秀吉：チョコです／／／』

秀吉『あ、ありがとうなのじゃ／／／』

初々しく渡す清水と初々しく貰う秀吉ので秀吉は顔を真っ赤にして顔を覆う。

明久「微笑ましいなく」

ティーチ「感想の違う！けどマジこれ拙者眩しくて見てられない！」

はやて「眩しいなく」

雄二「うっ、頭が…」

紳「あー確かにこれはシュガーが合うなー」

純「そうだねー；」

京谷「やつぱりなー；」

デーン！

明久、OUT！

その様子に明久を除いて各々のコメントを言う。

楽屋裏

FFF団員「ぐはあああああああ！」

F F F 団員2 「須川会長！早速1人が砂糖を！」

須川 「くう！やはり俺達にはこれは眩しくて砂糖ざー！ー！ー！」

F F F 団員3 「会長もやられたぞ！」

キャトラ 「：うん。独身と可愛いのが大好きな人には大ダメージね（呆れ）」

トド松 「なんだろうね。普通に羨ましきより眩しさが：」

美陽 「なんだか口の中が甘くなってきたわね……」

幽々子 「妖夢ー、ブラックコーヒーどんどん持ってきてー」

映像提供者であるF F F 団は映像のに数人が倒れ、見ていたキャトラは呆れ、ブラックコーヒーを飲みながらトド松は眉間を揉み、美陽と幽々子は甘さにブラックコーヒーをグイグイ飲む。

戻って明久達

バシーン！

秀吉 「遠藤さんの気持ち分かるのじゃ」

明久 「ど、ドンマイ；」

顔を赤くしてしやがみ込む秀吉に明久はそう言う。

十四松 「口の中がざらざらするけど続けるッス！次雄二くん：○ッデイー」

雄二「アウトオオオオオオオオオオ!?」

明久「確かに雄二が言ったけどw」

はやて「凄い変化球をw」

ティーチ「出すとはw」

純「思わなかったよw」

榊「確かにw」

京谷「これ色々大丈夫かw」

デーン!

明久、はやて、ティーチ、純、榊、京谷、OUT!

続けての雄二ので場所によって凄く危ないコードネームにまだ恥ずかしさでしやが
んでいる秀吉と雄二を除いて笑ってしまう。

バシーン!

少しして秀吉が立ち直ってから十四松は言う。

十四松「最後、明久くんは……スターダストブルーアイズホワイトドラグーンダーク
ネスライトデーモンアッシー」

明久「長い長い長い!!」

雄二「なんで長めにしたんだよw」

秀吉&はやて「ぷぷw」

ティーチ「と言うか光と闇が混ざって最強な感じにw」

榊「混ざりすぎだろw」

京谷「しかも途中の知ってる名前だw」

純「ぷぷぷぷw」

デアーン！

明久以外、OUT！

物凄い長さのに明久がツツコミを入れて他のメンバーは笑う。

十四松「と言う訳でコードネーム決定ッス！」

雄二「俺のは危ないけどな」

京谷「確かに色々とな；」

純「あれ？僕にはないの？」

そう言う十四松に雄二が言っつて、京谷も頷くと純が聞く。

確かに純だけ言われてないのに気づいて十四松もああと気づく。

十四松「あ、ごめんッス！えつと…レツツゴ―陰陽師ってのはどうッスか？」

純「えつと…？」

明久「それ曲名だw」

雄二「ひでえw」

ティーチ「悪霊退散w悪霊退散w」

はやて「歌つたらさらにあかんw」

秀吉「くぷw」

京谷「ぶぶww」

榊「ぶぶぶw」

デーン！

純以外、OUT！

コードネームのが分からない純だがそれ以外の面々は分かって笑ってしまふ。

バシーン!!

叩かれるのを見た後にこれで決まりツスねと十四松が笑った時！

ブーブー！

すると突如警報が鳴り出す。

明久「え？何？」

十四松「はっ！これはヒーローが侵入したアラーム！」

榊「なにッ!？」

京谷「侵入者!？」

突如響き渡った警報に誰もが驚く。
次回、そのヒーローも笑いを仕掛けて来る！

ヒーロー侵入からおやつまで

前回、ヒーローが侵入したと言うので一体誰が来るんだと明久達は思う中で十四松やアナに案内される。

十四松「とにかく、防衛隊、出動!!」

明久「防衛隊!？」

雄二「何が来るんだ？」

純「嫌な予感がするね…」

その言葉と共に現れたのは…

???? 「防衛隊の隊長を務めるのは…」

???? ↓サマーソウル「私だ!!!」

サマーソウルであった。!!

明久「まさかのw」

雄二「ゼロキスとか出てたからなんとなく予想してたがw」

秀吉&ティーチ「くぷw」

はやて「なんで海パンw」

榊「ぶぶぶぶw」

京谷「ぶはっ！w」

純「っw」

デーン！

全員、OUT！

出て来た人物に誰もが笑ってしまふ。

サマーソウル「と言う訳で！隊員集合！」

その言葉と共に4人の人物が来る。

ヨシオ「よっしやあやるぜ！」

ナツプル「なんで俺が選ばれたの!？」

シュガー「呼ばれて飛び出て！よほほほほ！」

ザック「…ナツプルのセリフって俺が言いたいんだけど；」

上記のメンバーが防衛隊員であった。

明久「ナツプルにヨシオw」

雄二「と言うかザックが違和感ありまくりだろうw」

秀吉「大変じゃな」

はやて「2番目の人は名前のパイナップルかいなw」

ティーチ「何と言うかあの3番目の人が誰かとかぶるじゃん」

純「確かにww」

榊「色々とカオスなメンバーだなww」

京谷「www」

デーン！

明久、雄二、はやて、純、榊、京谷、OUT！

メンバーの選出に秀吉とティーチを除いて笑う。

サマーソウル「と言う訳で防衛隊、全員集合した！」

十四松「頼りにしてマッスル！」

明久「一体誰が来るんだろう？」

雄二「確かにそうだな」

榊「戦隊かそれともライダーか…」

京谷「財団Xだからライダーの方か？」

明久達は予想していると…予想斜めのが来た。

アルトリア「アルトリアブルー！」

リリイ「あ、アルトリアホワイト／／／」

セイバーオルタ「アルトリアブラック」

槍オルタリア「アルトリアネイビー」

セイバーライオン「がお！（アルトリアイエロー）」

4人「5人揃って！セイバー戦隊アルトリア5」

セイバーライオン「がおがおーん！」

明久「最後w」

雄二「これは卑怯だろw」

秀吉「予想斜め過ぎじゃw」

ティーチ「ホントに最後w」

はやて「か、かわええw」

榊「最後おかしいだろw」

京谷「ぶっふw」

純「と言うか戦隊なのに赤くないw」

ドドーン！と予想斜めなメンツに全員思わず笑ってしまう。

デデーン！

全員、OUT！

バシーン！

アルトリア「赤はアルトリアとは違うのでいません！」

叩かれてる面々へとアルトリアが代表で答える。

ティーチ「律儀！」

榊「そこはしっかりとっかりしてるんだな；」

答えてくれたのに叫ぶティーチに榊は苦笑する。

デデーン！

榊、OUT！

榊「なんで!？」

明久「あ、そうか。苦笑も笑いだから」

驚く榊に明久がそう言う。

バシーン！

ヨシオ「来たな侵入者！ここで成敗してやる！早速これで！」

ブレイブ！

そう言つてヨシオはガイアメモリを取り出して突き刺すとその姿をよくある勇者を模したドーパントになる。

ナツプル「良し俺も！」

パイナツプル！

それにナツプルも続いてガイアメモリを刺して…大きいパイナップルになった。

明久「ぶふw」

雄二「おいwおいw」

秀吉「ば、パイナップルそのまんまw」

はやて「あはははははははははw」

ティーチ「ドーパントじゃないw」

純「パイナップルw」

榊「ぶふつw!!」

京谷「ぶはははつw!」

デアーン!

全員、OUT!

それには誰もが爆笑する。

アルトリアメンツも何人か笑っている。

バシーン!

ザツク「おいナツプルwまんまパイナップルになってるぞw」

ナツプル「なんでええええええええええ!」

ブレイブドーパント「お前、ふざけるなよ」

「シュガー」なかなか面白いですな。怪人になるのではなくそのまま存在をパイナップルにするとw」

それにはナツプルは叫び、ザックやシュガーも笑う。

アルトリア「く、なんという笑いを…そして美味しそうな果物になるんですか」
オルタリア「まったくだな」

セイバーライオン「がおがお」

ナツプル「ひえええええ!!色々と得物を狙う目だ!」

雄二「そうなるわな」

はやて「そりゃあおいしそりゃもんねw」

榊「捕食者と餌の構図だな」

純「うんうん;」

デデーン!

はやて、OUT!

恐怖に震えるナツプルの前にサマーソウルが立つ。

サマーソウル「うろたえるな!気合を入れるのだ!」

マッスル!

その言葉と共にサマーソウルもガイアメモリを使い、凄くマツチョコになった。

明久「ちよw」

雄二「こつちもドーパントになってねw」

はやて「筋肉もりもりマツチヨマンの変態やなw」

秀吉&ティーチ「ぶっw」

榊「ぶふっw」

純「ぶははははは!!w」

京谷「は、腹が痛くなってきたw」

デデーン!

全員、OUT!

またもドーパントではないのに誰もが爆笑してしまう。

ザツク「はらいてえw」

シユガー「オズマ様が勧めてくださったのも納得ですなwww」

ブレイブドーパント「お前等やる気出せよ!」

アルトリア「ま、全くだす」

セイバーオルタ「まあ、面白いのは確かだな」

それには双方の面々も一部除いて笑っている。

槍オルタリア「……あそこのパイナップルを輪切りにして見るか(ぼそり)」

ナツプル「ひいひい！怖い事を言ってる！」

京谷「確かに怖いな；」

榊「確かパイナツプルって芯をくり貫いてから切るんだよな」

青ざめるナツプルのに京谷は冷や汗を掻く中で榊がそう言う。

ザツク「だつたら変身を解けよ」

ナツプル「はっ！そうか！」

呆れて言うザツクの言葉にハツとなったナツプルはメモリを抜き……戻ったが良いがパンツ一丁になっていた。

明久「なんでww」

雄二「パンツ一丁になってるんだよw」

ティーチ「一緒に消えたでござるかww」

はやて「ぶふw」

秀吉「く、くくw」

純「ぶふっww」

榊「ぶはっww」

京谷「ぶっwwww」

デーン！

全員、OUT!

まさかの展開に誰もがまた笑う。

ザック「おwまw」

リリイ「は、破廉恥です!」

ナツプル「なんで!?!」

シユガー「ぬふふふ! 本当に飽きませんねw」

榊「やばいなこのバトル……」

純「笑いのカオスだね……」

叩かれるまでの間に榊と純はそう呟くのであった。

バシーン!

リリイ「破廉恥なのはいけません! 選定の剣よ、力を! 邪悪を断て!

『勝利すべき黄金の剣』!」

その後リリイがそう言っただけで、宝具を解放して放ち……

ナツプル「あぶなっ!?! (ひよい)」

ズドーン!!

ティーチ「のおっほ!?!」

狙われたナツプルが避けると……丁度ティーチに直撃した……しかも男の急所に……

明久「ティーチいいいい!!」

榊「ティーチが死んだ!」

京谷・純「この人でなし!」

雄二「またかw」

秀吉「ぶつw」

はやて「こ、これも笑うわw」

デーン!

雄二、秀吉、はやて、OUT!

まさかの展開に叫ぶ明久と榊とそれに乗った京谷と純の隣で雄二と秀吉、はやてが笑う。

バシーン!

ザツク「うわ、あれきつつ;」

シユガー「これには私もひゅつとしちやいましたね」

ブレイブドローパント「な、なんて残酷な!」

リリイ「ち、違うんです!!」

セイバーライオン「がおがお」

それには男性陣は引き、セイバーライオンにリリイは慰められる。

榊「まあ仕方ないよな……」

純「原作であつたネタだしね……」

知つている2人はうんうんと頷く。

アルトリア「とにかく行きます！エクス！カリバー！」

セイバーオルタ「エクスカリバー！モルガンーン!!」

その後2人が宝具を放つ。

サマーソウル「その攻撃を受け止めるのは……私だ!!!」

それにサマーソウルが受け止める……マッスルポーズで

明久「なんでマッスルポーズw」

雄二&秀吉&はやて「ぶっw」

ティーチ「良く出来ますなw」

純「ぶふっw」

榊「ぶぼっw」

京谷「ぐふっw」

デデーン！

全員、OUT！

受け止め方に誰もが爆笑する。

ザック「なんだよその受け止め方！w」

シユガー「筋肉式ガードでしようなw」

ブレイブドーパント「さ、流石隊長に選ばれるだけあるな」

それには防衛チームはザックとシユガーは笑い、ブレイブドーパントは感心する。
バシーン！

雄二「マジフリーダムだよな」

榊「だよなあ；」

改めてサマーソウルのフリーダムさに雄二と榊はそう言うのであった。

槍オルタリア「ロンゴミニアド！」

そこに槍オルタリアが範囲を絞ってサマーソウルめがけて放つ。

再び防ごうとして：男の急所に命中した。

サマーソウル「なんとおとおおおお!!？」

明久「わおう；」

雄二「こいつもかw」

秀吉「マッスルポーズを取ってるのがw」

はやて「くぶぶw」

ティーチ「拙者と同じww」

純「うわあ…」

榊「これはキツイ；」

京谷「と言うかなんで絞った？」

デーン！

雄二、はやて、秀吉、ティーチ、OUT！

それには上記4人が笑い、京谷がそう言う。

サマーソウル「ふんぬらばあ!!!」

槍オルタリア「ぬっ！」

食らっていたサマーソウルは気合の一声と共に吹き飛ばす。

明久「吹き飛ばした!？」

純「ええ!？」

京谷「マジかよ!？」

それには思わず全員驚く。

ザック「よお出来たな！隊長！」

シユガー「全くです。まさに筋肉のバカ力ですな」

ナツプル「なんだその意味不明なの；」

サマーソウル「私だからな！」

セイバーオルタ「訳わからん」

セイバーライオン「がお（うんうん）」

それにはザックたちも同意でブレイブドールパントが飛び出す。

ブレイブドールパント「とにかくこれで決めるぜ！」

そう言ってブレイブドールパントはセイバーライオンへと突撃する。

セイバーライオン「がおooooooooooooん（ニクスカリバoooooooooooo）！！」

ブレイブドールパント「アoooooooooooo!?!」

ただ、セイバーライオンの宝具にあっさり吹っ飛ばされたが…

明久「瞬殺wwww」

雄二「やつぱりギャグでのヨシオはヨシオかw」

秀吉「ひどすぎるw」

はやて「あ、あかんわw」

ティーチ「くくくくw」

純「瞬殺w」

榊「ぶふっw」

京谷「良いとこなしw」

デーン！

全員、OUT!

あつさりど吹き飛ぶ様子に誰もが笑ってしまふ。

ヨシオ「(チーローン)」

ナツプル「ヨシオおとおおおお!?」

ザツク「はえええよ!」

シユガー「うーん。ドーパントになっても変わらずと言う事ですな」

流石の瞬殺にメンバーも各々に言う。

セイバーライオン「がお」

アルトリア「む、そうですね。そろそろおやつ時間ですし、一時退却です」

リリイ「あ、了解です」

明久「おやつで帰るの!?!」

雄二「おいおいw」

秀吉「これはw」

はやて「おやつで帰るってw」

ティーチ「らしいと言えばらしいw」

榊「アルトリアらしいw」

京谷「確かにw」

純「ぶぶつww」

デーン！

明久以外、OUT！

退散するアルトリアメンツの理由に明久以外が笑う。

ザック「おやつで帰るのかよw」

シユガー「これだからこそですなww」

ナツプル「なんか俺とヨシオ、全然活躍してねえ！」

サマーソウル「無事守り切ったぞ」

十四松「お疲れ様デスマス！」

榊「それにしてもこう言うこともあるんだな」

純「財団Xだしね…」

そう言つて退散と去つて行く面々を見ながら言う榊に純もうんうんと頷く。

明久「いやー、笑つていけないとか狂治くんの所だけだと思ふな；」

はやて「どうなんやろな〜」

京谷「ああ、確かに；」

それに明久がそう言い、確かに普通にねえだろうなと京谷も頷く。

その後は部屋に戻るとアナが8個の饅頭を乗せた皿を持って来る。

ブラックキングSD「3時やからおやつ時間やで〜」

アナ「好きなのを1つ選びください」

明久「おやつか〜」

純「あ、もしかしてこれって……」

サンダーダランピア「あ、大丈夫ツス。そこらへんは食にうるさい人達により人塩な
どの人から取ったので作った塩とかは使ってないツス：ただ……」

そう言っただされた8個の饅頭に純は思い当たるとサンダーダランピアがそう言っ
て言葉が詰まる。

雄二「ただ……なんだよ？」

榊「嫌な予感がするな；」

誰もがごくりとなる中でサンダーダランピアは言う。

サンダーダランピア「小松シェフとルイージさん以外に姫路つちとマリーさんが関
わっているので姫路つちのは2／8が辛く、マリーさんのは2／8がとても甘くなっ
てるツス；」

明久「姫路さん……きつとカレーまんを作ろうとしたのかな；」

秀吉「マリー殿はあんまんを作ってもうちよい甘くしようとしたのじゃろうか；」

榊「残りは普通なのか？」

純「確かに気になるね」

うわおとなる明久と秀吉の後に純と榊が聞く。

ブラックキング「安心しい。あの小松シエフにルイージはんは料理がめっちゃ得意な
んやで、アナちゃんがちゃんと味見して美味いと言うとる」

アナ「ちなみに中身は秘密です」

明久「そうなるとドキドキするな」

京谷「そ、そうだな…」

それぞれが聞いてドキドキしながら饅頭を見る。

ティーチ「先手必勝！1ついったき!!」

明久「あ、速い!?!」

榊「俺もいただき!」

純「あ、ずるい!」

それにティーチが素早く1つ取って、榊も続いて取る。

その後にそれぞれ各々取る。

雄二「勇気いるな」

京谷「そうだな…」

ごくりと息を飲んだ後にそれぞれせーの！の合図と共に…

パクリ！

口に含む。

明久「おいしく肉まんだく♪」

榊「辛っ!? けどうまい！」

雄二「っ、甘っ!?!」

京谷「甘ったる!?!」

秀吉「おお！上手いのじゃ！」

純「確かに美味しいね」

はやて「これは美味やな！」

ティーチ「辛っ！辛っ！」

デアーン！

明久、OUT！

それぞれ食べて明久だけほっこりしたのでアナウンスが告げる。

バシーン！

ティーチ「(ごごくごく) ぷはあ！榊殿、辛いのですな」

榊「まあこれぐらいなら平気だぜ」

純「そうなんだ」

ブラックキング「ちなみにあれ、ハバネロー本と唐辛子5本も入れとるぜ」
雄二「それは辛いだろうな」

水を飲んでからそう言うティーチに榊はそう返してブラックキングのに雄二は呆れる。

サンダーダランピア「後、もう一つ、ロシアンたこ焼きあるッス！」

明久「ロシアンたこ焼き？最近知られてる一部の中身がタコ以外にも入ってるって言うのだったっけ？」

京谷「確かイチゴとかチョコとかだよな」

言ったサンダーダランピアのに明久は言い、京谷も言う。

ブラックキング「ちなみに4/8がわさびが入ってるで〜」

雄二「そりゃあツーンと来るな；」

はやて「せやな；」

榊「半分はワサビか；」

告げられた事に誰もがごくりと喉を鳴らす。

明久「ちなみにそのまま？」

ブラックキングSD「普通にソースを付けてても良いし、マヨネーズもあるで〜」

サンダーダランピア「ちなみにわさびマヨネーズもあるッス！」

雄二「もしもわさびのだったらさらにツーンが増すな；」

京谷「熱々のうちに食べるか」

そうだねと各々にとつてソースも塗った後にせーの！とパクリと食べる。

明久「あ、ツーンと来た！」

榊「あ、こりや来るな」

雄二「っ！」

京谷「よかった、セーフだった」

秀吉「こっちもじゃ」

はやて「こっちもやで」

ティーチ「っ！っ！」

純「あー；大丈夫？ティーチ」

それに明久と榊、雄二とティーチが当たり、ティーチはアナから手渡されたコーラを飲む。

ティーチ「効いた！！いやマジ辛さとは違う刺激が襲い掛かって来てマジキターですぞ
！」

明久「分かる分かる」

榊「確かに違うよなホントに」

一氣飲みしてからそう言うティーチに明久と榊は同意する。

雄二「わさびつて結構コーヒーとはまた違う眠気覚ましになったりするよな」

純「あー確かにね；」

はやて「お寿司やざるそばでも結構外せへん薬味やね〜」

京谷「あー確かにそうだよな」

そのままワイワイとワサビ談義に入った。

そんなほんわかしてる面々に次なる笑いの仕掛人は何を仕掛ける！

コンサートからアクシデント発生まで

何も無くて1時間経過し：

ブラックキング「おい皆。アイドルが来てコンサートやるさかい。見に行かんか？」

秀吉「アイドル？」

榊「……アイドル……だと……!？」

雄二「おい、まさか……頭文字がエのアイドルか？」

それには思わず誰もがガタツと席を立て後ずさる。

サンダーダランビア「安心してくださいッス。そこらへんはちゃんとしたアイドルツス；」

アナ「と言うか流石に崩壊しそうな人は歌には出しませんから」

ブラックキングのに戦慄するメンバーへとサンダーダランビアとアナがそう言う。

京谷「そ、それはよかった……」

純「いやギャグ系でアイドルって言ったら彼女を連想しちゃってね；」

誰もがホントホントと頷く。

楽屋裏

エリちゃんズ「『どう言う意味よ!!!』」

マシユ「お、落ち着いてください；」

ミルカ「；」

キヤトラ「そつちも大変ね；」

守理「雄二くんがね；」

美陽「まー確かにあの歌はね；」

月奈「そうですね；」

自分達の評価に荒ぶるエリちゃんズをマシユが宥める様子を見ながら冷や汗を流すミルカの隣でそう言うキヤトラに守理もたははと苦笑し、美陽と月奈はどう言うのか知ってるのでうんうんと頷く。

キヤトラ「んでまあ、コンサートの笑いの刺客の面々が…」

そう言つてちらりとキヤトラは見る。

チヨロ松「だから最高のアイドルはニャーちゃんに決まつてるじゃないか！ニャーちゃん最高！」

新八「何言ってるの！ 決まってるのはお通ちゃんに決まってるでしょ！」

兄者「いやいや、参加するメンバーで言うならセリナちゃんも外せねえだろJK」
弟者「確かにそうだがやはりアイマスメンバーも欠かせないぞ兄者」

上記の4人がアイドルので熱論していた。

キヤトラ「…これ、普通に論争してる状態になりそうだわ；」

おそ松「まあ、チョロ松はな」

トド松「兄さんはホントにアイドルのになるといったいねー」

やらない夫「それを言ったら流石兄弟もだけどな；」

やる夫「と言うかニヤーちゃんもお通ちゃんも出ないお；」

真宵「アイドルのファンと言うのはこれがあるから大変なんじゃね；」

幽々子「そうねえ；」

その様子を見て各々に呆れて言う。

キヤトラ「まあ、とにかく見て笑いましょうか」

トド松「仕掛け人は待つてる間は見て笑う。それが笑ってはいけないだもんね☆」

おそ松「トツテイー黒いぜ」

ミルカ「；」

佳奈「真っ黒だね！」

笑顔で言うトド松におそ松はそう言い、佳奈も続く。

トド松「なんとと言うかおそ松兄さんはともかく…年下の子に言われると地味にダメー
ジ来るな…」

キヤトラ「そう言えば守理、アンタら側のあの2人は何を話してたの？」

守理「ああ、あの2人ね。なんでも丁度いいからとあるネタの仕掛けとしての打ち合
わせだそうだよ」

姫「仕掛け？」

月奈「一体どんな仕掛けなんでしようか…」

胸を抑えるトド松をスルーして聞くキヤトラと守理の会話に姫と月奈は首を傾げる。

守理「うん。秘密って事だから知らないけど相方があの人だから大体どんな感じかは
分かった気がする」

幽々子「あらあら、どんなのか楽しみね」

美陽「そうね。つてあ、起きたの？鬼矢」

そう返す守理に幽々子はワクワクし、美陽も同意すると鬼矢が起きるのに気づいて声
をかけ、ふわーと欠伸びながら鬼矢は起き上がる。

鬼矢「まったく、いきなりこう言うイベントやるなよな」

キヤトラ「だってそれが笑ってはいけないなんでしょ？」

おそ松「まあ、あんた結構笑ってはいけなくて笑わされる側には向いてないって事が分かったな」

真宵「そうじゃね」

乃亞「まあ鬼矢はこっち向きってことか」

そう言う鬼矢にキヤトラはそう返して、おそ松のに真宵は同意して乃亞がそう言う。

キヤトラ「ちなみに鬼矢だっけ？ネタを入れるなら何を入りたい？」

鬼矢「んー、笑ってじゃなくて驚いてはになるんだが…」

ミルカ「？」

そう聞くキヤトラに鬼矢の言った事にミルカは首を傾げる。

おそ松「おー、なんか驚かせるネタがあるのか…ちなみにどんなの？」

鬼矢「ピーカーに入っている解剖したのが動くってやつ」

トド松「普通にホラー!?それ普通にお化け屋敷とかのでやるホラーな方!確かに驚くけど!」

軽く聞いたおそ松のに答えた鬼矢のにトド松は叫ぶ。

キヤトラ「ちなみに他にもあつたりする? ;」

鬼矢「あとはフェニックスファントムになって火の玉とか?」

おそ松「おー、それならまだ良いな。驚いてはいけなはそのフェニックスファント

ムでやれば良いな」

聞くキヤトラに鬼矢はそう言い、おそ松がそう言う。

チヨロ松「なんかトド松が叫んだみたいだけど何があったの？」

トド松「いや、ホラーな提案を受けてね」

新八「ホラーって驚いてはいけないだからあんまりホラーすぎるのもやばいと思いますけど；」

キヤトラ「うん。だから2番目に提案されたのを採用したわ」

鬼矢「ちなみにまだまだネタはあるぞ」

姫「まだあるんですか；」

アイドル談義が終わったのか会話に加わるチヨロ松にトド松はそう返し、鬼矢のに姫は何があるんだろうと冷や汗を流す。

兄者「ちなみにどんな？」

鬼矢「こういうのだ」

シユン

そう言つて姿をダミードーパントを経由して紫に変えて、置いてあつた氷を掴んでスキマに入れる。

チヨロ松「ほあああああああ!？」

キヤトラ「ぎにやああああ!?!」

トド松「うわ、何奇声あげてるのチヨロ松兄さん!ビックリしたじゃない!」
するとチヨロ松が声を上げて、他のメンバーは驚く。

一松「……あ、氷をチヨロ松兄さんの背中に……」

鬼矢「な?驚いただろ」

チヨロ松「ホントにね!いきなりだったからマジで驚いたよ!」

そう言う鬼矢にされたチヨロ松は入った氷を急いで出しながらそう返す。

キヤトラ「ホントやるわね」

鬼矢「だてに長い間生きていねえよ」

そう返す鬼矢にこの人はホント、笑う側じゃなくて驚かし側だなとチヨロ松は思った。

戻って明久達

明久「一体誰が出るんだらうね?」

純「アイドルっていっぱいいるからな」

案内されながらどんなアイドルが出るか話していた。

雄二「まあ、765プロのメンバーは確定だな」

秀吉「確かに出ておったしな」

榊「もしかしたらシンデレラガールズのほうかもしれないぜ」

京谷「どっちだろうな」

そう話しながら歩いていると会場に到着し、それぞれ指定された席に座る。

明久「ドキドキするね」

榊「そうだな」

誰もが待つ中で音楽が流れ出す。

(BGM：タケシのパラダイス)

ただ、流れて来た音楽に誰もがん？となり…

タケシ「お・ね・え・さ・ん！」

明久「ちよw」

雄二「あんたかよw」

秀吉「不意打ち過ぎるのじゃw」

ティーチ「ぶふw」

はやて「ま、まさかのw」

純「アイドルじゃないじゃんw」

榊「確かにw」

京谷「アイドルを追っかける方だろww」

デーン！

全員、OUT！

マラカスを振って現れたタケシ（アニポケ）に誰もが爆笑する。

バシーン！

8人が叩かれたタイミングで隅からデントが現れてタケシと並ぶ。

タケシ「はいどうも！今回の司会をさせていただくタケシと言います」

デント「同じく、司会を進行する役のデントと言います。今回は色んなアイドルが来てくれましたね」

そう言っただけで挨拶するタケシとデントの間に観客は盛り上がる。

デント「ちなみにタケシさんの登場のは受けを狙ってやりましたw」

タケシ「おいおい、受け狙って酷いじゃないか」

明久「それで笑ったけどね！」

ティーチ「ホントに不意打ちでしたな」

榊「不意打ちすぎだろ」

そう言うデントのに苦笑するタケシのに明久とティーチ、榊が代表で言う。

雄二「しっかしホント不意打ちだった」

秀吉「うむ、タケシも歌っていたのを抜けていたのじゃ；」

京谷「もうかなり前の事だしな」

そう言う雄二に秀吉と京谷は頷く。

タケシ「と言う訳で最初のは765オールスターズによる『らららわんだあらんど』です！」

デント「どうぞ！」

(BGM：ぶちますPV曲 らららわんだあらんど)

2人が隅に異動すると軽快な音楽が流れてぶちどると共にはるか達が現れる。

明久「ああ、ぶちますのアニメのPVで流れた！」

榊「あれか！それを生で見れるのか！」

それに誰もが気づくとはるか達は歌いだす。

ちなみに歌唄メンバーの中に律子と小鳥も交じっている。

明久「なんか感激」

秀吉「そうじゃな」

純「まさか生で見れるなんてね」

京谷「これ、ファンからしたら羨ましすぎるだろうな」

それに誰もがおおとなった後に中盤にて現れた笑いの刺客に嘖いてしまう。

笑いの刺客、着ぐるみを着た龍騎達13人のライダー達

明久「までも不意打ちw」

雄二「しかもバックダンサーかよw」

秀吉「凄い練習したのが分かる動きじやw」

はやて「あ、あかんわw」

ティーチ「これは笑うしかないでござろうw」

純「ぶふっw」

榊「これはw w w」

京谷「ぶはははw」

それには誰もが笑ってしまふ。

そして歌が終わると共に：

デデーン！

全員、OUT！

明久「いや、ホント不意打ち過ぎ…」

雄二「顔が出てるからマジシユール過ぎた…」

ティーチ「あれは普通に笑いますな」

純「というか顔は隠しなよ…」

榊「着ぐるみは普通顔出ないよな」

秀吉「笑ってはいけないじゃからわざとであろうな；」
バシーン！

各々に言つて叩かれてる間にタケシとデントが現れる。

タケシ「はい、765プロオールスターズによる『ら♪ら♪ら♪わんだあらんど』でした！765プロの皆さん、ありがとう！」

デント「ブレザントなソングの後は夢を願う少女たちをイメージした346プロのシンデレラガールズによる『お願いシンデレラ』！」

榊「次は346プロのか！」

京谷「マジか!？」

では！と言うデントの言葉の後にドラえもんズが現れる。

(BGM:アイドルマスターシンデレラガールズ2周年記念PV曲 お願いシンデレラ)
なんで？と誰もが思っていると音楽が流れ始め、それと共にドラえもんズはどこでもドアを取り出してドアを開ける。

ドアの先から卯月達、シンデレラガールズが飛び出して歌いだす。

明久「ああ！なんか納得！」

秀吉「上手く使ったのう」

純「確かにこれは良いアイディアだな」

京谷「確かに便利だもんなどこでもドア」

ティーチ「しかしなんで私服なのでしょうかね？」

それに誰もが感嘆してる中でティーチのに確かにと思った。

誰もが私服でなぜアイドル衣装じゃないのだろうと思っていたが中盤で理解する。

ウィザード「さあ、ショータイムだ」

シンデレラ！プリーズ！

シンデレラガールズの後ろにウィザードが現れて付けていた指輪をドライバーに翳し、手を前に付き出すと魔法陣が出現、それを潜ったシンデレラガールズの服が純白のドレスに変わる。

はやて「はわく凄いな」

純「ってあれ？ウィザードは雄二くんだよね？」

紳「それじゃああのウィザードは誰だ？」

雄二「そりゃあ本家の操真晴人さんだろう…だからか…」

目を輝かせるはやての隣で首を傾げる純と紳に雄二はそう言うてから納得した様子を見せる。

明久「何が納得なの？」

雄二「昨日いきなり晴人さんが来て、女の子の服をシンデレラのドレスに変える魔法の指輪を作ってくれないかって頼まれたんだよ。別に良いから作って何に使うのか聞いたけど秘密って言われたが…こう言う事か」

ティーチ「なるほど」

京谷「このためにだったのか」

誰もが納得した後、歌が終わり、辺りが見えなくなる位暗くなり…

パツ

シンデレラガールズを後ろでナズエミテルンデイス!! (O W O) な木の恰好をしたギャレンがライトアップされる。

明久「ぶっw」

雄二「おいw」

秀吉「不意打ち過ぎるw」

はやて「と言うかいたんかw」

ティーチ「恰好w」

純「ぶはっw w」

榊「ぶぶっw w」

京谷「これは無理w w」

デブーン!

全員、OUT!

さっきの龍騎達の様に全員が笑ってしまおう。

バシーン!

ティーチ「あれは卑怯過ぎでしたな;

榊「ズル過ぎるだろ:」

純「あ、次に行くみたい」

そう言うティーチに榊も頷いている間に純がそう言う。

タケシ「はい、346プロのシンデレラガールの皆ありがとう!」

デント「次は未知なるアドベンチャーへと向かうのに良いセリナ&アイリスさんによる『Stand Up!』!ちなみにバックダンサーにビートライダーズが付きます!」

秀吉「なんと絃汰殿達も出るのか!」

京谷「おお!凄いな!」

それに誰も声を上げるとどうぞと言う言葉と共にビートライダーズが現れ:

セリナ「セリナちゃん&アイリスのオンステージ!!」

アイリス「頑張りましょう!」

(BGM:白猫主題歌 Stand Up!)

元気よくアイドル服を纏ったセリナとアイリスが登場し、歌い出すとビートライダーズも曲に合ったダンスを始める。

ティーチ「良いですな〜」

純「そうだね〜」

目の前に誰もがほうとなる。

そして終わると共に大歓声が起こる。

???「うおおおお！セリナちゃああああん！」

すると1人の男が舞台上に上がろうとし…

チヨロ松&新八&兄者&弟者「アイドルに手を出すの禁止!!」

男性「げほは!?!」

上記4人の蹴りが炸裂する。

チヨロ松「僕達ファンはコンサートとかに来た時はアイドルに声援を送るだけがポリ

シー!」

新八「それを破り、アイドルに迫ろうとする奴は許さん！」

兄者「そんな奴らを止めるのが俺達！」

弟者「アイドルのちゃんと追っかけ隊の仕事だ！」

明久「何その名前w」

雄二「言い方はなw」

秀吉「良い事を言っておるのにw」

ティーチ「名前www」

はやて「それがあかんw」

榊「ぶふっw」

純「ぐふっw」

京谷「ぶぼっw」

デデーン！

全員、OUT！

名乗りあげた名前に明久達は笑う。

男性「くっ、邪魔を：」とり囲めええええええ!!」ぎやああああああ!!」

何か言おうとした男性はすぐさまFFF団に取り押さえられてそのまま退場する。

明久「うーん、流石FFF団」

雄二「ホント連携すると下手な組織より良いよな」

秀吉「うむ」

京谷「確かにな」

榊「と言うか将来財団Xとかに欲しい連携だな」

純「あー；」

それを見て簡単する明久と雄二達の後に言う榊の純は自分が知ってるのが確かに連携悪いなと思いつながら納得する。

タケシ「ちよつとトラブルはあったけどセリナちゃん&アイリスちゃんありがとう！！」

デント「最後はナムコオールスターズより代表して如月千早さん！346プロから渋谷凛さん。そして再びセリナさんにさらにマシユ・キリエライトさんによるコラボソング！『色彩』です！」

明久「色彩？」

雄二「初めて聞くな」

秀吉「うむ」

榊「おお！あれか！」

京谷「マジかよ!?!あの曲が聞けるのか！」

それに明久達が首を傾げる中で榊と京谷は興奮する。

明久「あれ？知ってるの？」

榊「ブランドオーダーのOP曲だ！」

そんな2人に聞く明久に榊が前に見せたのと言ひ、明久は成程と納得する。

(BGM: Fate / Grand Order 色彩)

そして音楽が流れるとそれぞれのアイドル衣装を纏った千早と凜にセリナと共に戦鬨に近い感じだが可愛らしい感じにされたアイドルドレスを着たマシュが現れ、歌いだす。

楽屋裏

守理「ムツツリーニ君。グッジョブ（ビシッ）」

ムツツリーニ「……………要望通りに作った」

アーチャー「君のその腕にはホントに脱帽だな」

月奈「将来衣装屋さんをやった方がいいと思いますよ」

美陽「確かにそう思うほどの腕ね；」

出来の良さに守理は笑顔でサムズアップし、ムツツリーニも静かにそう返すとアーチャーと月奈と美陽は感嘆する。

ムツツリーニ「……………露出の多いのじゃなければそちらの要望のを作るが？」

美陽「ホント！んじやあ太陽をイメージした服作って！」

月奈「では私は月をイメージした服を」

真宵「私は予備の白衣を頼むんじやよ」

そう言うムツツリーニに早速女性陣がワイワイとお願いする。

戻って舞台

曲が中盤に差し掛かっていて、アイドル達の後ろの画面にクラスカードが表示されて行くとアイドル達の周りに次々にライダー達が現れる。

セイバーのでブレイド、アーチャーので鎧武ジンバーレモンアームズ、ランサーでXライダー、キャスターでウィザード、アサシンでZX、ライダーで1号、バーサーカーでオーズプロティラコンボ、ルーラーでBLACKRX、アヴェンジャーでライダーマシ、シールドラーのでドラグシールドを構えた龍騎が現れる。

明久「これって…」

雄二「それぞれクラスで表してる感じか？」

榊「そうみたいだな…」

京谷「一部ん？って思うのあるけどな」

それを見て各々に言う。

龍騎「いや、だって昭和と平成のメインのライダーでやろうと言う事でそれぞれどのクラスで話してたけど、ルーラーやシールドラーので丁度いい人がいないから盾がある俺がシールドラーのになってルーラーがRXで良いんじゃないかな感じで決まったんだよな

…」

そんな面々の会話を聞いて龍騎はそう心の中で弁解する。

そして歌が終わると共にライダー達は1回転した後にフリップが手に握られ…

くるん！

ティーチタイキツク！

ひつくり変えられたのにえ？とティーチはなつた後に…

デデーン！

ティーチ、タイキツク！

ティーチ「アイエエエエエエエ!?」

明久「まさかのw」

雄二「絶対に人数ので選ばれたるw」

秀吉「おおう」

はやて「ぶくくw」

榊「ぶばっww」

京谷「南無…」

純「あー；」

デデーン！

明久、雄二、はやて、榊、OUT!

それにティーチは絶叫し、秀吉と純は冷や汗を流し、京谷は手を合わせる。

バシーン!

Xライダー「とわ!!」

バシーン!

ティーチ「ぬおおお!!」

明久「うん、強烈;」

純「痛そう;」

降りて来て放たれたXライダーのタイキックに悶えるティーチに明久と純は冷や汗を流す。

とにかく、これで終わったと思われた時:

シトロン「大変です! アイドルの私物が盗まりました!」

タケシ「なんだって!?!」

突如駆け込んできたシトロンの言葉に会場がざわめく。

突如起こったアクシデント!

一体何が:

オマケ

須川「んで、こいつ何？台本にはなかったと思うんだが？」

新八「あー、確かに普通にアイドル談義でと言う感じだったのね」

チヨロ松「だよね？んじやあ誰？」

弟者「はっ!?!兄者こやつはどうやら転生者だ」

兄者「んじやあマリオ達に引き渡すか」

舞台の裏側でこう言う事があつたとさ

ちなみにセリナを狙った転生者は輪廻にちゃんと送られた。

クイズから楽屋裏話まで

前回、コンサートが終わった直後に起こったアクシデント

明久「泥棒？」

雄二「もしかすると……」

京谷「あ、これって……」

榊「あれだな……」

コンボイ「ガツデム！」

流れに誰もが予想していると予想通りに蝶野梓のコンボイが現れる。

コンボイ「警視庁から来たコンボイだ。盗難事件のを聞いて駆け付けた。何が盗まれたんだ？」

シトロン「はい、765プロの水瀬伊織さんのヌイグルミが盗まれたそうです」

明久「ヌイグルミか……」

榊「ヌイグルミな……」

純「ヌイグルミね……」

聞くコンボイにシトロロンが答えた事に続ける。

シトロロン「その際、逃げる犯人の後ろ姿は捉えているんです」

コンボイ「それで、その犯人の後ろ姿は？」

これです…とシトロロンは舞台の画面に映す。

映像には…榊の後ろ姿があつた。

明久「あ」

雄二「そうか…」

秀吉「うむ」

ティーチ「オウフ」

はやて「あちやあ」

純「あー」

京谷「榊、死んだな…」

榊「なんでじゃああああああああ!？」

それに誰もが察する中でコンボイが客を映像と見比べて行く。

コンボイ「後ろを向け」

明久「はい」

違うとはいえ、威圧感にビクビクしながら明久は後ろを向く。

コンボイ「違うな……」

そのまま他のメンバーをやって良き、最後に榊の番になる。

コンボイ「後ろを向け」

榊「……」

向いたら向いたらでビンタが来るのは分かっているので榊は無言だったが……

コンボイ「良いから向け！」

榊「は、はい！」

強く言われて振り返る。

コンボイ「……お前かあ！」

榊「ひいひいひいひいひいひい！」

「待った！」

後ろ姿からそう言われた時、某逆転弁護士風の服を着て正邪が現れる。

明久「あ、なんか来た」

京谷「あれって正邪か？」

現れた正邪に誰もがどうなると思守る。

特に榊は必死に応援している。

コンボイ「待ったをかけるのはなぜだ？」

正邪「その映像の後ろ姿だけで犯人を決めつけるのは早いぜコンボイ」
コンボイ「何？」

告げられた事にコンボイが驚く中で正邪は言う。

正邪「この映像にはおかしなところがある！」

コンボイ「おかしなところだと!？」

そう指摘する正邪は続けて言う。

正邪「シトロン、このカメラはどこら辺に設置してあるんだ？」

シトロン「え、えつと、ここらへんですね」

聞かれたシトロンはそう言っただけで場所を示す。

正邪「んじやあそこに誰かカメラを」

研究員「は、はい！」

指示に研究員は指定された場所にカメラを置く。

正邪「榊、映像に写っているみたいにそこに立ってみろ」

榊「お、おお……」

そう言っただけで榊は言われた通りにする。

正邪「さて、これが今カメラに写っている榊だ。んでこつちが監視カメラに写っている人物だ」

コンボイ「これは……」

そう言つて写されたのを見比べて：

コンボイ「一寸も狂いもない彼だな」

全く一致な状況になっていた。

正邪「それがおかしいんだろ」

???「そう、おかしいね」

すると別の人物が現れた。

それは…犬のマスクをかぶつたホームズ(FGO)であつた。

明久「ちよw」

雄二「おいwおいw」

秀吉「絶対にあれじやろw」

ティーチ「くぶw」

はやて「あ、あかんわw」

京谷「ぶはあw」

純「ぶぶw」

デデン！

榊以外、OUT！

それに榊を除いて笑ってしまおう。

バシーン！

コンボイ「一寸も狂いのないのがおかしいと言う事は！」

正邪「つまりこの映像を用意した奴こそ」

ホームズ「犯人という事だ！」

その言葉に誰もが映像を持って来た人物を見る。

正邪「犯人は：お前だ！シトロン!!」

シトロン「ええ!?!」

告げられた事にシトロンは驚き、弁解しようとした時：

アーラシユ「ホームズの旦那、捕まっていた本物のシトロンを見つけといたぜ」

そこにもう1人のシトロンを連れて：青い犬のマスクをかぶったアーラシユが来る。

ホームズ「見事だワトソン君」

明久「ちよw」

雄二「あんたがワトソン枠かよw」

ティーチ「ちよw」

はやて「2人目w」

純「ぶぶつww」

京谷「なんでアーラシユw w」

デデーン！

榊以外、O U T！

シトロン？「あーらら、もうバレちゃったか…」

ボフィン！！

それに偽物の方のシトロンは肩を竦めた後に煙が発生すると…

燕青「いやはや、やっぱり凄いなホームズの旦那。後はその鬼の女の子もか」

現れたのは…オオスバメの顔型マスクをかぶった燕青であった。

ホームズ「やはり君だったか」

明久&秀吉「ぶっw」

はやて「ま、また不意打ち過ぎるw」

ティーチ「どんだけマスク押しw w」

純「マスク多すぎw w」

京谷&雄二「ぶはははははw」

デデーン！

榊以外、O U T！

まさかの連続ネタとマスクのに榊以外は笑ってしまう。

バシーン！

ホームズ「それで君と言う事は…」

???「そう、私だよホームズ」

そう言つて…紫色の狼なマスクをかぶったモリアーティが来る。

明久「アニメ押しw」

雄二「どんだけあのアニメのに拘るんだよw」

秀吉「く、くくw」

ティーチ「ホント続けるでござりますなw」

はやて「あ、あははははははw」

純「ぶぶぶぶw」

京谷「あははははw」

デーン！

榊以外、OUT！

モリアーティも同じ感じのに榊を除いて爆笑する。

バシーン！

K刹那「んー、バレちゃったね教授」

そこに…チワワのマスクをかぶったクロさん側のぐだ子こそニックネームはエクシ

アの刹那が来る。

分かり易い様に頭部分にKをつけておく。

明久「刹那さんのハドソン婦人かなw」

雄二「と言うかあんたもかいw」

秀吉「ホントノリが良いなw」

はやて「くくくw」

ティーチ「連続で続きますなw」

純「ぶはっw」

京谷「ぶふっww」

デーン！

榊以外、OUT！

まだまだ続くマスクネタに笑いが取らまない。

バシーン！

モリアーティ「さて、そこで笑いを堪えている榊君」

榊「あ、俺？」

ズビシツと指すモリアーティにマスクのに笑わない様に耐えていた榊は戸惑う。

モリアーティ「どうせなら原作の方正的な感じで間違われたままビンタをされるのを

る。○か×か？」

榊「えっと……○！」

問題に榊は考えた後にそう言うとは……

ブツブツ!!

不正解の音声になる。

モリアーティ「残念。不正解だ」

榊「はあ!？」

明久「え?なんで?マルタさんの全体的な筈だけど?」

雄二「あ、そっかひっかかけか!」

はやて「ひっかかけ?」

ティーチ「ああ、拙者も分かりましたぞ!確かにこれひっかかけですな!」

京谷「あ、榊!ライダーのマルタはただのマルタで聖女じゃねえ!」

榊「しまった!?!水着の方か!?!」

告げられた事に榊は驚いたが京谷のハツとなる。

モリアーティ「その通り、聖女マルタはルーラーの方の彼女だから単体宝具。つまり

×が正解だったのだよ」

榊「あー、クソツ。見事に引っ掛かったぜ!」

やられた！と榊は悔しがる間にモリアーティは次のに出る。

モリアーティ「では2問目、4択問題だよ。次の4つで正しいのはどれ！」
そう言つてパネルに名前が表示される。

1. 息吹萃香
 2. 伊吹萃華
 3. 威吹鬼萃蚊
 4. 伊吹萃香
- 榊「4！」

それに榊はすぐさま答えを言う。

ピンポン！

モリアーティ「ふむ、流石にサービス問題過ぎたかな？」

榊「簡単だったぜ！」

京谷「あと一問だぞ榊！」

間違えたらやばいと言うのを伝える京谷に分かつてるって！と榊が返す。

モリアーティ「では3問目、次は仲間はずれので『次の4人の中で仲間はずれは誰？』
そう言つてパネルに表示される。

エウリュアレ、オリオン、イシユタル、メドゥーサ

榊「これも簡単だな。オリオンだろ」
ブツブー!

それに榊が意気揚々と答えたが不正解の音が鳴る。

榊「なんで?!オリオンだろこれ!?!」

モリアーティ「残念、答えはイシユタル。他の3人はギリシャ神話なので彼女だけはメソポタミアの女神なのだよ」

ホームズ「待ちたまえモリアーティ。確かに君の答えは神話と言う意味では正解だ。しかし間違いでもある」

驚いて抗議する榊のにモリアーティがそう説明した時、ホームズが割って入る。

モリアーティ「なぜなのかなホームズ?」

ホームズ「先ほども言ったが神話と言う意味では正解だよ。だがしかし、出してるのはサーヴァントである君だから彼はこう考えた。『サーヴァントの性別で仲間はずれは?』と::」

最初分からなかったがそう言われてモリアーティはハツとなる。

モリアーティ「!それでは!」

ホームズ「そう、サーヴァントの性別で仲間外れはオリオン!なぜなら実際はアルテミスだが彼女はオリオンとして召喚されたから性別は男性扱いなのだよ!だから正解

者は戌井榊くんで不正解者はモリアーティ、君だ！」

ズビシツと指して指摘するホームズにモリアーティはそうだったか……と呻く。

モリアーティ「そう言う事では仕方がない……先ほどの不正解は取り消しとしておう」

榊「よ、良かった……」

純「それにしても本当にオリオンはややこしいよね」

京谷「見た目女性なのに男性扱いだもんな」

ホツと安堵する榊の後に純がそう言い、京谷もうんうんと同意する。

モリアーティ「さて、次でラスト問題だよ」

榊「絶対答えてやるぜ！」

気合を入れる榊にモリアーティは言う。

モリアーティ「次の問題は……運を試される影絵問題だよ」

榊「運？」

首を傾げる榊にその通り！と頷いてモリアーティは内容を言う。

モリアーティ「では問題！『どれがアルトリア・ペンドラゴンであるか！』」

その言葉と共に4つの影絵が映し出される。

どの影絵も似た様な立ち方と服装で榊はうむむとうなる。

明久「うわあ、分かり難いな」

雄二「確かにこれは運も試されるな…」

純「そうだね……」

京谷「ちなみに着替えとかはしてないよな？」

それに明久や他のメンバーが唸る中で京谷も気になって呟く。

モリアーティ「ちなみに髪型以外は分かり難い様に弄っている。だからこそその運を試すのだよ」

榊「マジかよお…」

うへえ…と漏らした後に榊は注意深く見る。

良く見ると1番はアルトリアの特徴的なアホ毛がなく、オルタの方かと行きつく。

3番はポニーテールでモードレッドだろうと考えて2と4に絞る。

榊「(ん…どっちだ?)」

悩むが2と4はどっちとも似ていて、身長差を失くしてるのもあつて運試しになるのは確定なのが唸らせる。

榊「ええい、4!」

モリアーティ「4か…正解は………」

そうやってモリアーティは言葉を切り、無言の時間が続く。

誰もが息を飲み、発表を待っている中…

燕青「(ぷふうー)」ブーブークッションを押す。

明久「んふふw」

雄二「おいw」

秀吉「くつw」

はやて「そ、それは卑怯やでw」

ティーチ「緊張感w」

榊「やるなよww」

純「ぶぶつw」

京谷「ぶぶつw」

デアーン！

全員、OUT！

静寂な所を燕青がブーブークッションを取り出して音を出したのに誰もがつい笑ってしまふ。

バシーン！

モリアーティ「ナイスw」

燕青「いえいえw」

サムズアツプを交わした後に気を取り直してモリアーティは目をカツと開き…
モリアーティ「不正解!!」

その言葉と共に影絵から人物が浮かび上がる。

1. セイバーオルタ
2. アルトリア・ペンドラゴン

3. モードレッド

4. セイバーリリイ

デデーン!

榊、ビンタ!

榊「リリイかよお!」

バシッ!

榊「へぶっ!?!」

絶叫した後に榊はコンボイのビンタをくらう。

モリアーティ「ではサラダバー!」

燕青「残念だったな少年くまたな」

そう言つてモリアーティと燕青にK刹那は舞台裏に消える。

ホームズとアーラシユもその場を去る。

正邪「それじゃあな榊。後で弁護士請求するから」

榊「マジで!？」

告げられた事に榊はマイガーと叫んでいる間に正邪とコンボイは去る。

ブラツクキング「んじやあわいらも帰るぜ」

サンダーダランビア「ツス」

明久「うーん。惜しかったね」

雄二「だな」

榊「くっそ、あの時2を選んでいたらモリアーティをピンタさせてたんだが…」

京谷「そんな事企んだのか；」

純「アハハハハ；」

各々に述べる中で榊のに京谷はなんとも言えない顔をして純は苦笑する。

デブーン!

純、OUT!

雄二「ああ…」

榊「苦笑も笑いだもんな」

純「あ、やば；」

アナウンスのに雄二と榊は納得して、純もあちやあ…となる。

バシーン！

楽屋裏

モリアーティ「あつぶな!? そんな事考えてたの榊君?！」

ホームズ「だって君、好きな人をもって言ったけど『明久くん達の中』でと言つてなかったからね」

守理「ああ、そう言えば言つてなかったね」

一方の楽屋裏でもし答えられてたらの展開に顔を青くするモリアーティにホームズはそう指摘し、守理も思い出して手をポンとさせる。

モリアーティ「あー、ホント不正解で良かった…」

K刹那「危ないところだったね教授」

幽々子「いくらサーヴァントでもご老体にはあのビンタきついわよね」

ふうと息を吐くモリアーティをねぎらうK刹那と幽々子の後にキヤトラが時間を見る。

キヤトラ「確か次はスペシャルゲストが笑わせに来るんだっけ?」

チヨロ松「確かそう聞いてたけど?」

美陽「スペシャルゲスト?」

月奈「誰ですかそれは」

確認するキヤトラにチヨロ松が返すと見よと月奈が聞く。

キヤトラ「なんでも箒達が共演した平行世界の住人みたいよ」

刹那「平行世界の？」

鬼矢「いきなりだな」

出て来た言葉に刹那は首を傾げ、鬼矢は誰なのやら…と頭を搔く。

スペシャルゲストとは一体…

スペシヤルゲスト登場から楽屋裏話その2まで

戻って部屋に戻った明久達。

しばらく部屋でのんびりしているとテレビに何かが流れる。

明久「あれ？いきなり映像が？」

雄二「なんだ？」

榊「ん？」

京谷「なんだなんだ？」

誰もがテレビへと顔を向ける。

オリムライダー

オリムーショック！地獄の黒鷲団！

下剋上したけど負けちゃって、黒鷲団に身ぐるみはがされて

オリムー！オリムー！オリムーです！

輝くブーメラン！

オリムー！いなりアタック！オリムー！オリムラボール！

オリムライダー！オリムライダー！裸でバイクに乗るライダー！

奇跡の〜17連敗！弄られ要員！ホモ疑惑！

オリムライダー！オリムライダー！

ゲイヴンじゃない！ノンケだ〜！

オリムライダーこと織斑一夏は黒鷲団によって改造（という名の強制着替え）された
変態人間！彼が行く先には何が待ち受けているのか？

オリムライダー「オリムウウウウ・・・ライダー！」

ふう！

そうやって画面にハイニー&ブーメランパンツの織斑一夏が写った。

明久「ぶふw」

雄二「な、なんじゃこりやあw」

乃亞「ぶはははははwなんだよあれww」

幽々子「あはははははははははははwwww」

咲「ぷはははははははははwwww」

その映像には楽屋裏の面々まで爆笑してしまう。

ミルカ「wwww」

キヤトラ「こ、これは、笑いのネタ以外だとただの変態でやばいわwwww」

アーラシユ「や、やばいなこれwwww」

刹那「ぶっふwwww」

美陽「あははははははははははwwww」

佳奈「ぷはははははははははwwww」

オリムライダーの笑いの破壊力に誰もが爆笑せずにはいられなかった。

戻って明久達。

バシーン！

明久「やばいよあれ。普通に腹筋壊すマンだ」

雄二「確かにな」

榊「し、死ぬかと思った…」

純 「はあ…はあ…」

誰もがまた笑わない様にする中で映像が再開される。

EXステージ ???

ドSトリオの攻め

オリムライダー 「ぬおお!!ここはどこだ!!」

明久 「ぐふw」

雄二 「映すの止めろw」

秀吉 「く、くくw」

はやて 「で、出るだけでw」

ティーチ 「ぶふw」

純 「ぶはっw」

榎 「ぶっふw」

京谷 「ぐはっw」

デアーン!

全員、OUT!

今度は拘束されて抗おうとしている様子にまた全員が笑ってしまう。

バシーン!

沖田「くくく、良い声で鳴きそうな奴が来たじゃねえか」

幽香「あらホントね」

龍田「あらあら〜どういう感じで鳴いてくれるのかしら〜」

オリムライダー「ぎやあああああああ!? 黒鷲団以上にやばそうな人達だあああああ!?」

黒い笑みを浮かばせる3人にオリムライダーは絶叫する。

雄二「ドSトリオだ!」

京谷「マジかよ!」

榊「うわあ…」

純「死んだねこれは……」

それには誰もがうわーとなる中で沖田が行動を仕掛ける。

沖田「やつぱここは…スタンダードだがくすぐりで攻めてやろう」

オリムライダー「お、俺はそんなので笑わねえぞ!」

ティーチ「笑いそうですな」

純「笑うね」

榊「笑うだろうな」

それに誰もがそう思い…

オリムライダー「痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い！」

明久「お、オリムライダーのケツをまるで太鼓の様にw」

雄二「ま、マジやべえw」

秀吉「wwww」

はやて「ひーひーw」

ティーチ「止めてwww我々の腹筋はもう0でござるww」

榊「ぶつぶwww」

京谷「もう死ぬ：マジ死ぬwww」

純「ぶはははははwww」

デアーン！

全員、OUT！

続けてのケツ叩きに誰もが悶える。

バシーン！

沖田「え？そうツスカ？お2人さん。虐めるのこれまでだそうだけ」

幽香「あら？そうなの？」

龍田「あらく私はしてないのに残念ね」

オリムライダー「た、助かった…」

すると電話に出ていた沖田がそう言い、2人は物足りなさそうにする。

明久「た、助かった…」

雄二「まだ続いてたらやばかった…」

ティーチ「ほんまそれですな！」

榊「わ、笑い死にするところだった…」

京谷「そ、そうだな…」

純「ひゅー…ひゅー…」

誰もがげえげえと息を整える。

龍田「んー…じゃあ最後にやろうとしてたネタをやりましようか」

そう言って龍田はオリムライダーを拘束していた紐を切り裂いた後に蹴りあげる。

オリムライダー「のおおお!!」

ドシーン!

そのまま一輪車に乗る。

幽香「あら、これって」

沖田「ほう、噂の大五郎って奴ですかい」

それを見て幽香と沖田は言う。

オリムライダー「ちゃん」

沖田「お、始まった始まったw」

龍田「これが噂の大五郎ね」

それを見て言う2人の後にBGMが流れる。

オリムライダー「ちやああん。」

幽香「さて、行きましようか」

龍田「そうね」

ドSトリオ3人が去り、オリムライダーにズームアップする。

ワンサマー「ちやああああん！……ちよつとはイジれよ!!」

明久「ぐはwww」

雄二「ぐほほほほほw」

秀吉&はやて「wwwwww」

ティーチ「wwwwww(チーン)」

榊「wwwwww(チーン)」

純「wwwwww」

京谷「ぶははははははははwww」

最後のオチに全員の腹筋に大ダメージを与えた。

デーン！

乃亞「マジでやばかった…」

なんとか息を整える新八の後の銀時のに誰もが頷く。

キヤトラ「こ、これは時間をおいた方が良いわ」

おそ松「マジ同意wまだオリムライダーのがつええw」

一松「せやなw」

佳奈「はーはー…そ、そうだね…」

真宵「色々と犠牲が多いんじゃないよ；」

そう提案するキヤトラにおそ松や他のメンバーも同意する。

少し落ち着いてからキヤトラが切り出す。

キヤトラ「さて、ここから後半戦ね」

おそ松「確かに時間的にもそうだな」

鬼矢「残りは何だ？」

姫「えつとですね…」

聞く鬼矢に姫は予定表を見る。

おそ松「んー、確か驚いてはいけな以外にやるのは報告会にVSバトルは確定だつ

たな」

姫「あ、はい。そうですね」

鬼矢「まだまだあるんだな…」

覗き込んで言うおそ松のに姫は頷く中で鬼矢はそう言う。

チヨロ松「まあ、VSバトルは…確か女性陣でやるんだっけ？」

守理「そうらしいね。ちなみに袴とかじゃなくて普通にジャージ姿でやると言う」

ドラ・ザ・キッド「そりやそうだ；」

ドラメツド「女の子でも出来るゲームをやると決めていたでアール」

美陽「女の子でもできるゲームね…」

月奈「一体何するんでしょうか」

確認するチヨロ松のにそう言う守理にキッドも頷き、ドラメツドがそう言い、美陽と

月奈は気になる。

おそ松「んで報告会、そっちの純とかの情報とか大丈夫か？」

乃亞「それなら大丈夫だ」

幽々子「純君のことならいっぱい知ってるからね♪」

妖夢「あははははは；」

うふふと笑う幽々子に妖夢は空笑いする。

チヨロ松「……………そっち大変そうだね；」

美陽「ホントにね；」

月奈「純さん…南無です」

そんな幽々子を見て呆れて言うチョロ松に美陽は同意し、月奈は手を合わせる。

キャトラ「んで、京谷と榎の方のは？」

真宵「それなら調査済みなんじゃよ！」

咲「安心して。京谷の事なら私の知らないことはないわ」

伊御「へーそうなんだ。京谷の事よく知ってるんだね」

一松「つまり、それ程虐めたくなるよ」

チョロ松「いや、それおかしいだろ一松！」

続いて確認するキャトラに真宵と咲はそう言い、伊御の後の一松のにチョロ松はツツ

コミを入れる。

咲「ええ、そうね」

チョロ松「やだこの子、普通にDSだった」

カラ松「最近のガールは怖い時を感じるなホント」

鬼矢「あー、確かに時々な」

伊御「；」

ふふと笑って言う咲にチョロ松は少し引き、カラ松も顔をヒクヒクさせて言ったのに鬼矢は同意し、伊御は無言で冷や汗を流す。

おそ松 「んじやま、仕掛け人以外はたつぷり笑おうぜ…腹筋壊さねえ程度に」
トド松 「マジそれね」

佳奈 「うんうん；」

妖夢 「そうですね；」

そう言うおそ松のに誰もが同意する。

オマケ

オリムライダー 「や、やつと解放された…」

大五郎の後、解放されてよろけながら帰ろうとするオリムライダー

??? 「待ちなよ。ワ・ン・サ・マー☆」

オリムライダー 「ヒッ！（；；。㐂。）」

後ろからの低い声にオリムライダーは震えて振り返る。

するとそこには…目が据わったISビーストの一夏が…巨大なハンマーを携えて

立っていた。

一夏 「まさかまたそれをやるなんて…覚悟は出来てるかな？かな？」

オリムライダー 「待って！これ俺の意思じゃないから！強制的にされたのだから！」

笑ってない目で言う一夏にオリムライダーは必死に弁解するが…

一夏「ふふふ、や・だ☆」

オリムライダー「あああああああああああああああああ!?!」

聞いて貰えずに制裁を受けるのであった。

ダイゴヨウ「ちよ、提灯と…」

ラットル「ネズミと…」

弾「親友と…」

タイガトロン「虎が見た…」

その制裁を2匹と1台と1人が震えながら見ていた。

団体バトル開始から終了まで

前回のスペシャルゲストによる笑いで笑いまくった明久達。
今はなんとか回復した様だ。

明久「あー、辛かった」

はやて「は、腹がマジきつかった」

ティーチ「それな、ですな；」

榊「ホントに死ぬところだった……」

京谷「確かに……」

純「まさかあんなに爆笑するとはね……」

それぞれが息を整えながら机に突っ伏すしていた。

雄二「マジであれば腹筋壊れるかと思ったぞ」

秀吉「う、うむ」

純「あれは今までのと次元が違うよ……」

京谷「だよなあ……」

誰もがオリムライダーなので頷いているとアナとブラックキングとサンダーダランビ
アが来る。

ブラックキング「お前等大変や、とある団体が訴えに来たんや」

サンダーダランビア「それを見学にしに行くツス」

明久「それつてもしかして…」

雄二「団体バトルか…」

純「ああ、あれね…」

榊「どんな団体なんだ？ 訴えてきたのは」

アナ「え？ えつとそれは…」

その流れに気づく明久と雄二のに純も思い出して榊は質問するとアナが口ごもる。

ブラックキング「えー訴えて来たのは…胸を大きくしたいんじやー団体の皆さんで
す」

明久「ぶつw」

雄二「おいwおいw」

秀吉「くぶw」

はやて「なんて名前やw」

ティーチ「凄いい切実な願いがw」

純「あー；」

榊「確かに叶えたい願いだな……一部の女子が」

京谷「；」

デデーン！

明久、雄二、秀吉、はやて、ティーチ、OUT！

団体名に榊と純に京谷を除いて笑う。

バシーン！

ブラックキング「んでまあ、向かうぜ」

明久「一体どういう組み合わせだろう……」

秀吉「確かに気になるのう」

榊「んー貧乳の相手と言ったら……」

京谷「まさか……な」

ホント誰もが疑問に感じながらその場所へと向かう。

場所は体育館の様に広い場所であった。

明久「広いね」

純「ここに抗議に来ている奴らが居るんだね」

そう言って集団を見て……あーとなる。

訴え組：メアリー、エリちゃんトリオ、佳奈、つみき、姫、優子
財団組：香子、知帆、アン、ドレイク、美波、真宵、山神

明久「あー…うん」

雄二「すげえ…島田のあの凄く嬉しそうな顔…」

秀吉「それだけ嬉しかったのじゃな…あ、姉上がこつち睨んでる；」

榊「と言うか貧乳メンバー、全員美波を睨んでるな；」

京谷「裏切者っていう感じにな…；」

純「あはははは；」

デデーン！

純、OUT！

それに各々に言った所、純は苦笑しちやったのでアウト宣言された。

純「あ。しまった」

苦笑も笑いの1つなので入ってるのでしちやったのに純は眩いた後に叩かれる。

バシーン！

香子「凄い睨まれてるな美波」

美波「いやー、ホントです。自分もあっち側だっただけに；」

真宵「凄いオーラなんじゃよ…」

つみき「裏切り者…」

佳奈「絶対に許さないよ…」

普通に嫉妬の目で美波の大きくなった部分を見る面々に雄二と秀吉に榊と京谷はうわーとなる。

明久「凄く大変だな；」

純「これ和解できるの？；」

そう言う明久の後に純がそう言う。

明久「いや、きつとバトルするからこそ闘志を燃やす為にじゃないかな？」

雄二「明久：お前はマジ読めてるのか読めてないのか分からねえな（恋愛除いて）」

秀吉「うむ（恋愛を除いて）」

はやて「気合入ってるのは分かるけどな；」

ティーチ「明久氏は女性のは一部空気読めない所あるでござるな…」

榊「うんうん」

京谷「読むの学んだ方が良いぞ明久」

純「じゃないと絶対大変だからね」

明久「？」

各々に言われて明久はハテナマークを浮かび上がらせるのであった。

メアリー「我々は胸を大きくしたいのだ」

佳奈&姫「そうだそうだー！」

アン「えーメアリーは大きくなってからが良いわ」

真宵「あれ？でも英霊って成長しないんじゃない？」

佳奈達と共に訴えるメアリーにそう言うアンのに真宵はそう指摘する。

アン「あ……」

メアリー「だから胸が大きくなる薬を所望してるんじゃないか!!」

そう言えばそうだったなーなアンにメアリーはブンブンと手を振り、エリちゃんズも

うんうんと頷く。

雄二「ノーコメントだな」

秀吉「ワシはワシで言ったら姉上や清水に後で説教されそうじゃから同じく；」

京谷「俺もノーコメ」

純「右に同じく」

榊「以下同文」

はやて「ウチはウチで揉んで大きくしたい」

ティーチ「はやて殿凄く女子だからこそ言えることですねwww」

デーン！

ティーチ、OUT！

それに明久を除く男性陣はそう言い、はやてのにティーチは思わず笑う。
バシーン！

香子「それなら販売部で買えば良いだろ」

メアリー「……小さい子には売れませんかと言われた（・ω・）」

その言葉に誰もがあーとなる。

メアリーは体格を見ると中学生ぐらいと思われても仕方ないのだ。

雄二「18歳以上向けだったか……」

秀吉「身分証明のはメアリーは持っておらんから；」

京谷「つかサーヴァント全員持ってなさそうだな」

榊「あー；」

純「なら別の人に頼んで買ったら良かったんじゃない？」

メアリー「…使う人じゃないと売りませんとも言われた」

その言葉に誰もがまたあーとなる。

メアリー「とにかく勝負だよ勝負！勝つたら大きくなるの！」

山神「大きく…なるんでしょわか？」

真宵「さあ？」

???「ふははははははははははは!!」

ビシツとメアリーが指さして言った瞬間、突如笑い声が響き渡る。

明久「え？何？」

???「ひとつ、鼻屑はせずに…」

それに誰もが戸惑うと声がそう言い…

雄二「なんか聞いた事あるフレーズだな」

???「ふたつ、不正は見逃さず」

榊「あ、あそこだ！」

その後に黒いフードを纏った人物に榊が気が付き、誰もが見る。

???「みつつ！見事にジャツジする！」

そう言つてフードを脱ぎ捨て…

サマーソウル「審判ロボのキャプテントンボーグかと思つたか？私

だあああああああああ！」

明久「またw」

雄二「あんたかよw」

秀吉「思わせぶりの声とセリフを出しときながらw」

はやて「くぷw」

ティーチ「不意打ちw」

榊「ぷはっww」

純「ぷぷっww」

京谷「ぶははwww」

デデーン！

全員、OUT！

本人かと思いきやまたもサマーソウルの登場に誰もが思わず笑う。

バシーン！

サマーソウル「この勝負は私が預かる！これから君達にあるゲームをして貰う！」

ブレイブエリザ「あるゲーム？」

知帆「ゲームですか？」

真宵「一体どんなゲームなんじゃよ？」

告げられた事に誰もがサマーソウルを見る。

サマーソウル「題して…くるくる回って目を回した状態で相手の風船割り

ゲーゲーゲーゲーム!!」

ハロウィンエリザ「無駄にながっ!」

山神「ええ!」

ドドーン!と宣言された事に誰もが戸惑う中でサマーソウルはルール説明を始める。

サマーソウル「ルールは簡単。両チーム、両足に付けた2つの風船を玩具のバットで割ったチームが勝ち!ただし、10秒経つまで回転し続ける事!」

明久「それって…」

雄二「そりやあ目が回るな」

榊「そうだな」

京谷「まあゆっくり回れば回んないかもな」

説明を聞いてコメントした京谷にサマーソウルがあまりいい!と叫ぶ。

サマーソウル「その少年!甘い甘い!かき氷の様に甘すぎる!全力でやらなければいかんだろう!!もしゆっくりだったらさらに10秒追加だ!しかも全員!」

エリザベート「ええええええええ!」

真宵「理不尽!」

雄二「サマーソウルだからそう言うと思った;」

純「やっぱりずるは駄目か」

京谷「なら十秒じゃなくて十回回れば良いんじゃないね?」

そう指摘する京谷に再びサマーソウルは馬鹿野郎と叫ぶ。

サマーソウル「そんな事したら数えきれない奴が出るだろうが!!!!」

明久「あー…」

雄二「ありえるな…特に姫とか」

京谷「あーそっか」

榊「確かに十回以上回りそうだな」

純「うん；そうだね；」

ティーチ「必死になつて数えるのを忘れてそうですな」

はやて「確かに回つてると数えきれなさそうやな；」

言われて誰もがあーと納得する間にそれぞれ準備が終わる。

サマーソウル「と言う訳で行くぞ！用意！スタート!!」

ピーーーーー!!!

ホイッスルを吹くと同時に誰もが回る。

明久「なんと言うか、見てる人も目が回りそうだね」

秀吉「確かにそうじゃな」

純「確かに見入つているとなりそうだよね」

榊「そうだな」

そんな回る光景を見て各々に言っている時計を見ていたサマーソウルが叫ぶ。
サマーソウル「はい10秒経った！割りにいけい！！」

姫「え、ええい！」

ブンっ！

合図と共に目を回した姫は勢いよく振るう。

パン！

そして見事に割った…味方である優子の風船を…

優子「姫、それ私の！」

姫「ふえ!?!」

榊「あー；；」

京谷「やつちやつたな…」

姫ならやりそうと思つたと誰もが思つたが本人の名誉の為に心の中で留める。

つみき「えい！」

香子「おっと」

一方でつみきは香子を狙いを付ける。

佳奈「ええい！」

千帆「きやつ!?!」

一方で佳奈は知帆へと狙いを付けて割ろうとしていた。

佳奈「やあっ！」

知帆「っ！」

勢いよく振るう佳奈のに知帆は持っている玩具バットで弾いた後に：

知帆「はあっ！」

ズバツ！

佳奈の風船を斬った。

明久「割るんじゃないかって斬った!？」

雄二「玩具のようややるな!？」

秀吉「達人は剣を選ばぬと言うが!？」

ティーチ「選ばなすぎ!？」

榊「凄すぎだろ!？」

京谷「マジかよ…」

純「凄いね…」

はやて「ほんまやな；」

それには誰もが驚く。

アン「まあ、凄いわね〜」

メアリー「凄すぎだよ！」

それに割ろうとぶつかっていたアンとメアリーは唾然とする。

知帆「そ、そうかしら？」

佳奈「隙あり！」

パンっ！

それに知帆は照れるがやり返すと佳奈は知帆の風船を1つ割る。

ドレイク「はっはっはっ！ドンドン来なよ！」

ブレイブエリザ「きい！おちよくって！」

こつちではドレイクがエリちゃんズを軽々といなしていた。

雄二「3対1で圧倒してるな」

榊「流石ドレイク：凄いな」

純「あ、そろそろエリザたち瞬殺されるかな？」

パン×6

それに雄二たちが各々に述べた後にエリちゃんズの風船は割られる。

エリちゃんズ「くやしいい！！」

ドレイク「ふふん」

姫「え、えい！」

そこに姫が来て、ドレイクはひよいと避ける。

避けられた姫はあわわ…とよろけ…

姫「きやう！」

パン×2

こけてしまい…それと共につみきと香子の風船をそれぞれ1個ずつわる。

はやて「またw」

明久「あちやあ」

純「あーあ」

榊「姫…」

デアーン！

はやて、OUT！

それには外野を含めて誰もがまたか…となる。

バシーン！

はやてが叩かれてる間もバトルは続く。

姫「あわわわわわ!?!」

香子「よっ」

パン！

慌てて起き上がろうとした姫の風船を香子は割る。

姫「あう！」

佳奈「姫ちゃん！」

姫をフォローしようとする佳奈に知帆も香子をフォローする為に佳奈を行かさな
様にする。

香子「よっ！」

つみき「！」

タツ！

もう一度狙おうとする香子をつみきが割って入って受け止める。

つみき「はっ！」

香子「おっと！」

風船を割ろうとするつみきに香子は避ける。

雄二「互角の勝負だな」

榊「さすが御庭だぜ……」

純「凄いねどっちも」

ティーチ「どっちが勝ってもおかしくないですな」

それに誰もが言っている間にそれぞれ割られて行き、最後はつみきと香子の一騎打ち

になっていた。

ドレイク「いや〜まさかあそこでうっかりでこけた姫にやられるとは」

姫「す、すみません…」

山神「いや、謝らなくていいですからね；」

はははと笑うドレイクに姫は頭を下げるのに山神がそう言う。

つみき「たあつ！」

香子「おっと」

お互いに互角の勝負を見せる。

明久「手に汗握るね」

純「そうだね」

紳「いつまで続くんだろうな」

京谷「つかもう目、回ってないだろあれ」

そう言う京谷に確かにと誰もが思った。

楽屋裏

長谷部「凄いなあの子。香子と互角に戦うとは」

キヤトラ「確かに凄いいけど、目回しがもう終わってると言うね；」

ミルカ「；」

チヨロ松「んで、どっちが勝つんだらうか？」

おそ松「俺的につみきちやんで」

田中「俺は香子さんだな」

鬼矢「まさかの引き分けに一票で」

そう言つて各々にどっちが勝つかでトトカルチヨを始める。

戻つて明久達

つみき「これで決める！」

香子「そうだな」

そう言つてお互いに駆け出し…

パン!!

音が鳴り制したのは…

純「同時に…割れた…」

…2人のどちらかでもなく、同時に割られていた。

明久「つまりこれって…」

サマーソウル「そこまで！勝負は引き分けだ！」

美波「えー!？」

真宵「引き分けー!?!」

誰もが結果に驚く。

サマーソウル「と言う訳で残念ながらご褒美なし!」

メアリー「あう;」

佳奈「えー!」

純「ご褒美?」

そう言うサマーソウルのに純は首を傾げる。

サマーソウル「財団X側にはそれぞれ欲しいのを、そして挑戦者側が勝ったらこのご要望の大きくなる薬を:」

メアリー「奪い取る!!」

つみき「奪うわよ! 変身!」

佳奈「変身!」

それを聞いた瞬間貧乳チームがサマーソウルに襲い掛かる。

明久「ああ、行っちゃった!」

ティーチ「必死過ぎる!!!」

紳「まあ仕方ないよな;」

京谷「本人たちからしたら悲願だもんな」

雄二「だな」

それには明久とティーチは叫び、榊と京谷、雄二はうんうんと頷き、はやてはあららくと頬をポリポリ搔く。

サマーソウル「ふっ、さらばだ！」

ダッ！

メアリー「逃げたぞ！追えー！地の果てまでも追いかけるんだー！」

貧乳団体「おーーーーー！！！」

攻撃を避けて逃走するサマーソウルに誰もが追いかける。

明久「行っちゃった……」

秀吉「姉上エ……」

純「狩る者の目だったね；」

榊「そうだな；」

そんな面々に誰もが冷や汗を掻くのであった。

ちなみに楽屋裏でトトカルチョで予想を当てた鬼矢に誰もが拍手していた。

第2の机ネタから報告会へ行くまで

前回からしばらくして部屋に戻った明久達は机の上に紙が置かれているのに気づく。

明久「えつと…引き出しの中身をリセットしときました…うわあ…」

雄二「また開けるか…」

榊「またか…」

純「これって開けなきゃいけないんだよね？」

そうなりますなと言うティーチのに純はうへえとなる。

雄二「んじゃあ。最初に開けたのとは逆ので良いか」

榊「そうだな」

純「えつと…どんな順番？」

そう言う雄二のに榊が同意してから純が聞く。

ティーチ「最初は明久氏から時計回りで榊氏↓雄二氏↓京谷氏↓秀吉氏↓鬼矢氏↓はやて氏↓拙者の順だったから反時計回りで拙者↓はやて殿↓純殿↓秀吉殿↓京谷殿↓雄二殿↓榊殿で最後に明久殿ですな」

純「へー」

説明するティーチのに純は納得した後、ティーチがさせ…と息を飲んで引き出しに手を付ける。

ティーチ「1段目…なし、2段目…もなし…3段目…ええ…」

3段目を開けてなんととも言えない顔をするティーチに誰もが首を傾げる中でティーチは中身を出す。

3段目の中身、テイルレッドをお姫様抱っこしてるテイルブルー

ティーチ「脳内で考えてる奴も出るとは明記してるけど…これは笑いのネタで良いのでしようか；」

明久「あ、うん；」

純「笑つたらなんか可哀想だよね…」

榊「ああ、確かに；」

京谷「男としての尊厳とかな…」

それには誰もがあーとなる。

はやて「んじやあウチやなくまさか2回目も狸な訳…(ガラッ)……なんでやねん」
はやての1段目：小さい狸像

明久「くっw」

雄二「2度目もww」

秀吉「ま、また狸w」

ティーチ「今度はリアルw」

榊「ぷっw」

京谷「っw」

純「へー、中々の造形だね」

デデーン！

明久、雄二、秀吉、榊、京谷、ティーチ、OUT！

それにはやてと純を除いて笑ってしまふ。

バシーン！

ティーチ「純氏は像とかに興味あるのですか？」

純「よく妖夢が刀の練習でやっているんだよ」

明久「刀の練習で？」

叩かれた後に気になって聞くティーチのに返された返答に明久は首を傾げる。

純「ほら、大きな木を斬ってなんか作ったりするの」

京谷「ああ、ああいうのか」

はやて「それで像を作ってるって事かいな…凄いな…」

説明する純に京谷は納得して、はやても感嘆する。
はやて「つと、次は…」

2 段目：たぬぬのヌイグルミ

明久「またw」

秀吉「しかも今度はくノ一はじめましたと言う漫画に出る狸w」

雄二「狸だけだよw」

ティーチ「はやて殿たぬきの多すぎw」

榊「ぶふっw」

京谷「ぶっw」

純「w」

デーン！

はやて以外、OUT！

5 度目の狸のに誰もが笑う。

はやて「どんだけ続けるねん！」

明久「鉄板だね」

榊「天井だな」

京谷「お約束だな」

突っ込むはやてに明久と榊、京谷はそう言う。
バシーン！

雄二「次はどんな狸だろうな」

はやて「狸前提かいな雄二くん!？」

純「まあ仕方ないよね」；

そう言う雄二のにツツコミを入れるはやてに純は頷く。

はやて「まったくもう：ええい！三度目の正直や！」

そう言うてはやてが三段目のを開ける。

はやての3段目：たれパンはやてのヌイグルミ

はやて「ぶふw」

明久「これは予想外w」

雄二「パンダのヌイグルミかよw」

秀吉「しかもたれパンダw」

ティーチ「ホントに予想外ですぞw」

純「まさかのパンダw」

榊「ぶはっw」

京谷「ぶふっw」

デデーン!

全員、OUT!

狸ではなくパンダにはやても含めて笑ってしまう。
バシーン!

ティーチ「次は純氏ですな」

純「僕か。一体なにかな?」

呟いてから純は開けて…突つ伏す。

明久「ええええええ!!?どうしたの純さん!」

秀吉「何が入ってたんじゃ!」

純「な、なんで……」

震えながら純はそれを取り出す。

純の1段目の中身：幽々子と可愛くされてる純の写真

明久「あ、ああ…」

雄二「ぷw」

秀吉「これは災難じゃな;」

ティーチ「うーん。凄く違和感ない;」

はやて「めっちゃかわええw w」

榊「確かに可愛いな」

京谷「そ、そうだな；」

デデー！

雄二、はやて、OUT！

それに雄二とはやてが笑うと；

ボオオオオオツ！

「!?」

純「ねえ、今なにも見なかったよね？ね？」

写真を燃やして黒い笑顔で言う純に誰もがあ、はいとなる。

楽屋裏

おそ松「すつげえ黒歴史だったんだな」

トド松「そりやあそうでしょ普通に；」

月奈「すつごく怖い顔でしたね」

美陽「そうね；んで提供者は写真焼かれて落ち込んでるし」

幽々子「orz」

その様子を見てそう言うおそ松にトド松はそう言い、写真を焼かれた事で落ち込む

幽々子に美陽はなんとも言えない顔をする。

フオックス「そんなあなたにこれをプレゼント」

するとフオックスがすつと幽々子の前に出てトランクケースを差し出し、幽々子はなんだらうと中身を見て…目を見開く。

なんだろうか？と横からカラ松は覗き込む。

カラ松「こ、これは…様々な服を着た純氏の写真集!？」

真宵「いつのまに!？」

幽々子「買値はいくらかしら？なんなら言い値で良いわよ」

フオックス「お代はいらない。プレゼントだからな」

驚く面々を前に目を輝かせて聞く幽々子にフオックスはそう言う。

幽々子「ふふ、純君コレクションが増えたわ♪」

妖夢「ゆ、幽々子さま…」

咲「あははははは；」

ご満悦な幽々子に妖夢は冷や汗を流し、咲は空笑いする。

守理「と言うかどうやって手に入れたの？」

ゼフィランサス「ああ、なんか幻想郷に来た事で得た能力での撮った写真だよ。ちなみに撮った対象の色んな写真が出来上がるとか」

チヨロ松「何それ；」

鬼矢「あとでバレないようにな」

そう注意する鬼矢に幽々子はふふつと笑い：

幽々子「大丈夫だ。問題ないよ♪」

サイサリス「(あ、これもうバレるな)」

グロツケン「(確実にフラグを踏みやがった)」

乃亞「(これは焼かれるな)」

香子「(絶対焼かれるな)」

誰もが先の展開が読めてあーあーとなる。

戻って明久達。

明久「2段目は？」

純「えつと……」

促されて純は笑いで入ってますように……と願いながら2段目を開ける。

純の2段目：爆弾

明久&はやて「また!?!」

京谷「マジかよ!?!」

純「えつと…どうする？これ」

それに誰もが距離を取り、純は聞く。

ティーチ「きつとコードがある筈ですぞ！」

榊「それを切れば…」

純「コードね。えつと…」

それに純はコードを確認する。

コードは紫と桃色であった。

純「紫と桃色ねえ…」

京谷「一体どっちなん…」

パチン

それに京谷が言い切る前に純は紫を切る。

するとピンポーンと言う音声は鳴り響く。

雄二「切るのはええな！」

秀吉「京谷が言い切っておらなかったぞ；」

純「ん？」

榊「しかも正解出すとは…」

すげえと言う面々の視線に純は首を傾げながら3段目のを開ける。

純「なにもないよ」

秀吉「それなら次はワシじゃな…」
そう言つて秀吉は1段目を開ける。

1段目：雷が描かれたボタン

秀吉「これは…」

榊「ボタンだな」

純「なんか絵が書いてあるね」

この雷はなんだろうかと思つたが次の引き出しを開ける。

秀吉「…またボタンじゃ」

秀吉の2段目：鬼の顔が描かれたボタン

明久「また？」

ティーチ「鬼ですな」

京谷「まさかラムちゃんになるボタンだったり」

どうなんだろう…と思つている間に秀吉は3段目を開ける。

秀吉「3段目はなしじゃな。次は京谷じゃな」

京谷「お、俺か…」

何が入つてゐるんだ…と京谷はゴクリと息を飲んで1段目を開ける。

京谷の1段目：咲の写真

楽屋裏

咲「なんで!?!/!/」

まさかの自分の写真に咲は思わず顔を赤らめ、真宵と佳奈はいえーいとなる。

ドド松「うん。リア充爆発しろだね☆」

一松「マジそれな」

咲「だ、誰がリア充よ!」

月奈「え? 違うんですか?」

それを見たトド松は笑顔でそう言い、一松も頷くのに咲は慌てて否定するが月奈のに

いやその…と腕をバタバタ振る。

つみき「…顔真っ赤」

幽々子「あらあら」

からかう面々に咲はもー!と手を振る。

戻って明久達

はやて「おやおやく〜フィギュアの子やなく」

京谷「な、なんで崎守の写真が…」

榊「取り敢えず貰つとけばどうだ？」

戸惑う京谷に榊は茶化すと貰えるかと怒鳴り返される。

明久「？写真のなんで戸惑うの？」

ティーチ「(ホント明久氏エ…)」

秀吉「(幼き頃のは聞いてはおるが無知過ぎるのじゃ…)」

雄二「(まあ、それを除けばな…)」

榊「(良い奴なんだけどな…)」

京谷「いや…それは…」

心底疑問な明久のに京谷はどう返せば良いか言葉が詰まったが次だ次！と勢いで誤魔化して2段目を開ける。

京谷の2段目：お姫様咲のフィギュア

明久「あ、またフィギュアだ」

京谷「またかよ！次は！」

3段目：王子様な京谷のフィギュア

3段目のを開けると次は俺かよ！と京谷は叫ぶ中でティーチは気づく。
ティーチ「はっ！これは合体できる奴ですぞ！」

榊「何っ!？」

純「つてことは…」

その言葉と共に京谷は恐る恐る自分と咲のフィギュアを近づけ…

はやて「あ、合体した」

京谷「マジかよ!?!」

誰もがおーとなり、京谷は絶叫する。

明久「1つ出来るって凄いね」

ティーチ「よく作ったでござるな」

京谷「それがなんで俺と崎守のなんだよ…」

突っ伏すしながらそう言う京谷を後目に雄二が俺だな…と1段目を開ける。

雄二の1段目：服のボタン。

明久「ぶw」

秀吉「ふ、服のボタンw」

雄二「確かにボタンだけだよ」

はやて「そこはなんかのボタン来ても良いんやないかなw」

ティーチ「確かにw」

純「と言うかなんで服w」

榊「確かになw」

デデーン!

明久、秀吉、榊、はやて、ティーチ、純、OUT!

普通の服のボタンに思わず雄二と突っ伏すしてゐる京谷を除いて笑つてしまう。

バシーン!

雄二「んで、2段目は…?」

続いて2段目のを開けた雄二はん?となつた後にそれを取り出す。

雄二の2段目:手帳の様なの

明久「何これ?」

榊「手帳か?」

京谷「でもなんで手帳?」

誰もが首を傾げる中で雄二は手帳を開き…

雄二「ぶつw」

笑つた。

デデーン!

雄二、OUT!

明久「どうしたの雄二!」

純「んー?」

いきなり噴いた事に誰もが驚き、純が見ようとするとする前に雄二が見せる。
中身：近藤勲と言う写真の下にゴリラと刻まれている。

明久「ぶふw」

秀吉「本家であつたのを模した奴かw」

はやて「あ、あかんわw」

ティーチ「くくくw」

純「ぶはつw」

榊「ぶふつww」

京谷「ぶはつw」

デーン！

雄二以外、OUT！

出されたのに誰もが爆笑してしまう。

楽屋裏

近藤「ちよつとおおおおおおおおおお!?あれカッコいいのを見せる為につて奴で撮つたのだよね!?!ねえ!?!」

おき太「お、落ち着いてください別世界の近藤さん;」

銀時「まあ、笑いのネタにやあ丁度いいやつだろ」

月奈「まあ確かに；」

幽々子「面白かったわよさっきの」

佳奈「うんうん！」

絶叫する近藤に英霊のおき太が宥めに入り、銀時がそう言っつて、月奈の後のくすくす笑いの幽々子に佳奈も同意する。

近藤「俺リリカル銀魂だとあんまりゴリラ扱いされないからこそぞと言わんばかりに使われてるよ！」

銀時「けどまだマシじゃねえか？本家でのを取り入れてたらM1号のになつてた可能性大だぜ？」

信長「ぶふw」

武蔵「そ、それはありえそうねw」

美陽「ぶはははははw」

姫「ぶぶつw」

メタイ事を叫ぶ近藤のに返した銀時のに誰も笑う。

鬼矢「にしてもさっきのフィギュアのは凄かったな」

乃亞「ああ、確かあれ作ったのは誰……」

伊御「えつと確か…」

その後には咲と京谷のフィギュアの出来を鬼矢が褒めて、誰もが作った人物を見る。

アーチャー「む？私を見てどうした？」

キヤトラ「作り上げた時はビックリしたわよね」

ザック「だよな」

鬼矢「まさかアーチャーがそこまで出来るとはな」

伊御「一体何処で習ったんだ？」

首を傾げるアーチャーに各々そう言う。

アーチャー「投影魔術の訓練の一環的みたいなものさ…色々と再現するのが出来れば

出来る程、武器のも長く持つのが出来るからね」

キヤトラ「変わってるわね」

伊御「まあそれがアーチャーもといエミヤだしな」

乃亞「ただ、今は逃げた方が良いぞ。後ろ後ろ」

そう肩を竦めるエミヤにキヤトラはそう言い、伊御の後に乃亞がそう言う。

後ろにはジハドに変身した咲がおり、アーチャーはやれやれと肩を竦めながら攻撃をかわす。

アーチャー「言つとくが私は頼まれたただけぞ。特に真宵くんが作ったらどうじゃろ

ううかと薦めてたし」

ジハド「へー……そうなんだ」

真宵「ギクツ!？」

避けながらのアーチャーのにジハドは真宵を見て、真宵はあはは……と半笑いした後……

真宵「さらばじゃ!」

ジハド「逃がさないわよ!」

ダツ!と逃げようとする真宵にジハドは追いかける。

鬼矢「……さて、あつちにカメラ戻すか」

そう言つて鬼矢は明久達を見る。

戻つて明久達

雄二「3段目は……なしか……次は榊だな」

榊「えつと……」

3段目はなかったのでもう言う雄二に榊は1段目を開ける。

1段目：モナドの剣（レプリカ）

榊「中の人おおおおお!？」

明久「声ネタw」

雄二「またかよw」

秀吉「確かにそうじゃがw」

ティーチ「穏やかじゃないですねw」

はやて「てい、ティーチさん似合わんわw」

純「うんうんw w」

京谷「ぶはははははw」

デデーン！

榊以外、OUT！

まさかの中の人ネタ+ティーチの笑かしに誰もが笑う。

明久「同じ声だよね」

榊「明久と純みたいにな」

バシーン！

叩かれるのを見ながら榊は2番目の引き出しを開ける。

榊「あ、これって……：ガイアメモリか？」

榊の2段目：ガイアメモリ

雄二「おいおい、またかよ；」

純「また？」

雄二「榊てめえええええええええ!!」

ティーチ「まだ持ってたんですな；」

純「あーなるほどね；」

それに雄二は叫び、ティーチは冷や汗を流して純は納得する。
バシーン！

明久「3段目は？」

榊「えっと…」

言われて榊は3段目のを開ける。

榊の三段目：ゲーム

ティーチ「これは…ゲームですな」

榊「しかもこれ昔のゲームだな」

純「見る限りファミコンかな？」

ファミコンでどういうゲームと誰もが疑問を感じる。

榊「ま、魔界村エリザ？」

雄二「……………おい、普通におい」

はやて「パロディかな？」

純「あ、メモもあった。…………え？クリアしろ？」

あつたメモを見た純はマジでと冷や汗を掻く。

秀吉「やるのは明久のを開けてからでどうじゃろうか？」

榊「そ、そうだな…」

京谷「(やるとして今日中に終わるか?)」

頷く榊の横目に京谷はそう思った。

明久「んじやあ僕だね」

はやて「何が出るんやろうな？」

純「嫌な予感するなー；」

最後の番であつた明久に純はそう言った後に明久は1段目を開ける。

明久の1段目：服のボタン

明久「あ、服のボタンだ」

雄二「2回目w」

秀吉「まさかもう1個とはw」

はやて「これは予想外やw」

ティーチ「確かにw」

榊「一体何なんだこれ？」

京谷「そうだよな…」

純「気になるよね」

デデーン！

雄二、秀吉、はやて、ティーチ、OUT！

2個目のボタンにまさか続くとは思わなかった上記4人は笑う。

明久「えつと、2段目は…」

明久の2段目：服のボタン

明久「また!？」

雄二「まだ続くかw」

秀吉「だ、誰のじやろうなw」

はやて「せやなw」

ティーチ「と言うかこれまで3個も出てるでござるなw」

純「出すぎでしょ；」

榊「確かにな；」

京谷「ホントなんだ？このボタンは」

デデーン！

雄二、秀吉、はやて、ティーチ、OUT！

またも出て来たボタンに明久は驚き、上記の4人はまたも笑ってしまふ。

明久「えっと3段目……」

次の引き出しを開けた明久は：笑いそうになるのを堪えて全員へと見せる。

明久の3段目：オリムライダーのフィギュア

明久「ぶは!! w w w」

雄二「くぷw」

秀吉「あ、あの御仁のかw w」

はやて「ま、また笑いがw」

ティーチ「ぶふw w w」

榊「ぶふつw w w」

京谷「ぶはつw w w」

純「ぐはつw w w」

デアーン！

全員、OUT！

まさかのオリムライダーのフィギュアに誰もがあの時を思い出して爆笑してしまう。

楽屋裏

一部の者達「w w w w w w w w w」

キヤトラ「沈んだあああああ!!」

鬼矢「あれは仕方ないwww」

乃亞「確かにwww」

それには楽屋裏の面々も沈み、鬼矢と乃亞も笑いながら言う。

おそ松「誰w抱腹絶倒させマンのフィギュア作ったのwww」

一松「俺が財団Xに頼んで作って貰ったw」

銀時「主犯はお前かw」

ザック「やつべまたwww」

佳奈「あははははははwww」

真宵「ぶははははははwww」

伊御「ぶははははははwww」

「またも爆笑の嵐が巻き起こったのであった。」

戻って明久達…

バシーン!

明久「ま、また見るとは…」

ティーチ「ホントやつべえですな」

榊「マジでやばいぜこれは……」

純「そ、そうだね……」

なんとかオリムライダーのフィギュアを仕舞った所で誰もが落ち着いた。

明久「そう言えば仕舞う時に封筒があつた」

雄二「なんだ？中身は2つもあつたのか？」

榊「何か書いてあるな」

そう言つて封筒を見せる明久は言われてみる。

明久へ 美波

明久「あ、美波からだ」

秀吉「島田からか？」

純「美波ちゃんから？」

京谷「中身は？」

ええつと：明久は中身を取り出す。

封筒の中身：大きくなつたからボタンが飛んじやつた♪と言うコメントが付いた大きくなつた胸元がチラリと見せるボタンが弾けたシャツを着た美波

明久「美波……そんなに嬉しかったんだね」

雄二「おかんか！」

秀吉「と言う事は2つのボタンは美波の……」
はやて「みたいやな；」

ティーチ「凄いアピールだ」

純「確かに；」

榊「凄すぎるだろ；」

京谷「何人かが楽屋裏で血涙流してそうだな」

口元を抑えて泣く明久に雄二はツツコミ、ティーチのに純と榊は頷き、京谷がそう言う。
う。

楽屋裏

優子「……本当に羨ましいわ……」

臯月「お姉ちゃん大きくて羨ましいです」

ジャック「だよね」

ナーサリー「羨ましいわ羨ましいわ」

メドゥーサ「葉月にジャック、ナーサリー……あなた達は今のままでいてください」

ステンノ「ほう、つまり私達もそうなの？」

エウリュアレ「ホントこの子は」

メドウーサ「Σ（・□・；）」

佳奈「メドウーサちゃん…南無；」

姫「う、羨ましいですう！」

月奈「私たちは…どういえばいいんでしょうかね？」

美陽「悩みどころねえ…」

羨ましがる少女たちにそう言つて姉たちに弄り回されてるメドウーサに手を合わせる佳奈と姫の後ろである姿だと大きい月奈と美陽はなんとも言えない顔をする。

箒「…：…大き過ぎるのも大変だぞ」

セシリア「経験者は語りますわね；」

鈴「そんな箒の胸が大好きです」

ラウラ「うむ、ぶれないな」

鬼矢「はあ…：…やれやれ」

咲「あははは；」

真宵「あ、次はボタンのに行くみたいじゃよ？」

それに箒がそう言い、セシリアは苦笑する中でドドンと言う鈴にラウラはしみじみと語り、そんな鈴に鬼矢は呆れ、咲は苦笑する中で真宵が言う。

雄二「んじゃあ、次は押すボタンのだな」

秀吉「ふむ、雷のはなんじやろうな？」

榊「誰が押す？」

出て来たボタンを見て言う榊にそれは決まっておりますでしょうとティーチが言う。ティーチ「やはり2つとも出て来た引き出しの主である秀吉氏が押すべきでしょう」

京谷「そうだよな」

やっぱりそうなるのか：と思いつつながら秀吉はまず最初に出た雷の方を押す。

頼光「ふふ、押しましたね」

純「いきなり出た?!」

榊「頼光さん!?!」

するとドアを開けて頼光が現れて秀吉に近づく。

秀吉「な、何を」

頼光「ふふ、金時にしておきたいですが此処は主様に…」

戸惑う秀吉に頼光はふふつと笑った後：

ポヨン！

秀吉「ぶふ!!」

豊満な胸で秀吉を叩いた。

猫耳を付けて某有名アニメの鬼娘同様の虎柄のビキニを付けた茨木童子が来た。

明久「猫耳w」

雄二「それは予想出来なかったw」

秀吉「と言うか出来んじやろうw」

はやて「ほんまそれなw」

ティーチ「くぶぶw」

榊「ぶはつwww」

京谷「wwwwww」

純「あははは；」

デーン！

純以外、OUT！

茨木「笑うニヤ！！」

バチーン！！

秀吉「猫パンチ!?!」

顔を真っ赤にした茨木のパンチが秀吉の頬に炸裂する。

榊「ニヤってw」

純「あー語尾まで；」

デデーン！

榊、猫パンチ！

それに思わず榊が笑うがアナウンスのにん？となる。

明久「あれ？」

はやて「アウトやなくて猫パンチ？」

京谷「ん？」

アナウンスが違う事に誰もが疑問に思ったがすぐに分かった。

茨木「お前も笑うニヤ！」

バシーン！

榊「ぐほっ!？」

殴られる様子に誰もがああ…：そう言う事か…と納得する中で茨木は出て行く。

明久「だから猫パンチ…」

雄二「まさに専用のアウトだな」

純「確かに；」

誰もが納得する間に榊は起き上がる。

秀吉「胸ビンタと猫パンチを食らうとは…」

榊「まあドンマイ；」

京谷「さて次はどれする？」

雄二「確か残りはゲームだけじゃなかったか？」

聞く京谷に雄二がそう言う。

榊「ゲームって言うと……」

純「この魔界村エリザか」

これか……と純は榊の引き出し三段目にあつたのを見る。

明久「魔界村と変わんない感じかな？」

秀吉「そこらへんどうなんじゃろうな？」

京谷「取り敢えず起動してみるか」

そう言つてテレビに繋げてゲームを起動する。

明久「ゲーム場面は……元のと変わらないね」

純「そうみたいだね」

榊「操作してみるぞ」

そう言つてスタートさせると一通り操作してみる。

武器が剣を振るい、盾を構えたり、音波を飛ばす以外は榊の知っているのであつた。

明久「操作してみよう？」

榊「多分行けると思う」

そう言つて榊は動かす。

やり方としては音波で相手の動きを止めた所で剣で倒して行く感じで飛んで来た攻撃は盾で防ぐ感じの様だ。

ティーチ「ほうほう、パロディですが攻撃とかのは良い感じですか」

京谷「そうだな」

純「あ？なんだあれ」

それを見て感嘆するティーチに京谷も同意していると純が進んだ先を見て言う。

現れたのは…どこことなくティーチに似たレッドアリーマーの様な存在であった。

明久「ちよw」

雄二「ぶふw」

秀吉「なんと言う組み合わせw」

はやて「ちゆ、中ボスカいなw」

榊「レッドアリーマーならぬレッドティーチw」

純「ぶふつww」

京谷「ぶはつww」

ティーチ「あ、なんか先の展開が読めた；」

デアーン！

ティーチ以外、OUT!

それに思わずティーチ以外が笑ってしまう。

バシーン!

雄二「とにかく倒せば良いか」

榊「やれるか…?」

そう言いながら榊はブレイブエリザを操作し、レッドティーチを倒す事にする。

レッドティーチの放つ攻撃を盾で防ぎながら音波で動きを止めながら攻撃を仕掛ける。

純「お!良い感じ!」

榊「よし!これなら……!」

そう言つて油断した所で防御が遅れる。

明久「あ、当たった!」

それにより…ブレイブエリザの鎧が消える。

明久&秀吉「ぶー!」

はやて「脱げた!!」

ティーチ「仕様は同じでしたか」

雄二「そこも同じにするか」

それには誰もが驚く。

なお、ちゃんと下には下着替わりの水着を履いてて誰もがホツとした。

榊「あ、盾も消えた!？」

京谷「ミスしたら防御できなくなるのか」

純「厳しいね」

その後に盾も無くなったので防御出来なくなったので必死に避ける。

榊「うおっ!?!やばっ!?!」

その後に攻撃が来たので慌てて避ける。

明久「相手は後どれ位で倒れるかな？」

榊「ゲージとかないからわからないんだよな」

そう呟く明久のに榊は操作しながらそう返す。

ティーチ「けど何発も当ててるのですしそろそろではないかと」

京谷「まあそうだよな」

その言葉の後にレッドティーチは青くなった後に消滅する。

明久「あ、倒した」

榊「よし、進むぞ…ってあ」

と、意気込んだ時にブレイブエリザが骨になる。

明久「あい、うち？」

純「いや、雑魚敵の攻撃を喰らって死んだみたい」

榊「くっそ…また戦わないと…」

呻いた後に榊はもう一度！と気合を入れる。

数分後

榊「なんだこのムリゲー」

思わず榊はプレイしていてそう言う。

明久「流石魔界村を元にしてるの」

京谷「やっぱりこれ今日一日じゃクリアできないだろ…」

純「確かに…」

雄二「んでどうするんだ？」

それを見て各々に言う3人の後に雄二は聞く。

榊「頑張つてクリアするしかないだろ」

そう言つて榊はゲームを進めていく。

1時間後

榊「よし！一面クリア！」

ついに一面をクリアする事が出来、次だな次と思うとテロップが流れる。

明久「あれ？速い？」

雄二「一面だけのだったのか？」

京谷「いや、なんか違うみたいだぞ」

そして最後には：

榊&ティーチ タイキツク

デデーン！

榊、ティーチ、タイキツク！！

ティーチ「予想はしてた」

明久「ああ…」

榊「まじかよおおおおお!!？」

テロップの最後と告げられた事に榊は絶叫する中でインペラーと闘士アントラーが来る。

インペラー「おりゃあ！」

闘士アントラー「(・ω・)！」

バシーン!!

ティーチ「のおっほ!!？」

榊「ぐあっ!!？」

強烈なタイキックを受けて2人が悶える中でアナとブラックキングたちが来る。

ブラックキングSD「お前等、報告会が始まるからそれに参加するぜ」

明久「報告会」

雄二「そりやまた」

京谷「報告会って…」

純「あーあれか；」

それを聞いて誰もがあーとなる。

はやて「どう言うのが出るんやろうな？」

榊「いやな予感しかないぜ」

そう会話しながら案内される。

報告会で待ち受けている笑いの刺客は…

報告会から夜の定番始まる前まで

会議室は広く、用意された椅子に座る様に言われ、着席する。

須川「えー、では報告会を始めようと思います。誰が最初に発表しますか？」

そう聞く須川に手を上げるものがいた。

真宵「では私からするんじやよ」

そう前置きしてから真宵は始める。

真宵「戌井榊の調査報告じや。最近榊さんは…姉であるみいこさんが奇跡を起こすのではないかと時々たま観察してるそうなんじやよ」

雄二「おま、そんな事してたのか」

京谷「まあ確かに起こしそうだけどさ…」

榊「流石に起こせないと思うだろ？でもな…」

そう前置きする榊に誰もがまさか…と榊を見る。

榊「……何もなかった」

ガラガラドツシヤアアアン!!

思わせぶりをなかつたのに誰もがずっとこける。

雄二&ティーチ「ないんかい!」

須川「な、なんと言うオチ;」

一松「せやな」

誰もが思わず脱力するのであった。

榊「ふ、良いリアクションだったぜ」

それに榊は良い笑みを浮かばせる。

デブーン!

榊、OUT!

雄二「安定のオチだな榊」

純「策士、策に溺れたね」

榊「しまった!」

ズツコケさせたのは良いものものつい笑みを浮かばせちゃってアウト宣言されたのに

榊は頭を抱える。

バシーン!!

須川「えー、他に報告ある人」

??? 「はい」

須川が聞くと今度は咲が手を上げる。

須川「では報告を」

咲「京谷についての報告なんだけど…」

明久「どう言うのが出るんだろう」

榊「おそらく碌なのじゃないな」

京谷「いやな予感がする…」

少し間を開ける咲に誰もが息を飲む。

咲「色々と幻想郷の人達を見てドキマギしてて、それがキモイんですよね」

京谷「うおおおおい!」

純「あー;」

榊「あれはなー;」

ティーチ「男だから仕方ないでござりますなw」

デデーン!

ティーチ、OUT!

告げられた事に京谷は絶叫し、純と榊もうんうん頷く中で笑ったティーチがアナウン
スされる。

バシーン！

幽々子「次は私！純君は女装しても可愛い！」

意気揚々と手を上げてそう報告する幽々子に明久達は笑いかけろが堪える。もしも笑つたらやばいと思つたから…

榊「ぶっw」

はやて「ぶふっw」

だが、笑つてしまった2人がいた。

デデーン！

榊、はやて、OUT！

幽々子「写真あるけど見る…」

純「姉さん？」

見せようとすろ幽々子に純は黒い笑みを浮かばせる。

そして振り返つた幽々子は一言。

幽々子「駄目？」

純「駄目」

アーーーーー！！！！（某青ツナギの男にやられた際の声）

雄二「ぶっw」

ティーチ「声ｗｗｗｗ」

秀吉「なぜｗｗ」

はやて「ｗｗｗｗ」

榊「ぶふうｗｗ」

京谷「ｗｗ」

デーン！

雄二、秀吉、榊、京谷、はやて、ティーチ、OUT！

お仕置きされる際の声がまさかの別の人のに思わず純に同情してる明久とお仕置きしている純を除いて笑ってしまう。

バシーン！

幽々子「うう…残念」

妖夢「自業自得です幽々子様」

よよよと泣く幽々子に妖夢は溜息を吐く。

須川「他に純さんについての情報は？」

妖夢「えつと…あまりないですね」

すると次に手を上げたのは子ギルであった。

子ギル「はいはい。吉井明久であります」

明久「うわ次は僕か」

純「明久君の秘密か」

榎「それは気になるな」

どう言うのが出るんだと考える。

子ギル「マスターの吉井明久は：新しいモンスターが出たら暇な時に自分なりの召喚

口上を考えたりしている」

明久「いやん聞かれてた（／ω＼）！」

雄二「おいw」

秀吉「なんじゃその反応はw」

はやて「アキ君w」

ティーチ「そんなに恥ずかしかったでござるかw」

純「ぶぶぶつw」

榎「明久w」

京谷「なんだそのリアクションw」

デデーン！

明久以外、OUT！

出て来たのに明久は顔を抑えるがリアクションに思わず明久以外が笑う。

バシーン！

須川「ほ、他にはw」

子ギル「後は：試しに知り合いの人が書いた同人誌を見せたら：なんで裸でプロレスをしてるの（・ω・？）？と言う。バカだねw」

雄二「ぶつ、明久おまw」

明久「え？何かおかしい？」

秀吉「と言うか何を見せておるんじや子ギルよ；」

はやて「確かに返しがおかしいw」

ティーチ「確かにどんだけw」

榊「知識無さすぎるだろw」

純「ぶつふw」

京谷「www」

デーン！

雄二、榊、京谷、はやて、ティーチ、純、OUT！

須川「まさか吉井がそこまでなかったとは：面白くもあるが怖いな…」

明久「なんで怖がられてるの!？」

雄二「気にするな」

純「気にしないほうがいいよ」

そう言う須川に明久は驚く中で雄二と純がそう言う。

酒吞「今度はウチやで〜主の木下秀吉に關する事で」

秀吉「今度はワシか!?!」

京谷「どんなんだ?」

誰もが息を飲んでみる。

酒吞「木下秀吉は：酔っ払うと結構甘えたがるんや〜んで清水とおった時は凄く猫の様に甘えるんやで〜」

秀吉「それ秘密にしてと言っておいたのじゃあああああ!?!」

明久「と言うか酔っ払うって間違つて飲んだの?」

はやて「かわええなw」

ティーチ「きつとあわあわしてたんでしょなw」

榊「顔真つ赤にしてなw w w」

純「想像しやすいw w」

京谷「ぶはははははw w」

雄二「くくくw」

デーン!

雄二、榊、京谷、はやて、ティーチ、純、OUT!

くすくす笑って言う酒呑のに秀吉は顔を赤くして絶叫し、明久以外が笑う。

バシーン!

須川「他には?」

ブーティカA「はいはい」

それにアヴェンジャーのブーティカが手を上げる。

雄二「今度はあいつか」

純「どんな秘密かな?」

榊「やっぱ面白いなこれ」

誰もが息を飲んで報告を待つ。

ブーティカ「マスターの雄二はね…時たま魔法のアイディアとかで少女漫画を読み

漁ったりしてるのよね」

雄二「魔法なら少女漫画が考えやすいんだよ」

ティーチ「だけどシニールw」

はやて「確かによんどる姿を想像するとw」

純「ぶふっwww」

榊「ぶははははははw w w」

京谷「に、似合わねえwww」

デーン！

榊、京谷、はやて、ティーチ、純、OUT！

ブーティカのに想像した上記の面々が笑う。

バシーン！

明久「色々と、赤裸々なのを暴露されたね」

秀吉「うむ」

榊「確かにな；」

京谷「どつから仕入れてきたんだか…」

各々にそういう中でバタバタと慌てた様な音がしてきて…

横溝「すみません！遅れました！」

コナンの横溝参悟の髪型にした横溝が来る。

須川「遅いぞ横溝！」

明久「その髪型w」

雄二「して貰ったのかw」

秀吉「くつw」

はやて「す、凄い珊瑚へアーw」

ティーチ「海にいたら違和感なさそうw」

榊「ぶふつww」

純「確かに違和感ないww」

京谷「ぶふふつww」

デデーン！

全員、OUT！

リアルで名前繋がりでコナンの横溝兄の髪型をしているのに誰もが笑う。

バシーン！

須川「そ、それでどうして遅れたw」

横溝「はい、西原京谷のである噂話を」

雄二「京谷のだと？」

京谷「俺の？」

榊「噂話？」

なんだなんだ？と誰もが思う。

横溝「なんでも、釣った魚を入れようとして落としてかけて蹴つちやっただけで

す」

須川「ほほう？」

雄二「あつ（察し）」

京谷「ん？」

榊「お？」

純「へ？」

横溝から出て来た言葉に雄二は察して何を蹴ったの？と京谷が見るが蹴ってない蹴ってないと本人は手を振る。

須川「ちなみにその魚は？」

横溝「タイです」

ティーチ「ああ……」

はやて「オチが読めたな；」

榊「タイ……蹴る……ああ」

告げられた名前に誰もが気づく。

須川「成程、タイにキツクか！」

横溝「はい！タイキツクなんです！」

デデーン！

京谷、タイキツク！

京谷「またかあああああああああ!?」

純「ひどい洒落だな；」

ティーチ「だけど本家で違う形でありえそんな気もしますな；」
アナウンスに京谷は絶叫し、そう言う純にティーチはそう言う。

バシーン！

京谷「ふご!？」

明久「ホント凄い；」

榊「よくやってくれるよな」

蹴られる京谷を見ながら各々に言っていると銀時が手を上げる。

銀時「私も八神はやてに関するのを仕入れました」

はやて「今度はうち？」

秀吉「なんとなく分かる気がするのじゃ」

純「僕もなんとなくわかった」

その言葉に誰もが察する。

銀時「仮装大会が近々するのでそれに：八神はやてはツラと共にツラが狸で自分は狐
と言うマリオブラザーズの変身での仮装で出ようとしての事です」

明久「狐ww」

雄二「確かにカツオでならそうだけだよw」

秀吉「逆にしたのじやなw」

ティーチ「くくw」

榊「ぶふっw」

京谷「ぶはっw」

純「ぷっw」

はやて「いやああああああああ!!桂さんそれ当日まで秘密にしといてと言ったやないかああああ!!」

デブーン!

はやて以外、OUT!

情報にはやて以外は笑い、はやては絶叫する。

バシーン!

銀時「まだあるんです」

明久「まだあるの!?!」

純「まだあるんだ」

どう言うのが出るんだ!?!と誰もが思っていると:

銀時「最近、なのはやフェイトにアリサ達から赤い狐か緑の狸ではやてちゃんは緑の狸ねと言われたそうです」

明久「また狸w」

雄二「狸ネタは続くなw」

秀吉「美味いのは分かるのじやがw」

ティーチ「ですなw」

京谷「うんうんw」

純「似合う似合うw」

榊「くくくw」

はやて「ウチ、狐も食べたいんやで！」

デ^レア^ン！

はやて以外、OUT！

今度は有名な奴でのやり取りネタにはやて以外が笑う。

バシーン！

須川「えー、次に何かありますか？」

???「あるぞ」

そう言つて手を上げたのは花屋大我であつた。

ティーチ「アイエエエエ!? 本家スナイプ!? 本家スナイプなんで!?!」

雄二「と言うか参加してんだな；」

榊「参加するキャラかおい；」

純「イメージ的にしなさそうだよね；」

なぜいるかについて誰もが疑問を抱いてる中で須川が恐る恐る聞く。

須川「えっと、聞きますがどう言った理由で？」

大我「ああ、別の世界のスナイプの事でな…なんでも魔法紳士とかふざけた事をしたとかな」

ティーチ「いやああああ!!色々と黒歴史!!」

榊「ああ、もしかして…」

京谷「あのイベントの事か」

大我から出て来たのにティーチは絶叫し、榊と京谷は納得する。

明久「ちなみに魔法紳士はキレイなXライダーさんに全員が秒殺されて出て来た子もX

ライダーさんに怯えてたな…」

雄二「あれは…酷い事件だった」

秀吉「うむ」

榊「なんというか…可哀そうだな最後の子が；」

純「無茶な設定って泣いてたのにね；」

その光景を思い出してか遠い目をする明久達3人とガタガタするティーチを見て榊

たちはうわーとなる。

大我「そいつには色々叩き込んでおけよ。俺と同じスナイプならなこんなのに出るんだから後はタイキックでも耐えるだろうしな」

ティーチ「え？」

そう言つて去る大我の最後の言葉にティーチは茫然とし、まさかの置き土産と誰もがティーチを見る。

ブラックキングSD「と言う訳でティーチはんはこれ以降はケツバットではなく、タイキックに変更やで〜」

ティーチ「アイエエエエエ!?」

明久「わおう；」

京谷「マジか；」

宣言された事にティーチは絶叫し、他のメンバーは冷や汗を流す。

須川「これにて、報告会は終わりでしょうかね」

明久「終わり？」

榊「そう言えばもうこんな時間か」

そう言う須川に榊も時間を確認して言う。

誰もが終わったと各々に立ち上がる。

サンダーダランピア「それじゃあこちらも戻るツス！」

雄二「おう」

京谷「そうだな」

そう言つて部屋を出ようとして：

ヨツシー「どうもハチ公です」

蜂の恰好をして座つて像の様な感じのヨツシーがいた。

明久「ぶふw」

雄二「ハチ公つてw」

秀吉「忠犬ハチ公ではないのかw」

ティーチ「ぶくくつw」

はやて「あ、あかんわw」

榊「ぶふつw」

京谷「ぶはつw」

純「www」

デアーン！

全員、OUT！

待ち伏せの笑いに誰もが思わず笑つてしまう、

ケツを叩く集団と共にインペラーが来て…

パシーン！

インペラー「ふん！」

パシーン！

ティーチ「ぬおおお!!？」

ティーチのケツへとタイキックを炸裂させる。

明久「宣言通り；」

純「大変だね；」

榊「南無…；」

その様子に誰もが冷や汗を掻く。

ティーチ「待ち伏せもあるのが笑ってはいけませんな；」

京谷「そうだな」

秀吉「次は何か来るか警戒しないといけんのう…」

そう会話しながら歩いてると…

明久「ぶふ!?!w」

デデーン！

明久、OUT！

突然明久が笑う。

雄二「どうした明久!？」

榊「何だ?!」

いきなりの事に誰もが明久を見て、明久が震えながら指さした方を見る。

つ、イツツミーマリオの笑える変顔

雄二「ぶっw」

秀吉「これは酷いw」

ティーチ「ははははははははははw」

はやて「あ、あかんわw」

榊「ぶはははははw w w w w」

京谷「あはははははははははw w w w w」

純「こ、これは無理w w あははははははははw w w w w」

デデーン!

明久以外、OUT!

その変顔に明久以外も笑う。

パシーン!

パシーン!

明久「せ、先生……凄く笑わせに来たな……」

雄二「あれは卑怯だぜ……」

純「卑怯すぎる……」

榊「全くだぜ……」

誰もが絵のにそう言うのであった。

マリオ&ヨッシー「いえーい！」

ルイーダ「変顔のをやってると思つたらこの為だったのね；」

鬼矢「よくやるぜ……」

乃亞「さてそろそろ終盤か」

そんな明久達の様子にハイタッチする仕掛け人のマリオとヨッシーに鬼矢は呆れる
中で乃亞がそう言う。

おそ松「おう、ガキ使で定番とも言える夜のあれであるからな」

トド松「ホント驚きのネタは色々と凄いやね」

美陽「そうよねー」

咲「ホント驚くわよねあれは」

狂治「それでは行ってきますデス！」

エアル「頑張りましょう主！」

悪の科学者役なので準備に移る狂治に同じ様に美人な助手の恰好をしたエアルはふんす！と気合を入れて言う。

次回…笑ってはいけない最終回！何が待ち受けているのか！！

驚いてはいけないから終了まで 前半

狂治「ではスタートデス！」

その言葉と共に明久達の所のテレビに映像が入る。

明久「え、何？」

雄二「時間的にあれか？」

榊「あれだよな」

その言葉と共に明久達の所が暗くなる。

はやて「うわ、なんか暗くなった!？」

ティーチ「なんでござりますか!？」

純「これってまさか!？」

京谷「うおう!？」

誰もが暗くなった事に驚く中でしばらくして電気が付く。

明久「今のは一体……」

榊「あ、おい！」

戸惑う明久の後に榊が何かに気づく。

ティーチ「どうしたでござる榊氏!？」

榊「何人かなくなってるぞ!？」

京谷「あ、確かに！」

この場に明久、ティーチ、榊、京谷しかいない。

誰もが戸惑っているテレビに映像が入る。

明久「え、何？」

京谷「なんか映ったぞ？」

4人はテレビを見る。

狂治『どうもデス皆さん』

そう言つて狂治が映る。

服装から見て榊はあつ！と声を上げる。

榊「悪い科学者役か！」

ティーチ「それつてつまり……」

京谷「驚いてはいけないつて奴か！」

そんな4人の反応にカメラで見てるのか満足そうに狂治は笑つた後に言う。

狂治『はいデス。なので例のごとく何人か拐わせてもらいました』
そう言つてカメラが移動し…

雄二『うおおおお!!! よるなああああああ!!!』

LOVEズに迫られてる雄二が映る。

ティーチ「なんか放送事故直前な事になりかけてるううううう!!」

榊「雄二いいいいいい!!」

京谷「大変だぞおい;」

それにティーチと榊は絶叫し、京谷が呟いてる間にLOVEズは他の面々により撤収させられ、狂治は咳払いして気を取り直す。

狂治『えー他のメンバーはこちらデス』

その言葉の後に縛られて転がっているはやて達の姿があった。

はやて『い、何時の間に;』

純『う、動けない…』

明久「あの一瞬で…」

京谷「一体誰が…」

と疑問を感じていると狂治と縛られてるメンバーの後ろでピースしているガタツクとカブトが見えて、あの人等か!と気づく。

榊「なんだ!？」

CO₂ガスが噴出して4人は驚く。

明久「ビツクリした!」

ティーチ「これも定番でしたな!」

榊「だな!」

誰もがふーと息を吐いた後に扉を開けて廊下に出る。

ちなみに明久達がいた部屋は3階にある。

一同は降りる為に階段へと向かう。

明久「うーん。暗いと不気味だな」

京谷「そうだな…」

恐る恐る進みながら4人は前方を照らして歩く。

すると…

榊「ん?なんだありや?」

明久「何か見つけたの?」

何かに気づく榊に明久は榊が見ている方を見る。

ティーチ「あれは…」

京谷「棺桶か?」

棺桶に誰もが警戒しながら近づく。

ガタガタツ!

榊「うおっ!?!」

すると棺桶が揺れ始める。

誰もが慌てて後ずさり：

芳香「あー！」

現れたのが芳香なのに誰もがよろける。

明久「そこキョンシー——!?!」

榊「ドラキュラじゃないのかよー!?!」

それには4人は別の意味で驚いた。

芳香「どうだくくくく驚いたかくくくく」

ティーチ「別の意味で驚きましたぞ！」

京谷「確かにな！」

そういう芳香にティーチはツツコミを入れる。

芳香「青娥くやつたぞく驚かしたぞく」

そんなのを気にせず、芳香は歩いて行く。

明久「うーんなんとと言うか開幕驚きはしたけど別のインパクトが強かったなホント

…
」

榊 「そうだな…:」

京谷 「取りあえず進もうぜ」

ティーチ 「ですな」

見送った後に4人は歩き出す。

ズリリリリリリリリン!

しばらく歩いていると昔の置き型電話の音が聞こえて来る。

明久 「これは…:」

榊 「昔の電話か?」

聞こえてくる方へと速足で向かうと昔懐かしの黒電話があつた。

ティーチ 「誰が出ます?」

京谷 「んじや俺が…:」

ガッ!

京谷 「うお!?!」

ブチッ!

明久&ティーチ&榊 「あつ」

出ようとした京谷は誤つて電話線に足を引っかけてしまい、そのまま倒れると共に運

悪く電話線が切れてしまう。

それにより黒電話も静かになる。

明久「えつと……」

榊「切れちやつたな……電話線」

ティーチ「これ……普通にやつちまつたーですな」

京谷「あー……悪い」

これにどうしようか……と誰もが思っていると京谷の懐からブーブーと言う音が聞こえる。

京谷「ん？」

なんだ？と京谷はブーブー言ってるスマホを取り出し、咲と書かれていたので出る。

京谷「もしもし？崎守か？」

???『どうも、咲さんのスマホを借りた黒電話で出る者です』

出てみると咲ではなく別の人物の声で京谷は驚く。

???『黒電話の受話器を持って貰えませんか？』

京谷「受話器を？」

そう指示されて京谷は左手で受話器を持つ。

???『持ちましたね？では質問なんですが……何かを破いた際に流れる音は？』

京谷「え？それってビリビリだろ？」

質問に対して京谷はなんで当たり前のを？と思つた時：

ビリビリっ！（電撃）

京谷「あばばばばばばばばばば」

すると持つていた受話器から電撃が流れて京谷は受話器を手放す。

???『どうもー』

ツーツーツー：

明久「大丈夫京谷；」

京谷「こ、こういう仕掛けかよ：」

ティーチ「答えた事で電撃が走る。アルアルですな；」

榊「確かにあるな；」

うのおおおお：と左手を抑える京谷を見て言うティーチに榊も同意する。

ティーチ「んで、丁度階段があるのでここから降りますな」

榊「気をつけて降りないとな」

だねと頷いた後に明久は歩き出そうとして：

明久「おお!？」

つんのめりかけて慌てて踏ん張る。

京谷「どうした明久!」

ティーチ「あ、明久氏の足元の床、粘着シートが敷き詰められておりますぞ!」
それに3人は驚いた後にティーチが気づいて指摘する。

確かに階段へ向かう通路に粘着シートが敷き詰められている。

榎「い、何時の間に:」

明久「夜の間敷き詰めたのかな? ;」

なんとか粘着シートを剥がそうと足を振るいながら明久は言う。

ティーチ「剥がしましょうか?」

明久「お願いします ;」

京谷「時間かかるぞこれ?」

そう申し出るティーチに明久は受けるのを見ながら京谷は呟いていると榎が看板を見てるのに気づく。

京谷「ん? 何見ているんだ榎」

榎「ああ、看板あつたから見てた。この先にしりとりでものが置かれてるからそれを読み上げながら進めだつてよ」

聞く京谷に榎はそう答える。

何があるのだろうかとうと粘着シートを外した明久とティーチは首を傾げる中で進んでみ

る。

明久「えつと…イガグリ」

榊「林檎」

置かれていたのを言っ行って行き…

ティーチ「えつと…ゴモラ？」

ゴモラ「ギャオオオオオオオン!!」

次のを言った瞬間にゴモラが動き出す。

京谷「動いた!？」

明久「逃げよう！」

慌てて4人は駆け降りる。

ティーチ「あ、ランプ！」

???「プリプリ〜ン」

そして降りるといたのは…

榊「プリン!？」

ポケモンのプリンがいたのに4人は驚いた後にプリンはマイクを持って…

プリン「ぶ〜ぶぷり〜」

カーン!

歌いだそうとしたら鐘が鳴って、誰もがあららとつんのめる。

そしてプリンも邪魔されたのでプーとなった後：

プリン「プリプリプリプリプリプリ!!」

ティーチ「なんで拙者!?!」

ティーチへと怒りの往復ビンタを炸裂させた。

榊「つかさつきの鐘なんだ!?!」

明久「歌を止めさせる為とか? ;」

京谷「計算通りってことか」

鐘について呟く榊に明久は推測を言い、京谷は呟く。

プリン「プイ!」

ティーチ「と言うか拙者：普通にビンタされ損な気がする」

ふんすかと去るプリンから目を放して頬を膨らませたティーチがそう言う。

明久「ぶふw」

榊「頬真っ赤ww」

京谷「大丈夫かww」

ティーチ「氷あつたら冷やしたいでござる」

それには思わず3人は笑い、ティーチはそう言う。

とにかく降りるのを再開して1階へと降りる。

明久「このまま進めば見取り図がある部屋まで行けるね」

榊「進めればな…」

そう言つて誰もが歩いて…

ぷうくくくくくく！

京谷「うおおおおお！」

いきなりの音に京谷は驚く。

ティーチ「すまんでござる。拙者のおならでござる」

京谷「すんなよ！」

榊「びつくりしただろうが！」

明久「暗い所だと本当にいきなりの音は驚くよね；

謝るティーチに京谷と榊は文句を言い、明久はそう言う。

ちなみに…

京谷『うおおおおお！』

狂治「おーおー、驚いているようデースね」

エアル「そうですね主」

驚く様子の京谷に狂治とエアルは楽しそうに見ていた。

まあ、仕掛けではなく、別ので起こった驚きであるが……
戻って明久達……

しばらく歩いていると……

明久「ひやあああああああああ!!？」

榎「うおおお!!？」

いきなり明久が悲鳴を上げたので3人は驚く、

ティーチ「ど、どうしたでござりまするか明久氏！」

明久「な、なんか背中に氷を入れられた」

京谷「氷を？」

榎「一体どうやって……」

答える明久のに3人は首を傾げた時……

ひとり……

榎「ぬおっ!!？」

京谷「うおっ!!？」

今度は榎と京谷が悲鳴を上げる。

ティーチ「今度はお2人でござるか!!？」

京谷「なんか顔についたぞ!!？」

榊「これ、こんにやくか!？」

自分達に来たのがなんなのかに気づいてマジでどこから来たんだ!？」と4人は驚く。

おそ松「おうおう、効果てきめんだね」

鬼矢「そうだな」

そんな驚きまくっている4人におそ松は笑い、仕掛け人である紫姿の鬼矢も同意する。

おそ松「いやー、ホントこういう系のに向いてるなあんたの能力」

鬼矢「まあな。さて次は……」

そう言つて次の準備に入る。

明久「もうそろそろで着きそうだね」

ティーチ「さっきのはめっちゃ不意打ちでしたな」

榊「全くだぜ……」

京谷「一体誰が仕掛けたんだか……」

しばらく歩いているとまていと言う呼び止める声が出て振り返る。

いたのは……セクシーな恰好をした赤セイバーとキヤス狐であった。

赤セイバー「セクシーランボーのネロである!」

キヤス狐「同じく、セクシーランボーの玉藻ですわ♪」

明久「あれって!？」

ティーチ「本家でもあったのですな！」

榊「ああ、あれか！」

京谷「マジかー；」

それに4人が驚く中で2人は持っていたマシンガンの引き金を引く。

パンパンパンパン!

明久「わたたたたたた!？」

ティーチ「火花!？」

京谷「ぬおっ!？」

榊「うおっ!？」

それにより4人の周囲に火花が迸る。

明久「ビツクリした…」

榊「驚いた…」

ふうーと息を吐く明久に赤セイバーとキヤス狐は近寄る。

赤セイバー「なあなあ奏者よ。どうだ余の姿は」

キヤス狐「恥ずかしいのですがご主人様に見せたかったのでどうでしょう?」

詰め寄る2人に明久はえーとと呟いてから…

明久「えーと似合ってるけど、お腹を出し過ぎると冷えちゃうよ」

ティーチ&榊&京谷「オカンか！」

赤セイバー「うぬぬ、やはり奏者はそっちに行くか」

キヤス狐「やはり難しいですわね」

アーチャー「君達、終わったのだから早く行くぞ」

感想に3人は叫び、残念がる2人をアーチャーは引きずって行く。

明久「ちゃんと着替えるんだよ」

榊「ホント明久は明久だな」

京谷「だな」

そう言う明久に誰もが呆れる。

と言う訳で目的の場所に着き、明久が扉を開けようとして…

バチーン!!

明久「あばばばばばば…」

ティーチ「あ、痺れた」

京谷「電気が流れているのか」

榊「これも定番だな」

手を抑えてしゃがみ込む明久を見ながら各々に眩いた後に部屋に入る。

色々と置かれてる中で宝箱が置かれている。

明久「あれかな？」

京谷「開けてみるか」

代表でティーチが開けようとして：

ビリッ！

ティーチ「あ、しびれびれ!!!」

榊「また電気!?!」

手を抑えるティーチに榊は驚いた後に箱は開く。

中には…ボタンがあつた。

明久「ボタンだ」

京谷「何のボタンだ？」

誰もがボタンに警戒する中で明久は押した方が良いかなと3人を見る。

ティーチ「やつぱ押すべきでしょうかね…」

京谷「だろうな…」

榊「じゃんけんで決めるか」

それでいつかと榊の提案に乗って4人はジャンケンで決めた結果…

明久「僕かー」

決まったので3人が離れた場所で見守る中で明久はボタンに手を置く。

明久「せーの！」

ポチっ！

押された後に：

ぶしゅーーーーーー！！！！

明久にCO₂ガスが噴射される。

榊「やっぱり罠か」

京谷「大丈夫か明久？」

それに驚きながら京谷は話しかける。

明久の運命は：

驚いてはいけないから終了まで 後半

前回、ボタンを押した事でガスを受けた明久：

振り返った明久に：……3人は嘔いた。

なぜなら：明久の顔に紙が貼りついていて、その紙が変顔であった。

明久「前が見えない」

ティーチ「ぶふw」

京谷「ぶつww」

榊「ぶはつww」

それに思わず笑ってしまい、誰もが笑いに震える。

明久「ねえ、ちよつと、誰か顔についてるの剥がして；」

榊「あー分かった」

ベリッ

そうお願いする明久に笑い終えた榊が取って上げる。

その後にティーチは明久に張り付いていた方を見て声を上げる。

ティーチ「あ、これ、裏側、見取り図ですぞ」

京谷「え？」

確認すると、確かにある一点がマーキングされている見取り図であった。

明久「これもまた驚きだね；」

榊「確かにな」

そう呟く明久に榊が同意した後に見取り図を確認する。

マーキングされているのは丁度捕まっつてはいけないで使用されていた場所付近であつた。

明久「あそこなんだ」

京谷「早速行ってみるか」

と言う訳で4人は移動を開始した。

外に出ると：

沖田「ほら、近藤さん。ちゃんと移動しましょうぜ」

ドンキー「ウホ」

そう言いながら歩く沖田とドンキーが通過する。

明久「ぶふw」

ティーチ「ゴリラネタw」

榊「ゴリラw」

京谷「ぶはっww」

それには思わず4人は笑うとドンキーはピタリと止まり：

ドンキー「笑ったな〜」

振り向いて怖い顔を見せる。

明久&ティーチ「わあああああああ!?!」

榊&京谷「ぬおおおおおおお!?!」

それに4人は絶叫して走る。

ドンキー「うお〜」

明久「追いかけて来た!」

榊「逃げるぞ!」

追いかけて来るドンキーに誰もが必死に足を動かす。

ティーチ「まだ追ってきませんぞ!」

京谷「どうする!?!」

誰もが必死に走っているとドンキーは途中から曲がって行く。

それに気づかないまま4人は目的地の場所まで着く。

明久「ひ、必死に走っている間に着いちやったね;」

榊「そうだな;」

とにかく、目的地の付いたので扉を開ける。

雄二「おお、明久！」

秀吉「ま、待ってたのじゃ」

純「助けてー」

すると縛られた4人がおり、急いで明久達は縄をほどきにかかる。

はやて「いやゝ助かったわゝ」

秀吉「全くじゃな」

榊「さて三人を助けたら次は……」

雄二「おい、ナチユラルに俺を省くな。まあ、脱出だろうな」

はやて、秀吉、純を見て言う榊に雄二はツツコミを入れた後にさういう。

明久「だね」

純「んじゃ、脱出する……」

か……と純が言おうとした時……

別の場所

狂治「捕獲成功デース」

エアル「そうですね主」

やらない夫「安堵した所で案内役を捕まえるのもまた良いんだが……」

やる夫「あれは良いのかお? ;」

様子を見て言う狂治とエアルに一緒に見ていたやらない夫とやる夫がそう言う。

アナ「(ガタガタブルブル)」

エウリュアレ「あらあら、そんなに震えて」

ステンノ「フリじゃないフ・リ」

縛られたアナがゴルゴン姉妹に震えてるといふ事である。

狂治「あー；それはまー……；関わらない方が良いってことで；」

やらない夫「言い切ったな。いや、俺もあの状況に関わりたくねえけど；」

やる夫「んで、どこにいて貰うんだお?」

エアル「あの場所です。あの装置の前に」

示した場所にああ、こりやあ大変だお……とやる夫は思った。

戻って明久達

出ようとした所で置かれていたテレビが突如電源が付く。

明久「うわ、何!？」

純「テレビがついたぞ!？」

何が来るの!?!と誰もが身構える。

狂治『どうもデース！みなさーん！』

京谷「あ、狂治！」

映った狂治に誰もが見る中で狂治は言う。

狂治『いやー見事救出成功したみたいデースね』

雄二「おう、助けられたぜ」

榎「あとは此処から逃げるだけだぜ？」

そう言う榎のに狂治はふっふっふっ！と笑う。

狂治「見事に引つかかってくれました！おかげでこっちは作戦に成功しましたデース
！」

秀吉「作戦じゃと？」

ティーチ「あ、もしかして!？」

京谷「本当の目的は…」

首を傾げる秀吉だがティーチと京谷はすぐさま察する。

狂治『はいデース！皆さんがそちらに集中していたおかげで』

エアル『彼女たちの捕獲に成功しました』

そう言つて映し出されたのは…

メドゥーサ『あー、色々と落ち着きます』

アナ「(・ω・)」

サンダーダランピアSD『子供と大人の同一人物同士が並ぶと凄いツスね』

ブラックキングSD『せやな』

ほにやりとしたメドゥーサに抱き締められてるなんとも言えない顔をしたアナと鳥かごに入れられた2匹であった。

ティーチ「また放送事故みたいなのが起きてるうううう!!」

純「え?そう?」

ガチヨーンとなるティーチに純に首を傾げる。

メドゥーサ『と言う訳でどこに監禁したかはその部屋の中に隠してるのでよく探してください』

雄二「あんたが言うのかよ!」

榊「まあ取り敢えず探そうぜ;」

その言葉を残してテレビが消える中で雄二はツツコミを入れてる間に榊がそう言う。と言う訳で監禁場所を示したの探す為に部屋の中を探る。

はやて「あ、これかな?」

少ししてはやてが置かれてる箱に気づいて手を伸ばし:

バチッ!

はやて「うのおおおおお……」

純「静電気か！」

京谷「大丈夫かはやてさん!？」

伸ばした手を抑えてうづくまるはやてに誰もが駆け寄る。
はやて「こ、これは効くでほんま……」

明久「確かに；」

純「いきなりだもんね；」

抑えながらそういうのはやてに誰もがうんうんと頷く。

榊「おい、これじゃねえか？」

京谷「え？」

すると榊が開けて出て来たのを取り出す。

確かにそれは見取り図で別の場所をマーキングしていた。

明久「ビンゴだね」

純「それじゃあ早速行こうか」

と言う訳で早速記された場所へと向かう。

その途中……

雄二「ん？なんだあれ？」

榊「ん？」

雄二が何かを見つけて誰も、がそちらを見る。

キアラ「1枚、2枚、3枚、4枚……」

そこには何かを数えているキアラがいた。

榊&京谷「あ、最近ラスボスになったキアラだ」

純「あー人類悪になったね；」

秀吉「と言うか何を数えておるのじゃ；」

そう言う榊と京谷と純の後に秀吉はそう呟く。

誰もが気になったので近寄って見る。

そこにあつたのは……様々な恰好をしたアンデルセンであつた。

雄二「(フォックスだな)」

榊「猫だな」

京谷「犬だな」

各々に言う中でキアラはピタリと止まる。

キアラ「1枚足りない……その人達……その一枚を知りませんか？」

そう言つて振り返つたキアラの顔は血を流していて怖かつた。

明久「ひぎやあああああああああああ!?!」

それを聞いて言うアンデルセンに乃亞も同意しようとして花火を見つける。

乃亞「何でこんなところに花火が？」

キアラ「あら？こちらにもありますわよ？」

アンデルセン「こつちにもあるぞ？」

するとキアラとアンデルセンも同じように見つけて、ムッツリーニも発見する。

乃亞「どういうことだ？ここも爆破するとは台本には……」

ペラペラペラ

するとどこからともなく紙が飛んで来て、ムッツリーニはそれを掴んで読む。

ムッツリーニ「……………」『近日、此処を立て直すためにラストはこの仮基地も花火で

綺麗に爆破するので早めに避難するように』

アンデルセン「よし逃げるぞ」

すぐさま出て来た言葉に誰もが駆け出す。

乃亞「ああ、だから妙に古い建物だったんだな此処！多少補修工事したけど！」

キアラ「あと部屋も空っぽになっているのが多々ありますわね」

ムッツリーニ「……ちなみにデパート風の基地に立て直すらしいぞ」

アンデルセン「それはまたお買い物をしたくなる様な所だな！」

そう会話しながら走る。

一方の知らない明久達はキヤトラともどもぜえぜえしていた。
キヤトラ「はあはあ…色々と怖かったわ」

はやて「ほ、ほんまやな；」

榊「つてちよつと待て……」

京谷「なんでキヤトラが此処にいるんだ!？」

混ぜつっているキヤトラに榊と京谷はツツコミを入れる。

キヤトラ「後ろから驚かせようとしたらキアラので驚いたのよ!」

雄二「んでつい一緒に逃げて来たつてか；」

純「つてここ、外みたいだよ？」

理由に雄二が呆れる中で純が気づいて言う。

はやて「あらー、何時の間にか出てたんやな」

ティーチ「それだけ怖かったんでござるな」

京谷「まあさっきのはな…」

榊「あ、おいあれ!」

すると榊が何かに気づく。

誰もが榊の見ている方を見る。

秀吉「あれは…」

京谷「なんかデカいのがあるな」

榊「その前にアナ達が居るぞ！」

確かに2人の言う通り、巨大な何かがあつて、その前にアナ達がいた。

ブラックキングSD「おーいはよ来てくれ！」

サンダーダランピアSD「マジ待ってたっス！」

純「今助けるよ」

キヤトラ「ようし！進め進め進め！」

そのままメンバーはアナ達へと近づく。

アナ「早く解いてください。結構疲れるので」

榊「わかったわかった。よつと」

急かされる中で榊がアナのロープを解く。

別の場所

狂治「さて、では起動させますヨ？エアル」

エアル「はい、主」

そう指示する狂治にエアルは前後に倒すレバーを取り出し、狂治はレバーを握り…

狂治「起動デス！」

ガシヤンと前に倒す。

ゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴ……

明久「何々!?!」

はやて「何が起こるんや!?!」

京谷「お、おい!あれ!」

純「え?」

いきなりののに誰もが驚く中で京谷の言葉に誰もが京谷の指す方を見る。

見えたのは……

京谷「なんじやありやああ!?!」

巨大な……キヤトラタンクであった。

明久「でかあああああああああ!?!説明不要!?!」

キヤトラ「にぎやあああああああ!?!もしかして寸法されたのあれの作成の為

!?!」

榊「嘘だおろおおお!?!」

純「に、逃げるよ!」

現れたそれには誰もが驚いた後に一生懸命に走る。

にぎやあにぎやあにぎやあ!!

後ろからの声にティーチは振り返ると：巨大キャトラタンク以外にヌイグルミなキャトラ軍団が走って来る。

ティーチ「さらに来たアアアアアアアアアアアア!?!」

京谷「なんだありやあああああああ!?!」

狂治「花火、点火!」

それに誰もが驚いている間に狂治は続いているのを押す。

ドカーーーーン!!

明久「何事!?!」

純「爆発!?!」

いきなりの爆発音に驚いている間に次々と爆発が起こり、花火が舞い踊る。

雄二「確かに爆発とかあつたけどよ!?!」

榊「これちよつとヤバくね!?!」

確かに本家よりなぜか爆発の大きい気がする。

ティーチ「確かにちよいと爆発の大きい様な気がしますぞ!」

純「と言うか建物も爆発してるよ!?!」

えええええええ!?!と誰もが起こってるのに驚きながら駆け抜ける。

しばらくして…

明久「ええ…」

榊「マジか…」

目の前の更地となった舞台に啞然とする。

雄二「本家よりやり過ぎだろ…」

秀吉「じゃな」

京谷「確かに；」

純「と言うかここまでしていいの；」

誰もがその結果に冷や汗を掻く中で長谷部が来る。

長谷部「それなら大丈夫だ。近日此処、立て直すつもりだったから」

はやて「え？立て直すってどう言う事ですか？」

出て来た言葉にはやては聞く。

長谷部「あんないかにも基地つて感じで最近怪しまれてからな。デパート風の基地に

立て直すんだよ」

雄二「もしかして笑ってはいけないをやったのはそのついでってか？」

そう説明する長谷部に雄二は呆れた感じに聞く。

長谷部「まあそうだ」

榊「そうだったのか；」

うわあおお：と誰もが冷や汗を掻く。

明久「ひやひやさせ過ぎですよ；」

ティーチ「マジビビりましたな」

榊「吃驚したぜ；」

長谷部「ああ、悪い悪い」

はあく息を吐く面々に長谷部は謝罪する。

ブラックキングSD「まあ、何はともあれ！」

サンダーダランビアSD「笑ってはいけないは終了ッス！」

明久「終わったー」

京谷「やつとかー」

純「はあー」

誰もがまた安堵の息を吐く。

アナ「ホントお疲れ様です」

雄二「全くだな」

秀吉「うむ」

榊「やつと終わったぜ；」

誰もがふうと息を吐く。

はやて「尻がマジ痛いなく」

ティーチ「ですな」

京谷「一体それぞれ何回叩かれたんだ？」

純「えつと……」

キヤトラ「それは後で発表されるからお楽しみね」

数えようとした純にキヤトラはそう言う。

雄二「まあ、マジ笑ったな」

榊「ああ、そうだな」

そう会話した後それぞれ背伸びする。

明久「とにかく、お疲れ様」

秀吉「うむ、お疲れじゃな」

京谷「お疲れー」

純「お疲れさん」

雄二「お疲れさん」

ティーチ「お疲れ様でござる」

はやて「お疲れさん」

榊 「お疲れ様だぜ！」

それぞれが労いの言葉をかけて笑ってはいけないは終わった。

後日、更地は財団Xの技術で立派なデパートが立っていたのであった。